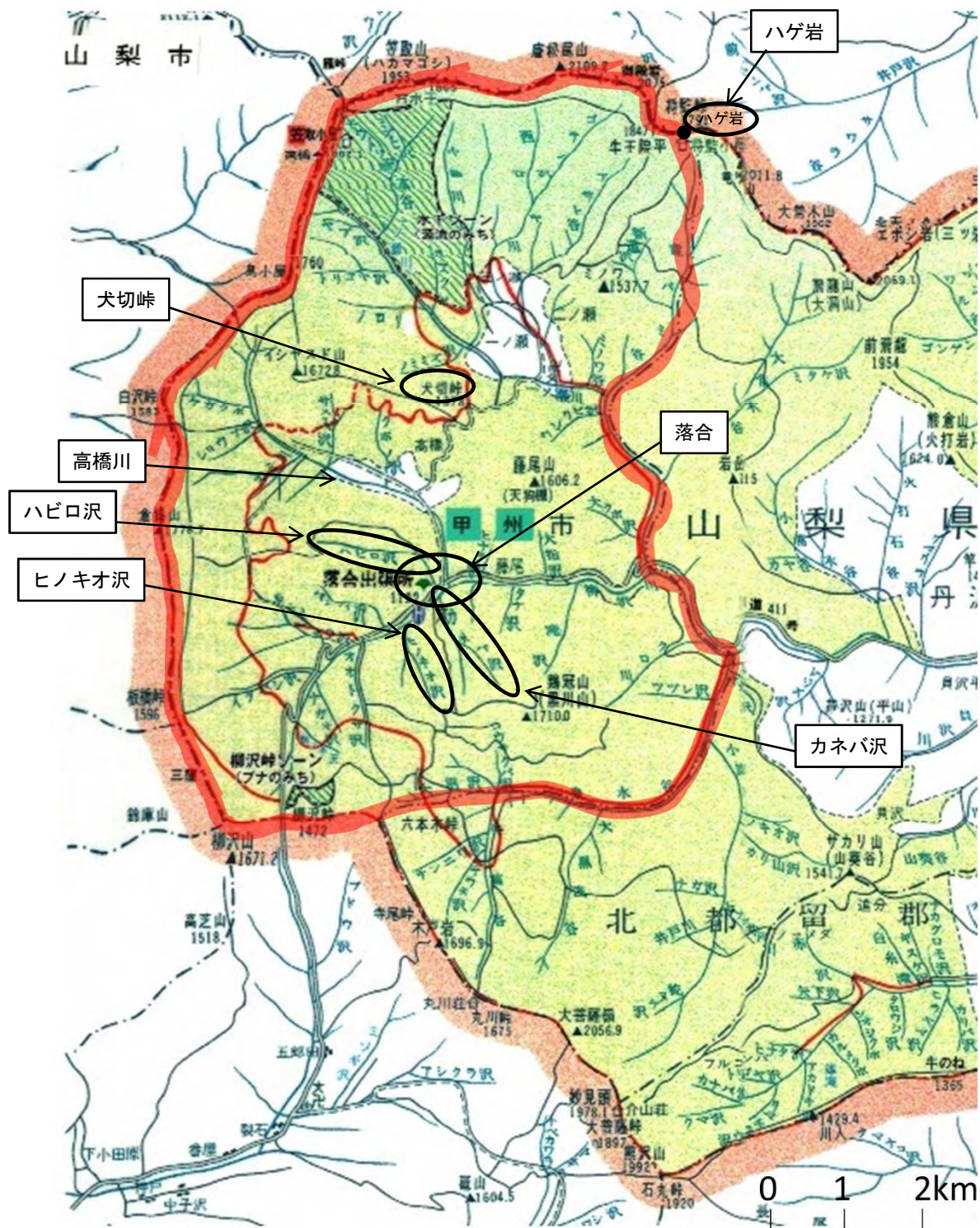


3. 諸 戸 博 士

3.1 萩原山地区

萩原山地区の中で写真の撮影位置の特定が可能な溪流・地域を黒丸で囲った。なお、高橋鶏冠神社については位置の特定ができなかった。



萩原山地区 写真撮影位置図

「水道水源林 100 年史, 東京都水道局, 2001, p. 24-25」の地図に一部加筆



R022 水神社 奥宮拝殿前(昭和5年10月30日)
[写真中央が諸戸博士]



R034 ハビロ沢 量水堰堤 砂防講習生(撮影時期不明)
[右岸袖部 前列左から7人目が諸戸博士]



R064 シシネド沢 石堰堤(施工中)[左から2人目が諸戸博士](大正5年12月)
 【諸戸北郎博士収集写真集 1010 と同一写真】



R046 ハビロ沢 石堰堤 砂防工事視察学生と諸戸博士(大正15年3月21日)
 [左から4人目が諸戸博士]



R085 カネバ沢 量水堰堤(改築中)(昭和4年8月11日)[左から4人目が諸戸博士]
【砂防8号, 45p, 8月11日に関連記事あり】



R095 カネバ沢 石堰堤(大正2年8月)[右端が諸戸博士]
諸戸北郎博士収集写真集 120 (大正6年8月15日) と同一写真



R096 カネバ沢 石堰堤(大正4年) [写真右側が諸戸博士]
 諸戸北郎博士収集写真集 1013 と同一写真



R102 高橋川 量水堰堤 諸戸博士(撮影時期不明)
 諸戸北郎博士収集写真集 1032 (撮影時期不明) と同一写真



R128 ヒノキオ沢 石堰堤（昭和4年8月12日）[写真中央が諸戸博士]
 【砂防8号, 45p, 8月11日に関連記事あり】



R145 犬切峠 諸戸博士・大学生の砂防視察(昭和2年11月24日)
 [右から2人目が諸戸博士]



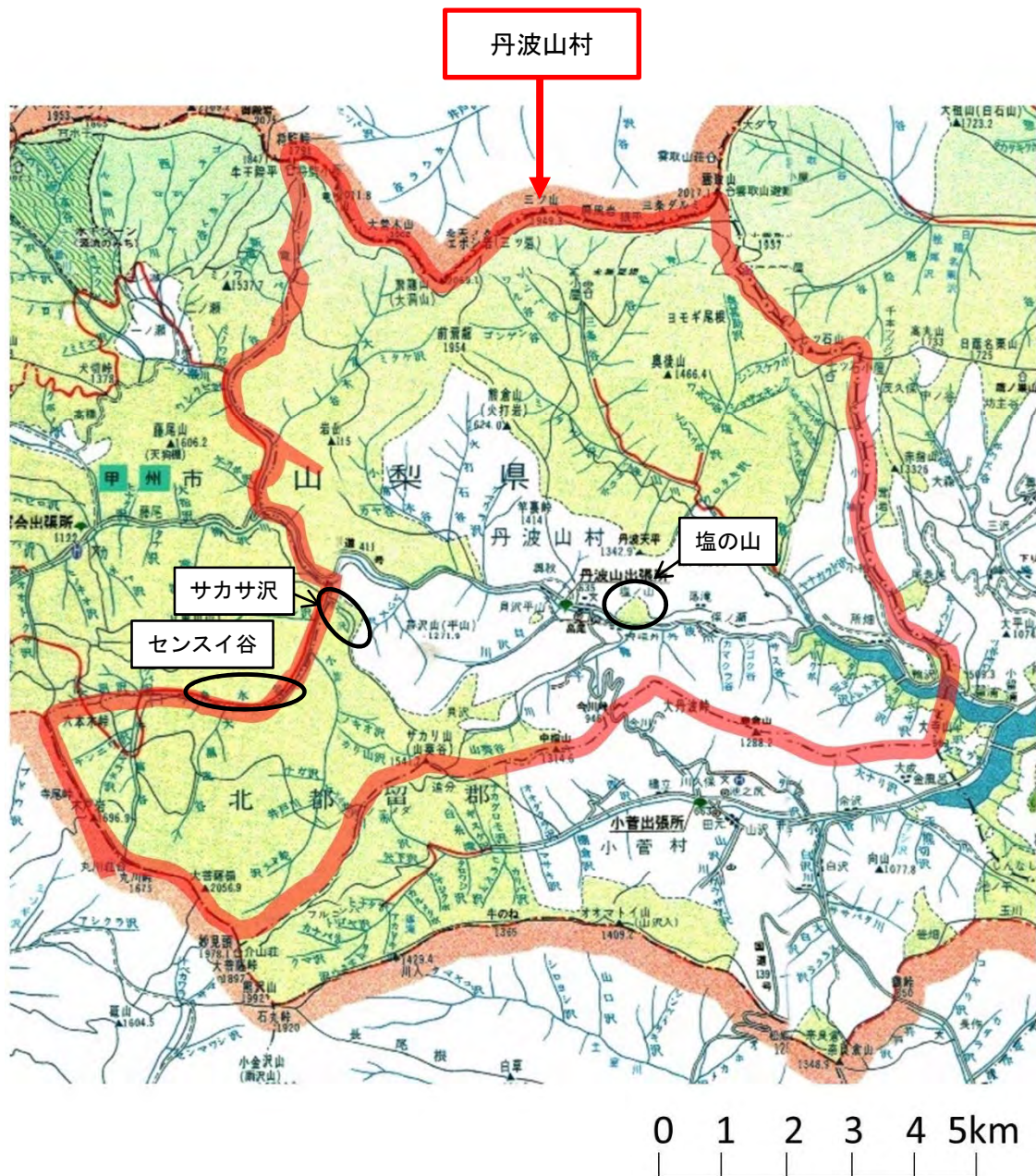
R146 ハゲ岩頂上にて 諸戸博士(昭和2年8月9日)
 諸戸北郎博士収集写真集 1371 と同一写真



R154 萩原山視察 高橋鶏冠神社にて(撮影時期不明)
 [左から5人目が諸戸博士]
 諸戸北郎博士収集写真集 134 と同一写真

3.2 丹波山村地区

丹波山村地区の中で写真の撮影位置の特定が可能な溪流・地域を黒丸で囲った。なお、倉沢口、野村屋旅館については位置の特定ができなかった。



丹波山村地区 写真撮影位置図

「水道水源林 100 年史, 東京都水道局, 2001, p. 24-25」の地図に一部加筆



R162 センスイ谷 大黒茂谷頂上 三角点 諸戸博士・大学生一行(昭和4年8月13日)
【砂防8号, 45p, 8月13日に関連記事あり】



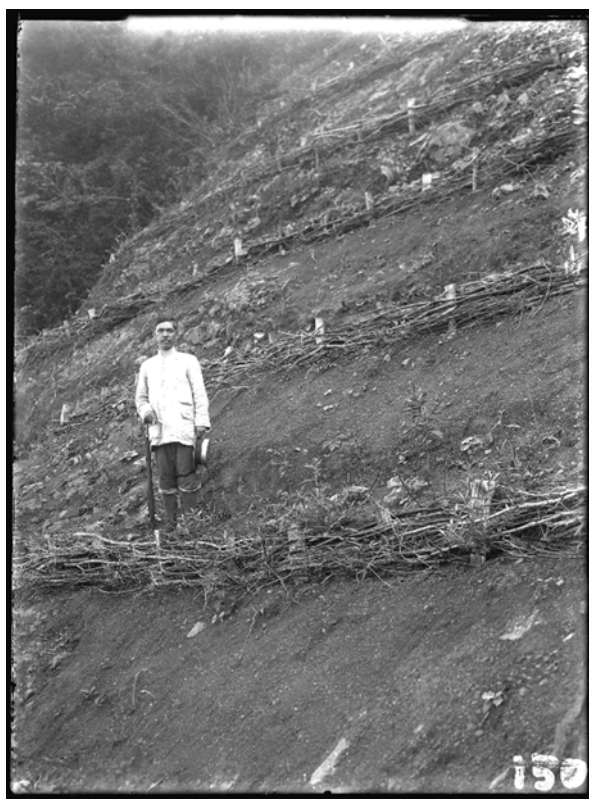
R163 センスイ谷 丸川・高原花園 (昭和4年8月13日) [左より3人目が諸戸博士]
【砂防8号, 45p, 8月13日に関連記事あり】



R167 サカサ沢 石堰堤(昭和2年10月) [左端が諸戸博士]
 諸戸北郎博士収集写真集 1041 と同一写真



R171 倉沢口(昭和11年7月22日)
 [中央左から3人目が諸戸博士]



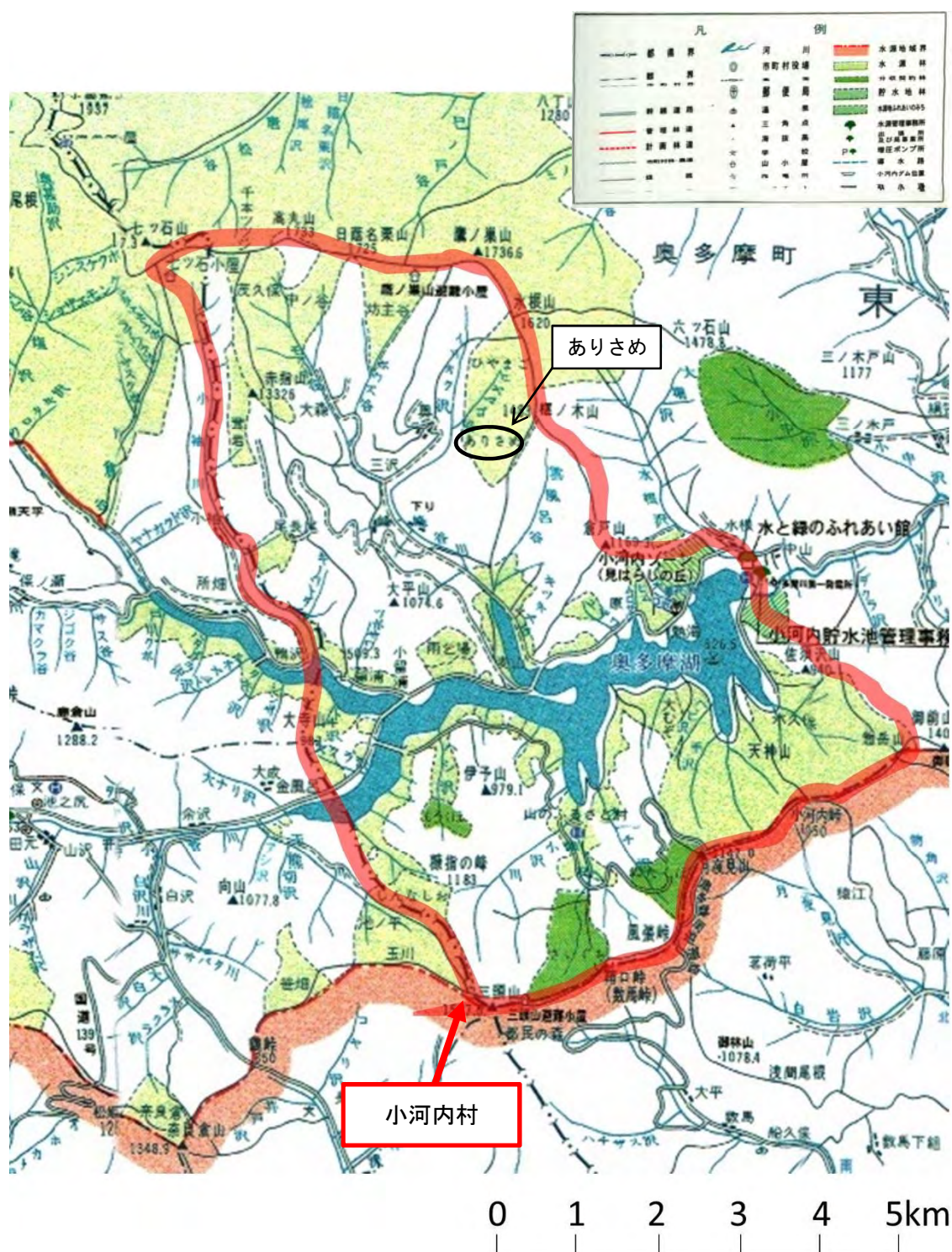
R173 塩の山 諸戸博士(昭和8年7月22日)



R177 野村屋旅館 諸戸博士一行 [左から5人目が諸戸博士]
(撮影時期不明, 写真に「5年10月29日」の文字あり)

3.3 小河内村地区

小河内村地区の中で写真の撮影位置の特定が可能な溪流・地域を黒丸で囲った。なお、ツルヤについては位置の特定ができなかった。



小河内村地区 写真撮影位置図

「水道水源林 100 年史, 東京都水道局, 2001, p. 24-25」の地図に一部加筆



R182 ありさめ 崩壊地 諸戸博士一行(昭和9年9月)[写真中央が諸戸博士]
【砂防39号, 35p, 9月19日に関連記事あり】



R215 鶴の温泉 ツルヤ支店 諸戸博士(昭和2年8月12日)
[左から2人目が諸戸博士]



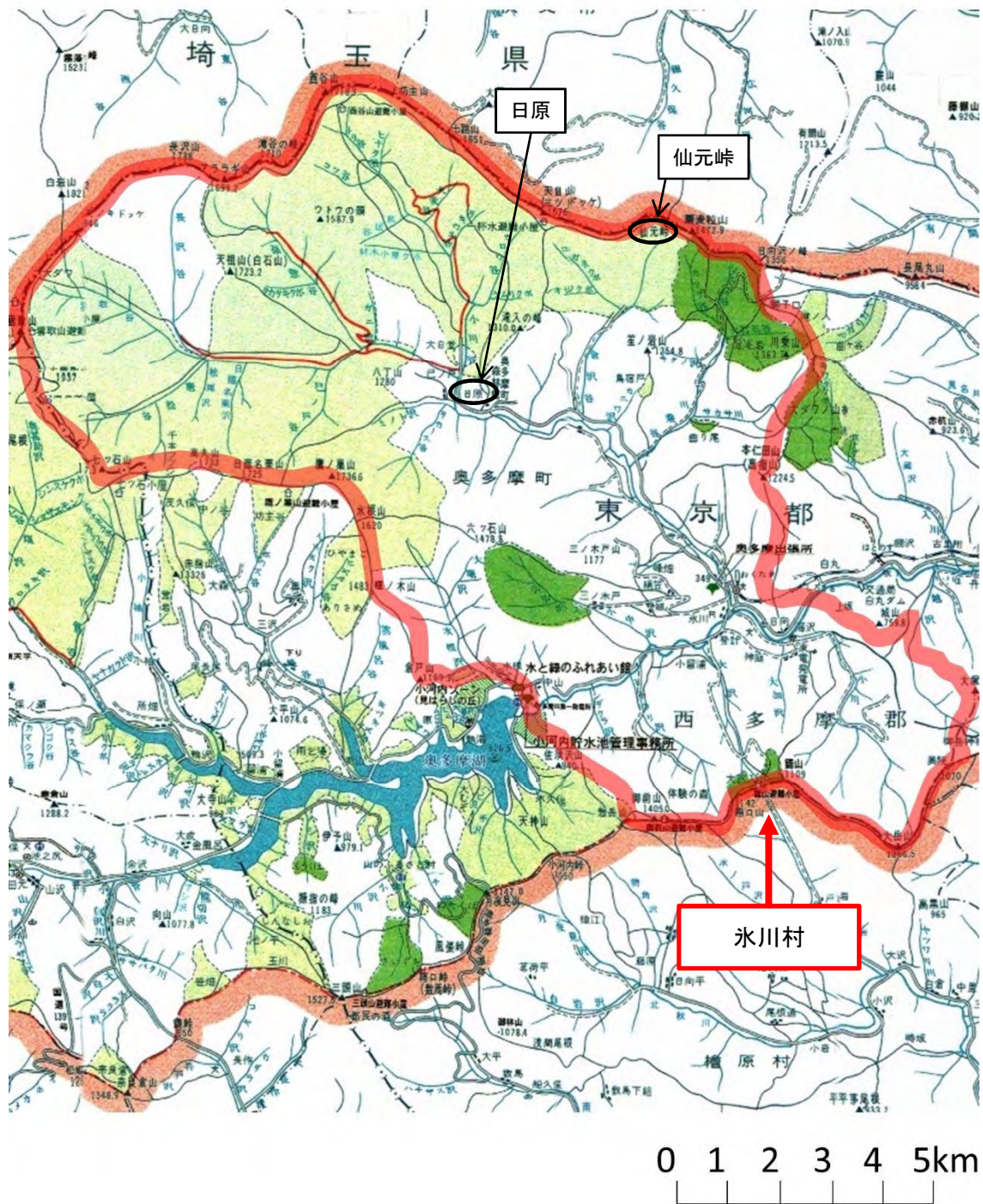
R216 ツルヤホテル 諸戸博士一行(昭和10年5月) [左から5人目が諸戸博士]
 【砂防42号, 52p, 5月6日に関連記事あり】



R217 鶴の温泉 ツルヤ本宿(撮影時期不明) [左から2人目が諸戸博士]

3.4 氷川村地区

氷川村地区の中で写真の撮影位置の特定が可能な溪流・地域を黒丸で囲った。



氷川村地区 写真撮影位置図

「水道水源林 100 年史, 東京都水道局, 2001, p. 24-25」の地図に一部加筆



R236 氷川村日原 旅館(昭和9年9月) [写真中央が諸戸博士]
【砂防39号, 35p, 9月20日に関連記事あり】



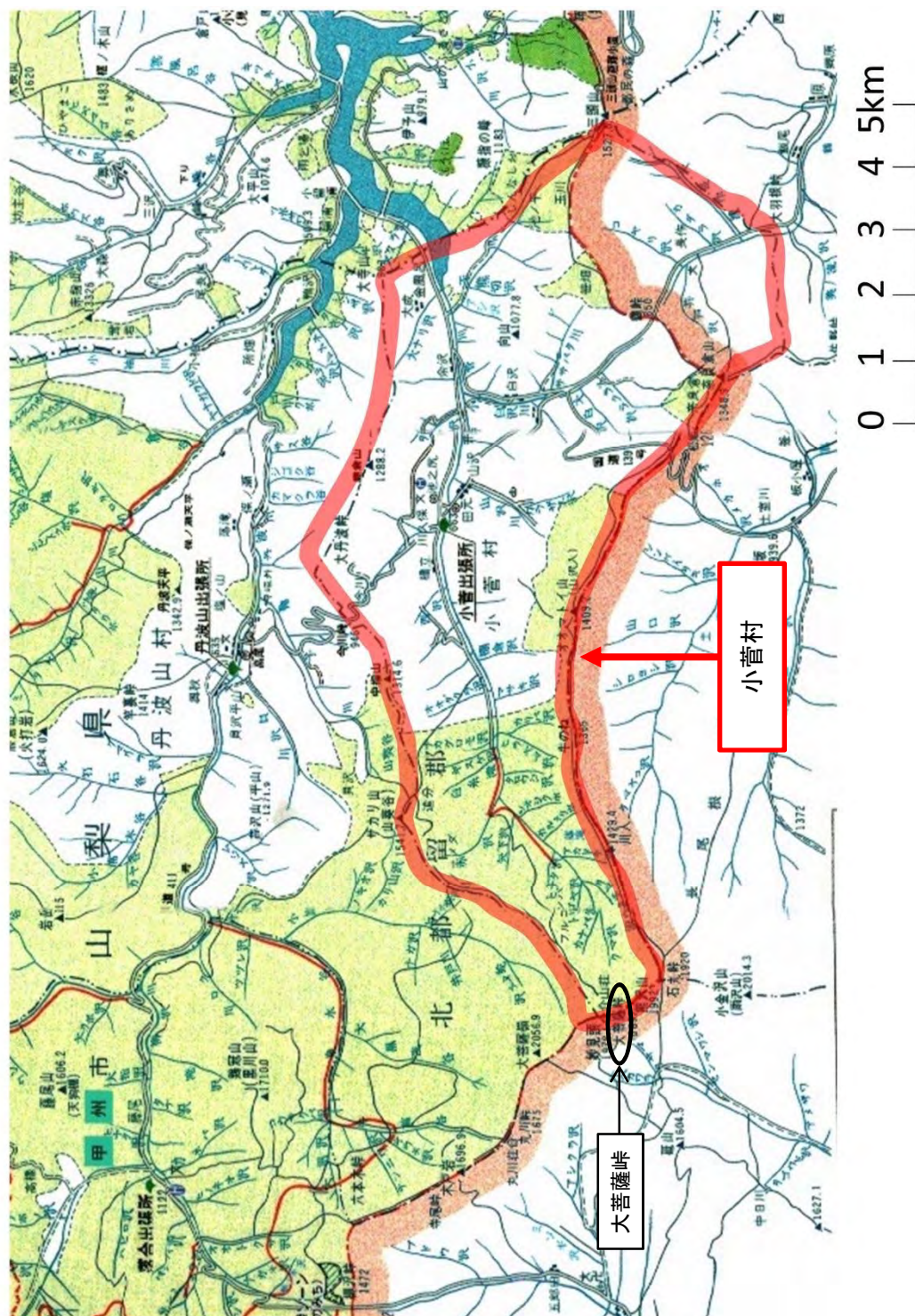
R237 日原 原島 豊氏宅前 諸戸博士一行(昭和10年5月)
[左から4人目が諸戸博士]
【砂防42号, 52p, 5月7日に関連記事あり】



R238 千代田 諸戸博士一行(昭和 10 年 5 月) [前列 左から 3 人目が諸戸博士]
【砂防 42 号, 52p, 5 月 8 日に関連記事あり】

3.5 小菅村地区

小菅村地区の中で写真の位置の特定が可能な溪流・地域を黒丸で囲った。なお、赤沢小屋については位置の特定ができなかった。



小菅村地区 写真撮影位置図

「水道水源林 100 年史, 東京都水道局, 2001, p. 24-25」の地図に一部加筆



R241 大菩薩峠(昭和4年8月13日) [右端が諸戸博士]
【砂防8号, 45p, 8月13日に関連記事あり】



R249 赤沢小屋 諸戸博士一行(昭和9年9月) [左端が諸戸博士]
【砂防39号, 34p, 9月18日に関連記事あり】

3.6 御岳



R275 オジカエン 諸戸博士一行(昭和 10 年 5 月) [写真中央が諸戸博士]
【砂防 42 号, 52p, 5 月 8 日に関連記事あり】

3.7 場所不明



R276 場所不明 諸戸博士一行(昭和10年12月)
[後列 左から3人目が諸戸博士]

4. 收集写真一覧表

一覧表の各項目についての説明

- ID …本写真集における ID 番号 (R1～R278)
- 種別 …写真を「砂防工事関連」,「文化」,「諸戸博士」に分類
- アルバム名 …東京都水道歴史館所蔵のアルバム名
- 写真番号 …東京都水道歴史館所蔵の写真番号
- 都道府県名 …写真が撮影された都道府県名
- 地区名 …写真が撮影された地区を「萩原山」,「丹波山村」,「小河内村」,「氷川村」,「小菅村」に分類 ただし不明のものは未記入
- 地名・溪流名 …写真が撮影された位置
- 撮影年月日□ …写真が撮影された時期 (和暦)
- 撮影年月日□ …写真が撮影された時期 (西暦)
- 写真コメント …写真の撮影された位置と撮影対象についての説明
- 東京都水道歴史館による写真コメント
…東京都水道歴史館が写真に付与した説明
- 備考 …諸戸博士写真集や「砂防」との関連性などの説明

ID	種別	アルバム名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・河川名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R001	砂防工事	REKT-085	039	山梨県	萩原山	落合	大正2年	1913年	落合付近 荒廃地	水源林 大正2年の落合付近荒廃地	
R002	砂防工事	REKT-046	029	山梨県	萩原山	落合	大正15年	1926年	落合集落 大正15年の状況	大正15年当時の落合集落	
R003	砂防工事	REKT-083	017	山梨県	萩原山	落合	昭和2年5月21日	1927年5月21日	落合集落 築	落合集落の築り	
R004	砂防工事	REKT-046	027	山梨県	萩原山	落合	昭和2年8月22日	1927年8月22日	落合集落 昭和2年の状況	落合集落の風景	
R005	砂防工事	REKT-046	026	山梨県	萩原山	落合	昭和15年	1940年	落合集落 昭和15年(横付27年目)の状況	落合集落の成績 大正三年繰え 27年目	
R006	砂防工事	REKT-046	031	山梨県	萩原山	落合			落合集落 撮影年月日不明	東京市水道水源 落合集落	元ブー76左右反転
R007	砂防工事	REKT-046	030	山梨県	萩原山	落合			落合集落 撮影年月日不明	落合集落の風景	
R008	砂防工事	REKT-006	002	山梨県	萩原山	落合			萩原山 落合集落	萩原山落合集落	
R009	砂防工事	REKT-051	018	山梨県	萩原山	落合	昭和4年5月	1929年5月	落合 水神社拝殿より見たる 金巻・松尾		
R010	砂防工事	REKT-051	019	山梨県	萩原山	落合	昭和5年8月	1930年8月	落合及び水神社 奥宮 遺拝所(墓跡き)	落合及び水神社 奥宮 拝殿	
R011	砂防工事	REKT-083	026	山梨県	萩原山	落合			落合集落	神金村落合集落	
R012	砂防工事	REKT-051	032	山梨県	萩原山	落合			落合気象観測所	落合気象観測所	
R013	砂防工事	REKT-052	034	山梨県	萩原山	落合	大正11年1月7日	1922年11月7日	落合集落付近 横付後の状況	落合集落付近 横付後の状況	
R014	砂防工事	REKT-052	036	山梨県	萩原山	落合	昭和2年8月	1927年8月	落合・新木屋前より御澤川下流の植栽後の状況	落合・新木屋前より御澤川下流の植栽後の状況	
R015	文化	REKT-077	033	山梨県	萩原山	落合	大正7年5月19日	1918年5月19日	水神社 奥宮 記念植樹		
R016	文化	REKT-073	012	山梨県	萩原山	落合	大正13年5月21日	1924年5月21日	水神社 祭礼 園遊会		
R017	文化	REKT-082	001	山梨県	萩原山	落合	昭和3年6月	1928年6月	水神社 奥宮 拝殿 石垣工事		
R018	文化	REKT-069	038	山梨県	萩原山	落合	昭和3年7月	1928年7月	水神社 拝殿改築		
R019	文化	REKT-071	014	山梨県	萩原山	落合	昭和3年8月	1928年8月	水神社 奥宮 建築工事		
R020	文化	REKT-069	036	山梨県	萩原山	落合	昭和3年10月	1928年10月	水神社 拝殿落成		
R021	文化	REKT-069	039	山梨県	萩原山	落合	昭和3年10月20日	1928年10月20日	水神社 拝殿落成		
R022	諸戸博士	REKT-067	005	山梨県	萩原山	落合	昭和5年10月30日	1930年10月30日	水神社 奥宮 拝殿前(諸戸博士)		
R023	文化	REKT-070	001	山梨県	萩原山	落合	昭和5年5月	1931年5月	水神社 式場		
R024	文化	REKT-070	002	山梨県	萩原山	落合	昭和10年5月2日	1935年5月2日	水神社 餅投げ		
R025	文化	REKT-074	002	山梨県	萩原山	落合	明治45年6月	1912年6月	落合集落所予定地 市常設委員視察	落合集落にて市常設委員の派出所予定地の視察	
R026	文化	REKT-069	002	山梨県	萩原山	落合	大正8年5月21日	1919年5月21日	落合集落所前 決算委員一行	決算委員一行 落合集落所前にて	

ID	種別	アルファ名	写真番号	報道 府県名	地区名	地名・源流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R027	文化	REKI-075	024	山梨県 萩原山	落合	落合	昭和4年5月	1925年5月	落合派出所	東京市水道水源林事務所落合派出所	
R028	文化	REKI-009	033	山梨県 萩原山	落合	落合	昭和7年11月10日	1932年11月10日	落合派出所 決算委員一行	東京市水道水源林事務所落合派出所前、決算委員一行	
R029	文化	REKI-049	009	山梨県 萩原山	落合		撮影時期不明 写真に「3年12月8日」の文字	〇〇年12月8日	落合分教場 開校式	落合学校 開校式	
R030	文化	REKI-007	009	山梨県 萩原山	落合	落合	昭和3年10月23日	1928年10月23日	落合分教場	新築分教場ト児童(神金村尋常高等小学校落合分教場)	
R031	文化	REKI-051	002	山梨県 萩原山	落合	落合	昭和4年5月21日	1925年5月21日	落合分教場 卒業写真	落合分教場の卒業生徒	
R032	文化	REKI-007	015	山梨県 萩原山	落合	落合	大正2年8月	1913年8月	落合分教場巡業員集合所附属公舎	落合分教場巡業員集合所附属公舎	
R033	砂防工事	REKI-083	010	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正5年1月	1916年1月	ハビロ沢 量水堰堤 大正4年施工	撮影年月日は、水道水源林の経営(1938)より引用	
R034	砂防工事 神戸博士	REKI-075	013	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和4年9月11日	1925年8月11日	ハビロ沢 量水堰堤 砂防講習生	砂防ダム講習生一行(萩原山ハビロ流量水装置にて)	
R035	砂防工事	REKI-048	021	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和4年9月11日	1925年8月11日	ハビロ沢 量水堰堤 (施工中)	ハビロ沢 量水堰堤 工事中	砂防8号, 45p. 8月11日に関連記事あり
R036	砂防工事	REKI-084	005	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和5年2月	1930年2月	ハビロ沢 量水堰堤	葉広沢 量水石堰堤	
R037	砂防工事	REKI-010	003	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和5年5月	1930年5月	ハビロ沢 量水堰堤(改築施工後16年目の復旧状況)	神金村 萩原山ハビロ沢改築施工後16年目の復旧	
R038	砂防工事	REKI-083	007	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和5年6月	1930年6月	ハビロ沢 量水堰堤	葉広沢 量水堰堤	
R039	砂防工事	REKI-093	024	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和5年9月	1930年9月	ハビロ沢 量水堰堤	神金村ハビロ沢流量水堰堤	
R040	砂防工事	REKI-082	029	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和6年5月19日	1931年5月19日	ハビロ沢 量水堰堤	萩原山ハビロ沢流量水堰堤	
R041	砂防工事	REKI-082	038	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和7年4月	1932年4月	ハビロ沢 量水堰堤	萩原山ハビロ沢流量水堰堤	
R042	砂防工事	REKI-004	019	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正5年11月	1916年11月	ハビロ沢 石堰堤	神金村萩原山ハビロ沢溪流、及び山麓工事施行当時の状況 神戸北郎写真集141と同じ角度 砂防口絵写真集S05-12同一写真	
R043	砂防工事	REKI-004	020	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正14年9月	1925年8月	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行10年目	神金村萩原山ハビロ沢溪流、工事施行10年目の復旧状況	
R044	砂防工事	REKI-007	017	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正14年9月	1925年9月	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行10年目	萩原山ハビロ沢復旧の状況 10年目	
R045	砂防工事	REKI-083	037	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和2年8月	1927年8月	ハビロ沢 石堰堤 復旧12年後	萩原山ハビロ沢砂防工事の荒廃地成林の状況	
R046	砂防工事 神戸博士	REKI-083	002	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正15年3月21日	1926年3月21日	ハビロ沢 萩原山ハビロ沢 砂防工事視察学生(左から4人目 神戸博士)	萩原山ハビロ沢 砂防工事視察の大学生 左から4人目神戸博士	
R047	砂防工事	REKI-083	018	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	昭和5年10月17日	1930年10月17日	ハビロ沢 奥石堰堤と削れ	ハビロ沢 奥石堰堤	
R048	砂防工事	REKI-047	040	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正5年4月	1916年4月	ハビロ沢 石堰堤 山麓工(大正4年施行)	ハビロ沢・山麓及谷曹工(枕槽、防工、谷曹石積) 大正4年施行	神戸北郎写真集1015同一写真 砂防口絵写真集S39-12同一写真
R049	砂防工事	REKI-007	024	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正9年8月	1920年8月	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行6年目	萩原山ハビロ沢	砂防口絵写真集S39-22同一写真
R050	砂防工事	REKI-047	038	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	撮影時期不明 写真に「9年8月」の文字あり	1920年8月1日	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行6年目	ハビロ沢	
R051	砂防工事	REKI-007	018	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正10年7月22日	1921年7月22日	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行7年目	萩原山ハビロ沢	神戸博士写真集1005(撮影時期不明)は本写真以前のものと推定
R052	砂防工事	REKI-008	030	山梨県 萩原山	葉廣(ハビロ)沢	葉廣(ハビロ)沢	大正10年7月25日	1921年7月25日	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行7年目	萩原山葉広沢石堰堤	

ID	種別	アルファ名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・漢流名	撮影年月日① 撮影時期不明 写真に「10年」の文字あり	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R053	砂防工事	REKI-008	031	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	昭和10年8月20日	ハビロ沢 石堰堤		萩原山葉広沢石堰堤	
R054	砂防工事	REKI-008	036	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	昭和2年8月	1927年8月	ハビロ沢 石堰堤(復旧状況)	ハビロ沢砂防堰堤復旧の状況	
R055	砂防工事	REKI-005	007	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢			ハビロ沢 石堰堤	神金村萩原山ハビロ沢	
R056	砂防工事	REKI-005	008	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	昭和10年8月20日	1935年8月20日	ハビロ沢 石堰堤 砂防工事施行21年目	神金村萩原山ハビロ沢 砂防工事施工後21年目の状況	
R057	砂防工事	REKI-048	008	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	大正5年11月	1916年11月	ハビロ沢 石堰堤(施工中)	葉広沢 石堰堤工事中	
R058	砂防工事	REKI-068	004	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	大正3年	1914年	ハビロ沢 山腹状況	ハビロ沢の荒廃した風景	
R059	砂防工事	REKI-087	006	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	撮影時期不明 写真に「7年1月22日」の文字あり	〇〇年1月22日	ハビロ沢 山腹状況 大正3年補付	大正3年度補付ハビロ沢	
R060	砂防工事	REKI-089	030	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	昭和10年7月22日	1935年7月22日	ハビロ沢 山腹状況(補付後8年目)の状況	ハビロ沢 三年新補、補付後8年目	
R061	砂防工事	REKI-092	006	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	撮影時期不明 写真に「5年9月13日」の文字あり	〇〇年9月13日	ハビロ沢 大正3年 造林地	ハビロ沢 大正3年造林地、復旧した山腹地	
R062	砂防工事	REKI-047	037	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢	大正5年11月	1916年11月	ハビロ沢 山腹工	ハビロ沢 山腹工合留工	
R063	砂防工事	REKI-052	017	山梨県	萩原山	葉廣(ハビロ)沢			ハビロ沢 大正3年補付地	萩原山葉広沢 大正3年補付地	
R064	砂防工事	REKI-047	022	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年12月	1916年12月	シンネド沢 石堰堤(施工中)		神戸北郎写真集1010と同一写真
R065	砂防工事	REKI-047	009	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	撮影時期不明 写真に「5年11月」の文字あり	1916年11月	シンネド沢 石堰堤(施工中)	猪子ネド沢 石堰堤工事中	神戸北郎写真集1008と同一写真
R066	砂防工事	REKI-007	027	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年12月	1916年12月	シンネド沢 石堰堤(ア一子)	シンネドの沢留工	神戸北郎写真集1019と同一写真
R067	砂防工事	REKI-081	025	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年12月	1916年12月	シンネド沢 石堰堤	シンネドの沢 砂防工事	神戸北郎写真集1018と同一写真
R068	砂防工事	REKI-082	016	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年12月	1916年12月	シンネド沢 石堰堤	シンネドの沢 砂防工事	
R069	砂防工事	REKI-047	021	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年12月	1916年12月	シンネド沢 石堰堤		
R070	砂防工事	REKI-081	030	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年	1916年	シンネド沢 石堰堤	シンネドの沢 砂防工事	神戸北郎写真集1020と同一写真
R071	砂防工事	REKI-081	028	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正12年	1923年	シンネド沢 石堰堤	シンネドの沢 砂防工事(神金村萩原山)	
R072	砂防工事	REKI-048	026	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正3年4月	1914年4月	シンネド沢 荒廃地 植林作業の状況	シンネド沢 荒廃地植林作業の状況	
R073	砂防工事	REKI-086	022	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	撮影時期不明 写真に「7年2月22日」の文字あり	1918年2月22日	シンネド沢 大正3年補付		
R074	砂防工事	REKI-052	018	山梨県	萩原山	獅子ネド(シンネド)沢	大正5年	1916年	シンネド沢 荒廃状況(明治40年8月大水害における山津波による荒廃地)	明治40年8月大水害による山津波に因るシンネド沢の荒廃地	
R075	砂防工事	REKI-083	003	山梨県	萩原山	金場(カネバ)沢			金場沢 量水堰堤	東京市水道水源 萩原山金場沢量水装置	
R076	砂防工事	REKI-051	034	山梨県	萩原山	金場(カネバ)沢	大正6年9月18日	1917年9月18日	金場澤量水堰堤 山梨県山梨知事水道地招察	山梨山梨県知事水道林招察 金場澤量水装置にて	
R077	砂防工事	REKI-051	013	山梨県	萩原山	金場(カネバ)沢	大正10年7月	1921年7月	カネバ沢 量水堰堤(裏焼き)	東京市水道水源 萩原山金場沢 量水装置	
R078	砂防工事	REKI-088	032	山梨県	萩原山	金場(カネバ)沢			金場澤 量水堰堤(裏焼き)	東京市水道水源萩原山金場沢量水堰堤	神戸北郎写真集986(T5.8.11)と同一写真

ID	種別	アルファ名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・運流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R079	砂防工事	REKI-082	013	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正4年	1915年	金場澤 量水堰堤	金場澤 量水装置(神金村萩原)	神戸北郎写真集990と同一写真
R080	砂防工事	REKI-082	037	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正5年7月	1916年7月	金場澤口 量水堰堤	金場澤口 量水堰堤	神戸北郎写真集991と同一写真
R081	砂防工事	REKI-007	029	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正5年11月20日	1916年11月20日	カネハ沢 量水堰堤 府会議員一行	金場澤水量装置を視察する府会議員一行	
R082	砂防工事	REKI-007	030	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正5年11月20日	1916年11月20日	カネハ沢 量水堰堤 府会議員一行	金場澤水量装置を視察する府会議員一行	
R083	砂防工事	REKI-083	004	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢			金場沢 量水堰堤(改良工事)	東京市水道水源萩原山金場沢量水装置改良工事中	
R084	砂防工事	REKI-008	035	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和4年8月11日	1929年8月11日	カネハ沢 量水堰堤(改装中) 左から2人目 神戸博士	金場沢 量水石堰堤工事	初防8号, 45p, 8月11日に関連記事あり
R085	神戸博士	REKI-007	023	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和4年9月11日	1929年8月11日	カネハ沢 石堰堤 施工中(中央に神戸博士)	萩原山金場沢本流保固工事(石エンテ工事)中	初防8号, 45p, 8月11日に関連記事あり
R086	砂防工事	REKI-048	018	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和5年5月	1930年5月	カネハ沢 量水堰堤	金場沢 量水石堰堤	
R087	砂防工事	REKI-082	039	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和5年5月	1930年5月	金場澤 量水堰堤	金場澤 量水石堰堤	
R088	砂防工事	REKI-082	040	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和6年5月	1931年5月	金場澤 量水堰堤	金場澤 量水石堰堤	
R089	砂防工事	REKI-082	035	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和5年6月	1930年6月	金場沢 量水堰堤	金場沢 石堰堤	
R090	砂防工事	REKI-081	003	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正5年11月	1916年11月	カネハ沢 上流の量水堰堤	金場沢奥 量水堰堤	神戸北郎写真集1016と同一写真
R091	砂防工事	REKI-082	021	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正5年11月	1916年11月	金場沢 量水堰堤	金場沢 量水石堰堤	神戸北郎写真集1007と同一写真
R092	砂防工事	REKI-081	027	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正5年11月	1916年11月	カネハ沢 上流の量水堰堤	金場澤奥 石堰堤工事	神戸北郎写真集1012と同一写真
R093	砂防工事	REKI-088	022	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢			金場澤 量水堰堤	東京市水道水源 萩原山 金場沢砂防工	
R094	砂防工事	REKI-081	022	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正15年7月	1926年7月	カネハ沢 上流の量水堰堤	金場沢(神金村)奥 石堰放水	
R095	砂防工事 神戸博士	REKI-047	013	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正2年8月	1913年8月	カネハ沢 石堰堤 神戸博士	萩原山金場澤・合置工施工中の状況 向かって神戸博士・奥玉所迄	神戸北郎写真集120(T6.8.15)と同一写真
R096	神戸博士	REKI-082	004	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	大正4年	1915年	金場沢 石堰堤(神戸博士)	金場沢石堰	神戸北郎写真集1013と同一写真
R097	砂防工事	REKI-005	005	山梨県	萩原山	金場(カネハ)沢	昭和2年8月	1927年8月	カネハ沢 石堰堤 砂防工事施行10年目	神金村萩原山金場沢工事施工後10年後の復旧状況	神戸北郎写真集997 (T7.9.3) と同じ角度
R098	砂防工事	REKI-083	008	山梨県	萩原山	高橋川			高橋川 量水堰堤 大正6年施工	高橋川 水量標 6年施行	神戸北郎写真集1003と同一写真
R099	砂防工事	REKI-083	013	山梨県	萩原山	高橋川	大正8年9月19日	1919年9月19日	高橋川 量水堰堤	神金村萩原山高橋川量水堰堤	
R100	砂防工事	REKI-051	014	山梨県	萩原山	高橋川	大正10年7月	1921年7月	高橋川 量水堰堤(塞候き)	東京市水道水源 萩原山高橋川量水石堤	
R101	砂防工事	REKI-080	011	山梨県	萩原山	高橋川	大正12年11月	1923年11月	高橋川 量水堰堤(委員一行)	高橋川 量水堰堤にて委員一行	
R102	砂防工事 神戸博士	REKI-088	023	山梨県	萩原山	高橋川			高橋川 量水堰堤 神戸博士	山梨県 中川金文 多摩川水源 萩原山 東京市有林 高橋川量水石堰堤	神戸北郎写真集1035と同一写真
R103	砂防工事	REKI-006	031	山梨県	萩原山	高橋川	撮影時期不明 写真に「12年6月26日」の文字あり	〇〇年6月26日	高橋川 量水堰堤	高橋川 量水堰堤	
R104	砂防工事	REKI-006	033	山梨県	萩原山	高橋川	大正3年7月	1914年7月	高橋川口	落合高橋川口	

ID	種別	アルファ名	写真番号	報道 府県名	地区名	地名・源流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R105	砂防工事	REKI-005	013	山梨県	萩原山	高橋	昭和5年9月	1930年9月	萩原山 高橋集落		
R106	砂防工事	REKI-082	002	山梨県	萩原山	高橋川	昭和5年10月	1930年10月	高橋川 手越 砂防工事(山腹工)	高橋川 手越 砂防工事	
R107	文化	REKI-053	031	山梨県	萩原山	柳沢峠	明治44年11月	1911年11月	柳沢峠 市常設委員一行	市常設委員一行と宮川助役(柳沢峠にて)	
R108	文化	REKI-076	027	山梨県	萩原山	柳沢峠	大正元年10月	1912年10月	柳沢峠 柳沢峠	人物等写真(萩原山柳沢峠にて)	
R109	文化	REKI-068	036	山梨県	萩原山	柳沢峠	大正4年10月	1915年10月	柳沢峠 鍛冶橋倶楽部視察一行	柳沢峠での鍛冶橋倶楽部視察一行	
R110	文化	REKI-088	002	山梨県	萩原山	柳沢峠	撮影時期不明 写真に「5年10月23日」の文字あり	〇〇年10月23日	柳沢峠(市会議員一行)	柳沢峠 市会議員一行	
R111	文化	REKI-049	010	山梨県	萩原山	柳沢峠	大正7年7月20日	1918年5月20日	柳沢峠 田沢市長	田沢市長 柳沢峠	
R112	文化	REKI-006	010	山梨県	萩原山	柳沢峠	大正9年11月20日	1920年11月20日	柳沢峠 東京府会議員一行	柳沢峠における東京府会議員一行	
R113	文化	REKI-076	021	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和3年9月	1928年9月	柳沢峠 鳥居工事	柳沢峠の鳥居工事	
R114	文化	REKI-076	022	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和3年9月	1928年9月	柳沢峠 鳥居工事	柳沢峠の鳥居工事	
R115	文化	REKI-076	023	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和4年5月	1929年5月	柳沢峠 松本、武藤、小島	松本、武藤、小島(柳沢峠水神宮鳥居にて)	
R116	文化	REKI-070	016	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和5年7月5日	1930年7月5日	柳沢峠 市会議員一行	柳沢峠に於ける市会議員一行	
R117	文化	REKI-076	026	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和5年11月	1930年11月	柳沢峠 小島、小峰	小島、小峰(萩原山柳沢峠にて)	
R118	文化	REKI-088	001	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和5年11月5日	1930年11月5日	柳沢峠(海拔1470m) 大鳥居 橋下24尺	柳沢峠(海拔1470m) 大鳥居 橋下24尺	
R119	文化	REKI-072	038	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和6年10月18日	1931年10月18日	柳沢峠 白鳥財務局長 馬場地理課長	萩原山 京都市青林 白鳥財務局長 馬場地理課長	
R120	文化	REKI-007	004	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和8年10月23日	1933年10月23日	柳沢峠 水道委員一行	柳沢峠 水道委員一行	
R121	文化	REKI-050	017	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和10年10月22日	1935年10月22日	柳沢峠 水道常設委員一行		
R122	文化	REKI-070	026	山梨県	萩原山	柳沢峠	昭和13年6月15日	1938年5月15日	柳沢峠 昭和13年5月15日	柳沢峠水神宮鳥居中島・松浦・江口	
R123	砂防工事	REKI-089	006	山梨県	萩原山	柳沢川			柳沢川 膳柳滝		
R124	砂防工事	REKI-089	007	山梨県	萩原山	柳沢川	昭和2年	1927年	柳沢川 膳柳滝	元日原山の所有者小原勝守氏一行萩原山膳柳滝にて	
R125	砂防工事	REKI-004	017	山梨県	萩原山	柳沢川	大正2年5月	1913年5月	柳沢川 膳柳の滝	萩原山森林地 膳柳の滝	
R126	砂防工事	REKI-074	004	山梨県	萩原山	柳沢川	明治45年6月	1912年6月	柳沢川 膳柳滝 市会議員一行	落合 膳柳滝における市会議員一行	
R127	砂防工事	REKI-077	005	山梨県	萩原山	檜尾(ヒノキオ)沢	大正7年1月17日	1918年1月17日	ヒノキオ沢 山腹状況		
R128	砂防工事 膳戸博士	REKI-047	004	山梨県	萩原山	檜尾(ヒノキオ)沢	昭和4年8月12日	1929年8月12日	ヒノキオ沢 石堰堤(膳戸博士)	砂防8号、45p、8月12日に御連記事務 り	
R129	砂防工事	REKI-008	032	山梨県	萩原山	檜尾(ヒノキオ)沢	昭和5年9月	1930年9月	ヒノキオ沢 石堰堤		
R130	砂防工事	REKI-003	001	山梨県	萩原山	檜尾(ヒノキオ)沢	昭和6年9月12日	1931年9月12日	ヒノキオ沢 本流 石堰堤		

ID	種別	アルバム名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・現流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R131	砂防工事	REKI-081	001	山梨県	萩原山	馬場沢	大正6年	1917年	馬場沢苗圃尻谷 石堰堤	馬場沢苗圃尻谷 石堰堤	
R132	砂防工事	REKI-081	004	山梨県	萩原山	馬場沢	大正6年11月	1917年11月1日	馬場沢圃地脇谷 第二石堰堤	馬場沢圃地脇谷 第二石堰堤	
R133	砂防工事	REKI-081	009	山梨県	萩原山	馬場沢	昭和10年8月	1935年8月	馬場沢 石堰堤 山腹工		
R134	文化	REKI-077	030	山梨県	萩原山	馬場平	昭和2年11月9日	1927年11月9日	萩原山 馬場平(委員一行)		
R135	砂防工事	REKI-005	001	山梨県	萩原山	大切沢	大正13年8月	1924年8月	大切沢 崩壊	神倉村萩原山斎藤川入支流大切沢(カガ沢)左岸の崩壊状況、大正12年関東大震災に因する崩壊地	
R136	砂防工事	REKI-081	033	山梨県	萩原山	大切沢	昭和5年10月9日	1930年10月9日	大切沢 造林地砂防工事(関東大震災による崩壊地)	大切沢 造林地砂防工事(神倉村萩原)大正12年崩壊	
R137	砂防工事	REKI-005	002	山梨県	萩原山	大切沢	昭和4年5月16日	1929年5月16日	大切沢 山腹工	神倉村萩原山斎藤川入支流大切沢	
R138	砂防工事	REKI-081	020	山梨県	萩原山	大切沢	昭和15年10月17日	1940年10月17日	大切沢 崩壊地	大切沢	
R139	砂防工事	REKI-007	019	山梨県	萩原山	大切沢	昭和15年9月27日	1940年9月27日	大切沢 石堰堤	大切沢 谷間工事	
R140	砂防工事	REKI-008	037	山梨県	萩原山	大切沢			大切沢 緑地堰堤	大切沢 砂防エネリスミ堰堤	
R141	神戸博士	REKI-051	021	山梨県	萩原山	大切峠	昭和2年11月24日	1927年11月24日	大切峠 神戸博士・大学生の砂防視察	神戸博士と大學生、聴講生の砂防視察 萩原山大切峠にて	
R142	砂防工事	REKI-052	037	山梨県	萩原山	観音滝	大正2年5月	1913年5月	萩原山 造林地 観音滝	萩原山の造林地と観音滝	
R143	砂防工事	REKI-077	031	山梨県	萩原山	笠取山	昭和4年11月10日	1929年11月10日	笠取山 大正12年補付地		
R144	砂防工事	REKI-051	016	山梨県	萩原山	笠取沼	大正10年11月	1921年11月	萩原山 笠取沼付近 荒廃状況(補整前)	神倉村萩原山笠取沼附近の補整前の荒廃状況	
R145	砂防工事	REKI-006	025	山梨県	萩原山	雁(ガン)峠	昭和6年10月24日	1933年10月24日	ガン峠 水道委員一行		
R146	神戸博士	REKI-067	019	山梨県	萩原山	ハグ岩	昭和2年8月9日	1927年8月9日	ハグ岩頂上にて(神戸博士)		
R147	砂防工事	REKI-093	021	山梨県	萩原山	大トクサ沢	大正元年	1912年	大トクサ沢 植林		
R148	砂防工事	REKI-047	015	山梨県	萩原山	大木殿沢			萩原山 大木殿沢 山腹工(大正7年施行)	東京市有林・萩原山大木殿沢 砂防工・補防工 大正7年施行	
R149	文化	REKI-077	013	山梨県	萩原山	ヒビキ岩	大正4年10月	1915年10月	萩原山 ヒビキ岩		
R150	砂防工事	REKI-051	039	山梨県	萩原山				萩原山 市有林 補付後5年目(裏焼き)	東京市水道水源 萩原山市有林補付後5年目	
R151	砂防工事	REKI-051	024	山梨県	萩原山		昭和15年4月	1940年4月	関東大震災崩壊地(手前の家は黒川山金剛寺)		
R152	砂防工事	REKI-089	001	山梨県	萩原山		大正5年4月	1916年4月	ハビロ苗圃と付近新植当時の写真(3年目状況)	ハビロ苗圃と付近の補付地 新植3年目の状況	
R153	文化	REKI-006	018	山梨県	萩原山		昭和15年11月4日	1940年11月4日	萩原山 木沢運搬	木沢の運搬(萩原山)鹿矢田中耕平8歳附	
R154	神戸博士	REKI-088	024	山梨県	萩原山	高橋親冠			萩原山高橋 高橋親冠神社にて(左から5人目神戸博士)	中村山林課長 萩原山視察 高橋親冠神社 鳥居前にて 梨原に立会いを求む 向かって左より3人目中村課長 5人目 神戸博士 7人目児玉所長 8人目神倉村長藤澤正之助	
R155	砂防工事	REKI-080	037	山梨県	丹波山村	鳥水(センスイ)谷	大正11年11月	1922年11月	鳥水谷 石堰堤2号	鳥水谷 石堰堤2号	神戸北部写真集1046(同一写真)

ID	種別	アルファ名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・支流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R156	砂防工事	REKI-048	015	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷	昭和5年10月8日	1930年10月8日	泉水谷 石堰堤 山腹工(大正13年施工)	泉水石堰堤と山腹工事・大正13年施工	
R157	文化	REKI-051	010	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷	明治38年5月	1905年5月	泉水谷 職員宿泊小屋	丹波山村字泉水谷 職員 宿泊小屋	
R158	文化	REKI-087	040	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷			泉水谷事務所付近の明治40年8月水害後状況	東京府有林泉水谷事務所付近の崩壊地 明治40年の洪水による	
R159	文化	REKI-006	013	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷			泉水谷 事業場	泉水谷 事業場	
R160	文化	REKI-009	003	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷	昭和7年12月8日	1932年12月8日	泉水谷 事務所	丹波山泉水谷事業場雪の情景牛首谷付近(泉水小屋)	
R161	文化	REKI-048	023	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷	大正4年10月	1915年10月	泉水谷 水屋山 人物写真	泉水谷 水屋山	
R162	請戸博士	REKI-051	025	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷	昭和4年9月13日	1929年8月13日	泉水谷 大黒茂谷頂上 三角点(請戸博士・大學生一行)	請戸博士・大學生、聴講生一行 泉水谷大黒茂谷頂上の三 角点にて	初訪8号, 45p, 8月13日に関連記事あり
R163	請戸博士	REKI-051	026	山梨県	丹波山村	泉水(センスイ)谷	昭和4年8月13日	1929年8月13日	泉水谷・丸川・高旗花園(左より3人目請戸博士)		初訪8号, 45p, 8月13日に関連記事あり
R164	砂防工事	REKI-047	010	山梨県	丹波山村	牛首谷	大正12年7月4日	1923年7月4日	牛首谷 石堰堤 (大正11年施工)	牛首谷 石堰堤 大正11年施工	請戸北郎写真集1043(同一写真)
R165	砂防工事	REKI-047	011	山梨県	丹波山村	牛首谷			牛首谷 石堰堤	牛首谷 石堰堤	請戸北郎写真集1045(同一写真)
R166	砂防工事	REKI-047	036	山梨県	丹波山村	サカサ沢	大正10年12月	1921年12月	泉水谷 サカサ沢 石堰堤	丹波山村泉水谷の内・サカサ沢砂防工事	
R167	砂防工事 請戸博士	REKI-083	021	山梨県	丹波山村	サカサ沢	昭和2年10月	1927年10月	サカサ沢 石堰堤 (左端 請戸博士)	サカサ沢野面積石堰堤	請戸北郎写真集1041(同一写真)
R168	文化	REKI-093	012	山梨県	丹波山村	三條橋	昭和2年9月9日	1927年9月9日	三條橋(丹波山村泉水谷)	二条橋にて視察団(丹波山村泉水谷)	
R169	文化	REKI-078	025	山梨県	丹波山村	三條橋			三條橋		
R170	文化	REKI-092	033	山梨県	丹波山村	三條橋			三條橋		
R171	請戸博士	REKI-088	029	山梨県	丹波山村	丹波山倉沢口	昭和11年7月22日	1936年7月22日	丹波山 倉沢口 (請戸博士)		
R172	文化	REKI-051	023	山梨県	丹波山村	ナメトロ	明治38年5月	1905年5月	丹波山村 ナメトロ(東京府顧問 本多博士一行)		
R173	砂防工事 請戸博士	REKI-081	040	山梨県	丹波山村	塩の山	昭和8年7月22日	1933年7月22日	塩の山 請戸博士	丹波山村塩の山	
R174	砂防工事	REKI-008	034	山梨県	丹波山村	塩の山	昭和9年12月15日	1934年12月15日	塩の山 崩壊地	塩の山下流対岸より見たる崩壊地	
R175	文化	REKI-088	039	山梨県	丹波山村	丹波山村役場 小学校	昭和3年8月	1928年8月	丹波山村役場と小学校		
R176	文化	REKI-079	023	山梨県	丹波山村	七つ石神社	昭和6年4月	1931年4月	七つ石神社		
R177	請戸博士	REKI-086	040	山梨県	丹波山村	野村屋旅館	撮影時期不明 写真に「5年10月29日」の文字あり	〇〇年10月29日	野村屋旅館前 請戸先生一行		
R178	文化	REKI-072	001	山梨県	丹波山村	野村屋旅館	撮影時期不明 写真に「7年5月1日」の文字あり	〇〇年5月1日	野村屋旅館		
R179	文化	REKI-069	020	山梨県	丹波山村	野村屋旅館	昭和2年11月11日	1927年11月11日	野村屋旅館 出奔の委員一行		
R180	砂防工事	REKI-047	006	山梨県	丹波山村		大正15年9月18日	1926年9月18日	丹波山村 石堰堤		
R181	文化	REKI-051	012	山梨県	丹波山村		大正14年10月4日	1925年10月4日	丹波山村 山落し作業		

ID	種別	アルファ名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・源流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都市道歴史館による説明コメント	備考
R182	謄写博士	REKI-076	016	東京都	小河内村	ありさめ	昭和9年9月	1934年9月	小河内村ありさめ 崩壊地 謄写博士一行	謄写博士一行(小河内村ありさめ 崩壊地にて)	砂防39号, 35p, 9月19日に関連記事あり
R183	砂防工事	REKI-081	011	東京都	小河内村	ありさめ	昭和23年	1948年	ありさめ 堰堤	小河内村ありさめ砂防谷暫工	
R184	砂防工事	REKI-048	011	東京都	小河内村	ありさめ			ありさめ 緑積堰堤(昭和24年2月施工)	ありさめ砂防・昭和24年2月施工	
R185	砂防工事	REKI-080	036	東京都	小河内村	ありさめ	昭和24年2月	1949年2月	ありさめ 堰堤	ありさめ 砂防	
R186	砂防工事	REKI-081	014	東京都	小河内村	ありさめ	昭和24年2月	1949年2月	ありさめ 砂防1号2号工事	小河内村ありさめ砂防一番号工事	
R187	砂防工事	REKI-081	018	東京都	小河内村	ありさめ	昭和24年2月	1949年2月	ありさめ 砂防	小河内村ありさめ 砂防	
R188	砂防工事	REKI-081	034	東京都	小河内村	ありさめ	昭和24年2月	1949年2月	ありさめ 砂防	ありさめ 砂防(小河内村)	
R189	砂防工事	REKI-047	035	東京都	小河内村	ありさめ	昭和27年3月6日	1952年3月6日	ありさめ 緑積堰堤 第2号崩壊地復旧事業	小河内村ありさめ 第2号崩壊地復旧事業 緑積堰堤工事中	
R190	砂防工事	REKI-083	033	東京都	小河内村	ありさめ	昭和28年3月10日	1953年3月10日	ありさめ 山地 荒廃復旧事業	小河内村ありさめ山地荒廃復旧事業1、山腹緑積2、山腹空積3、空堀水路後功4、崖防	
R191	砂防工事	REKI-077	008	東京都	小河内村	雨乞場	明治44年5月	1911年5月	雨乞場 造林地 植付当時		
R192	砂防工事	REKI-048	016	東京都	小河内村	茂久保(モクボ)谷	撮影時期不明 写真に「5年3月」の文字あり	〇〇年3月	茂久保谷 石堰堤		
R193	砂防工事	REKI-082	010	東京都	小河内村	茂久保(モクボ)谷	昭和11年3月	1936年3月	茂久保谷 石堰堤		
R194	砂防工事	REKI-082	023	東京都	小河内村	茂久保(モクボ)谷	昭和11年5月	1936年5月	茂久保谷 石堰堤		
R195	砂防工事	REKI-093	005	東京都	小河内村	茂久保(モクボ)谷	昭和11年8月	1936年8月	茂久保谷	小河内村 茂久保砂防工事	[砂防]口絵写真集S48-2[同一写真]
R196	砂防工事	REKI-083	028	東京都	小河内村	天神山	昭和4年9月20日	1929年9月20日	天神山 1号堰堤	天神山 第1号	
R197	砂防工事	REKI-083	027	東京都	小河内村	天神山	昭和4年10月	1929年10月	天神山 混合積石堰堤	天神山 混合積石堰堤	
R198	砂防工事	REKI-082	036	東京都	小河内村	天神山	昭和4年10月	1929年10月	天神山 緑積堰堤	天神山源流 緑積堰堤	
R199	砂防工事	REKI-082	032	東京都	小河内村	天神山	昭和10年12月	1935年12月	天神山 石堰堤	天神山 谷暫工事	
R200	砂防工事	REKI-082	033	東京都	小河内村	天神山	昭和11年3月	1936年3月	天神山 石堰堤	天神山 谷暫工事	
R201	砂防工事	REKI-081	035	東京都	小河内村	天神山	昭和10年11月	1935年11月1日	天神山	天神山	
R202	砂防工事	REKI-008	033	東京都	小河内村	水久保(ミズクボ)沢	昭和4年9月18日	1929年9月18日	水久保沢 混合積石堰堤		
R203	砂防工事	REKI-047	016	東京都	小河内村	水久保(ミズクボ)沢	昭和4年11月	1929年11月	水久保沢 混合積石堰堤	水久保沢 混合積石堰堤	
R204	砂防工事	REKI-009	001	東京都	小河内村	水久保(ミズクボ)沢	昭和5年9月	1930年9月	水久保沢 石堰堤		
R205	砂防工事	REKI-081	005	東京都	小河内村	水久保(ミズクボ)沢	昭和5年10月	1930年10月	水久保沢 石堰堤		
R206	砂防工事	REKI-047	027	東京都	小河内村	水久保(ミズクボ)沢	撮影時期不明 写真に「5年10月」の文字あり	〇〇年10月	水久保沢 石堰堤		
R207	砂防工事	REKI-047	031	東京都	小河内村	水久保(ミズクボ)沢	撮影時期不明 写真に「5年10月」の文字あり	〇〇年10月	水久保沢 石堰堤		

ID	種別	アルファ名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・支流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R208	砂防工事	REKI-082	017	東京都	小河内村	サイグチ	昭和7年11月	1932年11月	サイグチ 石堤堤		
R209	砂防工事	REKI-082	018	東京都	小河内村	サイグチ	昭和11年2月	1936年2月	サイグチ 石堤堤	小河内村 サイグチ合曹砂防工事	
R210	砂防工事	REKI-083	029	東京都	小河内村	サイグチ			岫沢上流 サイグチ支流工事 竣工後状況		
R211	砂防工事	REKI-082	009	東京都	小河内村	ヌタクホ谷	昭和11年	1936年	ヌタクホ谷 石堤堤		
R212	砂防工事	REKI-082	027	東京都	小河内村	手沢	昭和10年	1935年	手沢 谷 石堤堤(臨時工事)		
R213	砂防工事	REKI-081	039	東京都	小河内村	釜土谷	昭和13年10月	1928年10月	釜土谷 堤防工事	小河内村釜土谷 堤防工事	
R214	砂防工事	REKI-082	031	東京都	小河内村	釜土谷	昭和2年10月	1927年10月	釜土砂防 石材採取		
R215	諸戸博士	REKI-087	004	東京都	小河内村	鶴屋	昭和2年8月12日	1927年8月12日	鶴の温泉ツルヤ支店(諸戸博士)		
R216	諸戸博士	REKI-076	006	東京都	小河内村	鶴屋	昭和10年5月	1935年5月	ツルヤホテル 諸戸博士一行	諸戸博士一行(ツルヤホテル前にて)	砂防42号, 52p, 5月6日に関連記事あり
R217	諸戸博士	REKI-087	038	東京都	小河内村	鶴屋			鶴の温泉 ツルヤ本宿 (左から2人目 諸戸博士)		
R218	砂防工事	REKI-080	038	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年7月	1932年7月	塩地谷 石堤堤(施工中)	塩地谷 堤防 工事中	
R219	砂防工事	REKI-050	013	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年7月	1932年7月	塩地谷 砂防工事	塩地谷 砂防工事	
R220	砂防工事	REKI-048	009	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月	1932年9月	塩地谷 石堤堤	塩地谷 石堤堤	
R221	砂防工事	REKI-080	039	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月	1932年9月	塩地谷 石堤堤		
R222	砂防工事	REKI-081	002	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月20日	1932年9月20日	塩地谷 第1石堤堤		
R223	砂防工事	REKI-047	030	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月	1932年9月	塩地谷 第7石堤堤		
R224	砂防工事	REKI-081	006	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月	1932年9月	塩地谷 第7石堤堤		
R225	砂防工事	REKI-081	019	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月	1932年9月	塩地谷 第7石堤堤		
R226	砂防工事	REKI-082	001	東京都	氷川村	塩地谷	昭和7年9月	1932年9月	塩地谷 支流		
R227	砂防工事	REKI-047	023	東京都	氷川村	寺地	大正9年9月29日	1920年9月29日	寺地 石堤堤(大正8年施工)	多摩川水源・寺地砂防工事 大正8年施行	「砂防」口絵写真集S52-2に大正12年撮影の写真あり
R228	砂防工事	REKI-041	022	東京都	氷川村	寺地			寺地 地形図		
R229	砂防工事	REKI-081	021	東京都	氷川村	カソラ谷	昭和7年9月	1932年9月	カソラ谷 第6石堤堤		
R230	砂防工事	REKI-006	037	東京都	氷川村	雲取山	昭和2年4月	1927年4月	雲取山 荒跡地(獅子岩付近高原地)		
R231	砂防工事	REKI-041	009	東京都	氷川村	氷川			氷川 地形図		
R232	砂防工事	REKI-052	009	東京都	氷川村	氷川	明治43年2月	1910年2月	氷川村 大字氷川 雪中の景	氷川村大字氷川 雪中の景	
R233	砂防工事	REKI-052	010	東京都	氷川村	氷川			上流からみた氷川村	上流からみた氷川村	

ID	種別	アルファ名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・源流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水道歴史館による説明コメント	備考
R234	文化	REKI-067	030	東京都	氷川村	氷川			氷川村の景	氷川村の風景	
R235	文化	REKI-079	024	東京都	氷川村	氷川	明治39年～40年	1906～1907年	氷川村 東京府林業事務所	氷川村 東京府林業事務所	
R236	諸戸博士	REKI-075	014	東京都	氷川村	日原	昭和9年9月	1934年9月	氷川村日原 旅館(諸戸博士)	諸戸博士他(氷川村日原の旅館にて)	初防39号, 35p, 9月20日に関連記事あり
R237	諸戸博士	REKI-076	012	東京都	氷川村	日原	昭和10年6月	1935年5月	日原 島 聖氏宅前 諸戸博士一行	諸戸博士一行(原島 聖氏宅前にて)	初防42号, 52p, 5月7日に関連記事あり
R238	諸戸博士	REKI-076	015	東京都	氷川村	千元峠	昭和10年5月	1935年5月	氷川 千元峠 諸戸博士一行	諸戸博士一行(氷川 千元峠にて)	初防42号, 52p, 5月8日に関連記事あり
R239	文化	REKI-091	024	東京都	氷川村	三河屋			三河屋前 市議決算委員一行		
R240	文化	REKI-051	001	東京都	氷川村	ワル谷	昭和11年11月23日	1936年11月23日	氷川村 日原造林ワル谷小屋	氷川村日原造林ワル谷小屋と従業員	
R241	諸戸博士	REKI-051	027	山梨県	小菅村	大菩薩峠	昭和4年8月13日	1929年8月13日	小菅村川入・大菩薩峠 石仏の傍らにて(右端 諸戸博士)		初防8号, 45p, 8月13日に関連記事あり
R242	砂防工事	REKI-079	006	山梨県	小菅村	大菩薩旧峠	昭和6年8月	1931年8月	大菩薩旧峠 親不知		
R243	砂防工事	REKI-079	011	山梨県	小菅村	大菩薩旧峠	昭和6年9月	1931年9月	大菩薩旧峠旧道 親不知		
R244	砂防工事	REKI-079	009	山梨県	小菅村	大菩薩旧峠	昭和6年9月	1931年9月	熊沢山より大菩薩旧峠		
R245	砂防工事 諸戸博士	REKI-048	029	山梨県	小菅村	山見川	大正2年8月	1913年8月	小菅村 山見川 崩壊地 左側に諸戸博士	小菅村山見川崩壊地 向かって左諸戸博士、三人目は山梨県一帯の崩壊技術師	
R246	砂防工事	REKI-082	006	山梨県	小菅村	余沢			小菅村 余沢崩壊		
R247	砂防工事	REKI-008	005	山梨県	小菅村	橋立	撮影時期不明 写真に「36年」の文字あり		山梨県橋立集落より大菩薩峠を望む		
R248	砂防工事	REKI-008	006	山梨県	小菅村	橋立	撮影時期不明 写真に「15年」の文字あり		山梨県橋立集落より大菩薩峠を望む		
R249	諸戸博士	REKI-076	010	山梨県	小菅村	赤沢小屋	昭和9年9月	1934年9月	赤沢小屋 諸戸博士一行	諸戸博士一行(赤沢小屋にて)	初防39号, 34p, 9月18日に関連記事あり
R250	砂防工事	REKI-083	001						水源林 石堰堤		
R251	砂防工事	REKI-083	026						水源林 石堰堤(施工中)		
R252	砂防工事	REKI-049	003				昭和15年8月18日	1940年8月18日	水源林 造林地 崩壊		
R253	砂防工事	REKI-082	030						水源林 崩壊地		
R254	砂防工事	REKI-093	025				明治40年	1907年	玉川 水源地模型		
R255	文化	REKI-051	011				明治40年10月	1907年10月	東京府林業事務所		
R256	文化	REKI-008	010						森林愛護の歌		
R257	文化	REKI-008	007						面談会の様子		
R258	砂防工事	REKI-048	010			柳沢	大正2年9月	1913年9月	柳沢 石堰堤	柳澤の石堰堤 9	諸戸北郎写真集1026(同一写真)
R259	砂防工事	REKI-030	038	山梨県		ミノウチ沢	昭和6年8月20日	1931年8月20日	朝日川沿岸真綿ミノウチ沢 木堰堤(昭和6年施行)	朝日川沿岸真綿ミノウチ沢砂防工事(木堰堤)昭和5年施行	

ID	種別	アルバム名	写真番号	都道府県名	地区名	地名・源流名	撮影年月日①	撮影年月日②	写真コメント	東京都水運歴史館による説明コメント	備考
R260	砂防工事	REKI-047	017		ブドウ沢		明治44年11月	1911年11月	ブドウ沢 砂防工		
R261	砂防工事	REKI-082	022		大太郎谷		昭和9年9月	1934年9月	大太郎谷 石堰堤		
R262	砂防工事	REKI-083	015		二久保沢		昭和3年11月	1928年11月	二久保沢 石堰堤		
R263	砂防工事	REKI-030	025		外香沢		昭和6年8月20日		外香沢 崩壊地		
R264	砂防工事	REKI-030	026	山梨県		御正体山	昭和6年8月20日		御正体山 崩壊地		
R265	砂防工事	REKI-030	024				昭和6年8月20日		場所不明 崩壊地		
R266	砂防工事	REKI-030	033	山梨県		杓子山	昭和6年8月20日		杓子山 北面の崩壊地		
R267	砂防工事	REKI-007	006						山 遠景		
R268	砂防工事	REKI-047	003						場所不明 石堰堤		
R269	砂防工事	REKI-047	014						場所不明 石堰堤		
R270	砂防工事	REKI-047	020						場所不明 石堰堤		
R271	砂防工事	REKI-079	034						場所不明 堰堤		
R272	砂防工事	REKI-081	032						場所不明 石堰堤		
R273	砂防工事	REKI-047	012	山梨県					山梨県 砂防工		
R274	砂防工事	REKI-084	030						木材の斜路		
R275	請戸博士	REKI-076	013	東京都	御岳	河原園(オジカエン)	昭和10年5月	1935年5月	オジカエン 請戸博士一行	請戸博士一行(オジカエンにて)	砂防42号, 52p, 5月8日に脚運び事務
R276	請戸博士	REKI-076	008				昭和10年12月	1935年12月	場所不明 請戸博士一行	請戸博士一行	
R277	文化	REKI-009	040				大正15年11月10日	1926年11月10日	青木園前 市塵一行		
R278	文化	REKI-069	022	東京都		高尾山	昭和8年8月26日	1933年8月26日	高尾山 公園委員一行		

5. 「砂防」における東京都水道水源林に関する諸戸博士の論文

5.1 概要

諸戸博士は、昭和3年～昭和19年に発刊された砂防協会の機関誌「砂防」に7本の論文を書いている。表1に論文の一覧を示す。

また、5.2節に各調査の行程を示す。5.3節には論文の本文を掲載した。

表1 「砂防」における東京都水源林調査に関する諸戸博士（度山）の論文一覧

収録巻数 掲載ページ	論文名・調査期間	調査 行程	ページ	備考
第8号 p. 41～53	昭和四年夏の東京市水道水源地旅行日記 期間：昭和4年8月5日～14日	表2	p. 213	
第39号 p. 29～36	東京市水道水源林視察旅行記 期間：昭和9年9月15～22日	表3	p. 226	巻頭に写真あり
第42号 p. 48～53	東京市水道水源林視察旅行記 期間：昭和10年5月2～9日	表4	P. 235	巻頭に写真あり
第49号 p. 32～39	昭和十一年秋の多摩川水源地旅行日記 期間：昭和11年9月19日～25日	表5	p. 242	
第54号 p. 37～53	昭和十二年初夏の東京市水道水源地旅行日記 期間：昭和12年6月7日～13日	表6	p. 251	
第86号 p. 45～57	東京市水源林視察旅行記 期間：昭和17年9月10日～16日	表7	p. 268	
第92号 p. 37～41	昭和十八年東京都水源林視察旅行記 期間：昭和18年10月25日～11月3日	表8	P. 282	

（注）本写真集には、諸戸博士の7本の論文を本表に示す「ページ」に掲載しているので参照されたい。

5.2 調査行程

表2 「砂防」第8号における調査行程（昭和4年8月5日～14日）

行先		調査内容
5日	青梅駅→（自動車）→棚澤 福島賢三氏方	
6日	→大久保崩壊地→火打石の砂防小屋	・大久保崩壊地の砂防工事（東京府，大正十年実施） ・火打石の砂防小屋（東京市，空積石堰堤，山腹編柵工）
7日	→氷川の水源林派出所→（徒歩）→小河内の鶴屋支店→東京市の合宿所	
8日	→水根沢→手沢	・水根沢東京市混合積石堰堤） ・手沢（空積石堰堤）
9日	※記述なし	
10日	→（馬）→丹波山村 野村屋→落合の水源地事務所	
11日	→ハビロ沢→カネバ沢	・ハビロ沢及びカネバ沢（量水堰堤）
12日	→ヒノキオ沢、軍治澤、オオトクサ沢の砂防工事	※砂防工事に関する詳細な記述なし
13日	→泉水谷→丸川峠→大菩薩峠→塩山ホテル	
14日	帰京	

表3 「砂防」第39号における調査行程（昭和9年9月15日～22日）

	行先	調査内容
15 日	塩山駅→（乗合自動車）→番屋→（馬） →柳沢峠→横手山水呑沢→落合出張所	・横手山水呑沢 （空積堰堤工事及び護岸工事）
16 日	→ハビロ沢→ハビロ苗圃→高橋部落の鶏 冠神社→犬切峠→犬切沢→落合出張所	・ハビロ沢（量水堰堤） ・犬切沢の砂防工事
17 日	→（馬）→犬切峠→一ノ瀬部落→雲取山 路→将門峠→砂防人夫小屋→長アラシ沢 →屋敷沢→大常木、小常木の界のハシカ キ垂み→小常木川→丹波山村野村屋旅館	・長アラシ沢の砂防工事 （空積谷留の階段工事）
18 日	→（馬）→大澤峠→（徒歩）→小菅出張 所→（馬）→大菩薩峠道→川入事業地→ 赤谷の砂防人夫小屋→川久保→大村屋旅 館	
19 日	→（馬）→小河内村川野→三澤 坂村氏 方→（徒歩）→ありさめ→（徒歩）→小 河内村湯場鶴屋支店	・ありさめ崩壊地の砂防工事視察 （空積堰堤、張石水路、護岸石垣等）
20 日	→（豆自動車）→氷川出張所→日原川流 域の樽澤→日原山上旅館	・樽澤（東京府農林課施行の荒廢地復旧 工事）
21 日	暴風雨のため、予定変更 →氷川出張所→（自動車）→御岳の河鹿 園	
22 日	帰京	

表4 「砂防」第42号における調査行程（昭和10年5月2日～9日）

	行先	調査内容
2日	塩山駅→（自動車）→待合茶屋→（馬） →柳沢峠→落合出張所	
3日	→犬切沢→市ノ瀬事務所→牛首→市ノ瀬 事務所→犬切沢→鶏冠神社→落合出張所	・犬切沢の砂防工事（山腹工） ・牛首（砂防工事予定地） ・犬切沢（砂防工事予定地）
4日	徒歩）→犬切峠→（馬）→一ノ瀬、二ノ 瀬、三ノ瀬の部落→長アラシ澤→屋敷澤 の會所小屋→小常木の界のハシカキ垂ミ （記念撮影）→岩岳山→小常木川→ナメ トロ→丹波山村野村屋旅館	・長アラシ澤（石堰堤、張石水路、護岸 石垣等）
5日	倉沢→塩の山→野村屋旅館→右岸側の山 腹工事→越タワ峠（記念撮影）→小菅村 大村旅館	・倉沢の崩壊地（山梨県、荒廃山地復旧 工事、堰堤4基） ・塩の山市有林の崩壊地 ・小菅村に向かう途中の右岸側の山腹工 事
6日	山澤川→大村旅館→小河内村湯場鶴屋支 店	・山澤川県直営の復旧工事（山腹工、護 岸石垣、空積石堰堤）
7日	→熱海→（徒歩）→氷川→東京市林務掛 の合宿所→（徒歩）→日原 原島豊氏方	
8日	→一杯水→仙元峠→山の神前（記念撮影） →カツラ谷→シホヂ谷→火打石谷→布瀧 →棚澤峰→（自動車）→御岳の河鹿園	・カツラ谷、シホヂ谷、火打石谷、布瀧 等の市有林視察
9日	→多摩川沿岸の民有杉林→御岳山ケーブ ルカーで山頂に→帰京	・多摩川沿岸の民有杉林（間伐試験地）

表5 「砂防」第49号における調査行程（昭和11年9月19日～25日）

	行先	調査内容
19日	塩山駅→（自動車）→番屋茶屋→（馬）→柳沢峠→大日影沢口の砂防小屋→柳澤本流の砂防工事→落合出張所	・柳沢本流の砂防工事（空積石堰堤3基）
20日	→水神社殿裏の赤坂沢→社殿前で記念撮影→落合出張所	・水神社裏の赤坂澤（空積石堰堤4基，山腹石積工を設けたが、昭和10年の豪雨で破壊された。復旧のため、練石積堰堤と山腹工事を実施
21日	カネバ沢の量水堰堤→柳澤本流の量水堰堤→高橋川の量水堰堤→三條橋→逆瀬川の砂防工事→丹波山村野村旅館	
22日	→山梨県荒廢林地復旧事務所→塩の山市有林の工事→明治40年の水害でできた河原の赤松林内で昼食塩の山市有林の工事→野村旅館	
23日	→塩の山の工事→親川→（自動車）→小河内村川野の巡查駐在所→雨乞場市有林→駐在所の前で記念撮影→（自動車）→湯場鶴屋支店	・雨乞場市有林（S10 施行の救済砂防工事の堰堤，砂防48号口絵参照）
24日	大ムゾ谷の砂防工事→熱海の珈琲おため→（自動車）→氷川村東京市林務掛の詰所→寺地→氷川村→（自動車）→御岳の若松旅館	・寺地（東京府，荒廢林地復旧工事の山腹石積、丸田筋工、「いぬあかちやの植栽」
25日	若松旅館にて記念撮影→青梅駅→東京府林業事務所→小木曾村厚澤→帰京	・小木曾村厚澤（S11 施行中の筋工，積苗工，張石水路，護岸石垣等）

表6 「砂防」第54号における調査行程（昭和12年6月7日～13日）

	行先	調査内容
7日	塩山駅→（自動車）→神金村番屋→（馬）→柳沢峠→梅の木台→落合出張所→ハビロ、カネバの量水堰堤→落合出張所	・柳沢峠 水神社の大鳥居（總高三十二尺，幅二十四尺） ・梅の木台（S11 施行の砂防工事） ・ハビロ沢，カネバ沢の量水堰堤
8日	（徒歩）→犬切峠→市ノ瀬の保護員詰所→犬切沢→犬切峠→落合出張所→高橋川、柳沢の量水堰堤→落合出張所	・犬切澤（S11 竣功の練積石堰堤） ・高橋川および柳澤の量水堰堤
9日	→水神社に参拝→（徒歩）→三條橋→丹波山村野村旅館→塩の山の工事→野村旅館	
10日	徒歩）→鴨澤→復知の大室方→（自動車）→小河内村貯水用堰堤の築設箇所→寺地の砂防工事→大澤→（徒歩）→日原詰所	・日原詰所（詰所の庭にタウヒを植える）
11日	日原本流を遡り、一石神社→小川大日谷→侍岩→詰所	
12日	日原川右岸にある巳ノ戸澤の練積石堰堤→詰所→（徒歩）→氷川→（自動車）→鳩ノ巣→対岸の保安林編入予定地→府直営の林道及び雲仙橋→（自動車）→御岳和歌松	
13日	（自動車）→吉野村河岸の荒廢林地復舊工事→青梅町東京府林業事務所→帰京	・吉野村河岸の荒廢林地復旧工事（S8 工事，空積山腹石積工，張石水路工，練積護岸石積工，藁筋工）

表7 「砂防」第86号における調査行程（昭和17年9月10日～16日）

	行先	調査内容
10日	塩山駅→（バス）→小田原橋→（徒歩） →黒門裂石の木炭倉庫→柳沢峠→落合出張所	・峠の大鳥居が腐朽して無い
11日	→犬切峠の砂防工事→一ノ瀬詰處→木炭倉庫→山腹法切→落合	・犬切峠の砂防工事（練積石堰堤と山腹編柵），S11年に山梨県の補助を受けて再築した箇所
12日	ハビロ沢の量水堤→カネバ沢の量水堤→落合川、高橋川の量水堤→（徒歩）→三條橋→丹波山派出所→塩の山の砂防工事→野村旅館	・金場澤の量水堤（右岸の取付が悪く漏水している） ・東京市有林塩の山の砂防工事（S12着手，面積三町歩，工費約10万円）
13日	→山梨県荒廃林地復旧事務所→塩の山工事→東京市小河内貯水池建設事務所工事課親川出張所→御祭部落から新設の後山林道を視察→青岩谷片栗谷五平指窪の伐木小屋→県道口→（自動車）→酒井村長宅→氷川村三河屋旅館	・御祭部落から新設の後山林道を視察（長さ2,200m、幅4m、工費約31000円） ・青岩谷片栗谷五平指窪の伐木小屋の空積堰堤
14日	→治山治水協会で新設中の道場→小河内貯水池建設事務所→大堰堤の床掘→東京府青梅地方事務所氷川分室（事業所）→日原東京府詰所	
15日	→日原川上流→一石山神社→小川谷→氷川町→（バス）→御岳和歌松旅館	・日原川上流の林道予定線 ・小川谷の東京府直営の荒廃林地復舊工事（高さ3mの空積堰堤，高さ2mの空積堰堤）
16日	帰京	

表 8 砂防第 9 2 号における調査行程（昭和 1 8 年 1 0 月 2 5 日～1 1 月 3 日）

行先	調査内容
25 日 青梅駅→西多摩郡地方事務所林務課→ （電車）→御岳駅→（バス）→氷川町三 河屋旅館	
26 日 →大澤林道→帝国治山治水協会の資源寮 →東京都西多摩郡地方事務所林務課分室→ 日原の水源林派出所	
27 日 →日原川に沿って林道視察→一石山神社 →瀧→日原事務所→都道改修監督小屋→ （バス）→小河内村湯場鶴屋支店	
28 日 →峰谷川入口の隧道工事→川野の恵比寿 屋→小菅村大屋旅館	
29 日 →川入谷→大屋旅館→大田和峠→丹波山 村野村旅館	
30 日 →塩の山砂防工事記念碑→丹波川に沿っ て県道を下り支流後山川に入り林道視察 →黒滝→丹波山村野村旅館	・記念碑 高さ 4 尺、幅 2 尺 5 寸、表面 に「治山治水 諸戸北郎著」
31 日 →三條橋→逆瀬川→落合	・逆瀬川の林道及び石堰堤
1 日 →カネバ沢→→柳澤峠→五郎田→塩山→ 勝沼町パノラマ遊園地→甲府（県庁）→ 暖露館	・カネバ沢の潤葉樹林間伐試験地 （澤口に量水堰堤を設けて大正四年以来 雨量と林相との関係を研究）
2 日 →山梨県中巨摩郡清川村→岡本太郎君 方→甲府→石和町→甲運樓→黒駒村→御 坂峠→河口湖畔のフジ・ビュー・ホテル	・清川の砂防工事視察（明治 4 0 年の大 水害地の復旧工事，空積堰堤，堰堤の法 は土木式の緩勾配） ・黒駒勝蔵の生家
3 日 →甲府市皆平寮→竜王沢→帰京	

5.3 論文の本文

5.3.1 砂防第8号 昭和四年夏の東京市水道水源地旅行日記

調査期間：昭和4年8月5日～14日

昭和四年度夏の東京市水道水源地旅行日記

度 山

東京市の水道水源地たる東京府下西多摩郡羽村より上流の多摩川流域三十一方里の地は徳川幕府時代より水源涵養林として問題になつて居つたに拘らず明治になつてから却て等閑に附せられ山林を濫伐する、火入をする、傾斜地を勝手に開墾すると云ふ始末で水源地は著しく荒廢し盛夏の候に市民を水責になし六郡六十九箇町村民は灌漑用水の欠乏を告ぐるのである。又大雨降れば多摩川沿岸の地は洪水の害を被る即ち早魃の後から洪水が見舞ふ此儘に放任し其經營を怠れば市民の水責と田畠の涸渴と水害等其害益々激甚となるに至るは明かである。明治三十三年東京府知事千家男は本多静六博士に其取調を囑託した。本多博士は調査の上此水源地の森林を府若しくは市で完全に經營するの急務なることを答申したので知事は時の東京市長松田秀雄氏に對して水源林を經營することを勧めたが松田市長は之を拒んだので千家知事は御料林を譲受け府自ら水源林を經營することにした。其後東京市で之を經營することになり明治四十三年に府有林、山梨縣有林、御料林等を譲受けた。所謂東京市水道水源地は羽村引入口より上流の多摩川流域 48,000 町歩の地を云ふので其内耕宅地、道路、川敷等の面積は僅々 4000 町歩で他は山林及原野である。此内現に東京市で經營する森林面積は約 16,200町歩で今日迄で無立木地散生地は大略植栽せられた。此等の植栽樹林は將來の市の財源となる。

即ち市は治水事業を完成すると同時に莫大なる利益を収め得るのである。

余は八月五日より十日間水源地を視察したから次に其旅行日記及所感を記す。

踏査地は青梅より多摩川を溯り古里、氷川、小河内を経て山梨縣に入り丹波山、落合、大菩薩を経て鹽山に出で歸京した。

八月五日、朝八時新宿驛發の電車に乗込み立川驛で青梅電車に乗換へ、九時青梅驛に着いた。プラットホームには打合せて置いた東京市水源林の近藤君が見えず豫期せなかつた東京府の及川君が居た。及川君は出迎へでなく全く余の出張の事を知らず今日は他に用向あつて棚澤迄行くので偶然出會つたのである。余は下車して水源林事務所へ行かんと思つたが暑いし荷物があるから如何にせんと及川君に相談して居た間に電車は發車した九時半終點二俣尾驛で下車して驛前の内務省多摩川砂防工場に立寄り石井君に相談せんとしたが石井君は七月十八日から病氣で引籠中との事で仕方がなく青梅の水源林事務所へ電話をかけ事情を話した。次の電車で水源林の小島君、近藤君がやつて來たが暑くて出られないから事務所の厄介になり辨當を食し三時半から自動車で棚澤に向つたが途中道路工事で自動車通ぜず二度乗換へた。途中御嶽に分るゝ處に青梅鐵道株式會社の經營する射山溪遊園地あり奇岩怪石河中に聳立し激流狂奔して絶景地である河畔には料理屋旅館がある其川向ふに時事新報社後援のキャンプ村がある。キャンプ村とはヒノキ林の内にテント生活をして居るのである。多摩川の流は清流で景色も良い處であるがスグ向ふ側に料理屋があつて藝者の

三味線の聞えるのは餘り青年のキャンピングには感心せない。少し上流に行けば何程でもキャンプに適する場所があると思ふ。四時半棚澤の福島賢三氏方に着、休憩。福島定彦氏の案内で六時出發急坂を登ること約半里、七時、峰の福島氏方に着し厄介になる。

六日晴、午前七時出發ワラジがないので特に依頼して作つて貰ふた近來はゴム底足袋が安くワラジは高いからワラジを使用するものなく従て賣物がないからである。途中東京府で大正十年頃に實施した大久保崩壊地の砂防工事を見る。空積石堰堤は少しも破壊せず溪底は良く治まり居り溪岸のニセアカシヤは良く繁茂して居る。但し山腹に崩壊せる處があるから之れは堰堤を一本入れて護岸石垣をせなければならぬ。急坂を上下すること三回途中溪水で渴を静め勇氣を起して十一時火打石の砂防小屋に達す。此處は東京市で數年前から砂防工事をして居る處である。工事は空積石堰堤と山腹編柵工事である。近藤君の設計で池田君が實行の任に當つて居るのである。休憩して居ると兒玉所長がやつて來た共に晝飯を濟ませ午後石堰堤を三本見た。石堰堤の方向は上流に直角にするがよい、尤も下流の方の都合の悪い處や又は曲線の處には堰堤を設けないがよい。三本共何れも少し方向が違つて居る。五時出發七時半棚澤に歸り福島賢三氏方に泊る此家に泊る毎に近所の七十歳を越えた老婦が親切に世話してくれたが今度は不在で淋しかつた。

七日晴、八時半棚澤を出立して十時氷川の水源林派出所に着いた。當日は非常に暑くて三十五度二分で從來の最高である。氷川は海拔三百米の處であるが、青梅、東京よりも暑い。午後三時迄

休憩し之れより徒歩三里、五時半に小河内の鶴屋支店に着す。本年は緊縮内閣の爲めか日光、鹽原等へ行く客が小河内に來る之れ安いからである。宿は満員であつたが漸く一室を明けて貰つて泊ることにした。二人より寝ることが出来ないので余と兒玉所長と二人泊り他は東京市の合宿所に行く。此宿の評判娘は近頃東京へ嫁入したので淋しい感じがしたが右隣の室は夫婦か兄妹か不明の男女一組左隣りは神経痛で時々口が上下に動く幽霊の様に細長なノロリノロリと歩む五十歳許りの妻君、又向ふの室は十八九の姉妹で一人が腦病で時々下手な三味線を弾いて居る。三方女客に圍まれ。蚤はさす、兒玉君はうなる。眠れず閉口した。

八日晴、朝八時出立水根澤に行く途中多摩川水電の取入口の工事を見て松田技師の説明を聞く。標準水量は六百個なれど最少は百五十個のことありと、工事は誠に危険の様であり又河中に砂及砂利を堆積してあるが一朝洪水來れば皆流す危険なりと思はる。之より東京市の砂防工事混合積石堰堤を見る。尙石材運搬用の木馬道を傳つて手澤に行き一昨年築設の空積石堰堤を見て杉林内の小屋に歸り晝飯、四時歸る。夕方より大雷雨にて直徑二センチメートルの雹が降る。

十日晴、午前八時小河内を出立して約一里、川野で内務省の市川君、學生尾形君が迎へてくれた。此日内務省の小菅工場を見る筈であつたが緊縮に依る定夫、人夫の首切騒ぎの爲め中止して馬で丹波山村に向ひ十二時野村屋着。晝飯、市川君及尾形君に別れて兒玉、中川、近藤君と午後四時丹波山村を發し行くこと十町許で雷雨に遭ひ路傍の岩の下で雨の止むを待つこと約二時間、六時出發途

中の製材工場で休憩し提灯を借りたが風雨の爲めに使用出来ず時々光る電光で路を見出しつゝ進み九時に神金村落合の東京市水源林事務所に着し泊る。

十一日晴、午前九時より葉廣澤及金場澤の量水堰堤の工事を見る午後雷雨あり近傍に落雷した。

十二日晴、八時半より檜尾澤、軍治澤、大トクサ澤の砂防工事を巡視し午後一時歸る。此等の澤に於ける砂防工事の結果は良好でヤマハンノキ良く繁茂し堰堤の見えざる程である。又ヒノキとカラマツの混合林も生長非常に良好で今や根拂間伐の手入を要する状態である。午後夕立あり外出せず。

十三日晴、午前七時落合を出立大菩薩山に向ふ一行は兒玉、中川、近藤、河野、齋藤、學生林、尾形の諸君で九時泉水谷着、休憩十時半丸川峠着。花畑の草花は實に立派である此處に架設する鐵索を見る。十二時半海拔二千米の大菩薩三角點に着し、辨當を食す此時霧深く眺望なし。ここを出立少時にして雨降り出し岩の下にて休み一時半海拔千九百米の大菩薩峠に達す。此處には首無石地藏あり。何回造つても首を取らるゝとのことである。

此處にて河野、齋藤、林、尾形の若者組に別れ午後二時出立、時々夕立に遭ひながら五時半小田原橋着。六時發の自動車で鹽山驛に着し甲府に行く筈なりしも汽車に乗遅れた爲め鹽山ホテルに泊る。

十四日晴、午前九時二十八分鹽山發の列車に乗込み立川で兒玉中川兩君に別れ一時二十分新宿着、二時無事青山の寓についた。

次に東京市水源林に於ける砂防工事の設計書を掲げん

砂 防 工 事 設 計 書

豫定工費 金九千二百二十二圓八十四錢

内 譯

一、山腹工事 金七千二百三十四圓八十四錢

(1) 山腹石積 三十二ヶ七百五十平方米八

此工費金三千七百九十一圓五十四錢

(2) 山腹石垣二十ヶ 二百七十四平方米

此工費金八百七十六圓八十錢

(3) 編柵工 六千九百五十米

此工費金二千五百六十六圓五十錢

二、修繕費 金一千八百四十三圓也

(1) 山腹石垣二十二ヶ 三百四十七平方米

此工費金一千百十圓四十錢

(2) 編柵工 千三百八十米

此工費金七百三十二圓六十錢

三、雜費 金百四十五圓

(1) 生子板外七點購入代

工 種 別 明 細

一、山腹工事

(1) 谷留型山腹石積 金三千七百九十一圓五十四錢

場 村 名	所 林 名	番 號	形 狀			單 價	金 額
			延長	高サ	面積		
氷川村	火打石谷 外 二	1	米 6,3	米 2,0	平方米 18,3		
		2	9,5	2,4	30,8		
		3	7,2	2,5	22,7		

		4	6,2	2,5	16,7		
		5	9,6	2,8	35,9		
		6	6,5	2,5	19,2		
		7	4,5	2,5	14,2		
		8	7,2	2,5	22,7		
		9	5,6	2,5	18,2		
		10	9,6	3,0	35,9		
		11	9,3	2,5	32,2		
		12	13,4	2,6	47,3		
		13	12,9	2,6	43,5		
		14	10,3	2,8	38,6		
		15	5,8	2,5	18,8		
		16	10,0	1,8	26,5		
		17	6,9	2,0	19,0		
		18	6,9	2,0	19,0		
		19	8,2	2,0	22,4		
		20	6,5	2,0	16,2		
		21	7,4	2,0	17,4		
		22	6,8	2,5	21,7		
		23	6,2	1,6	16,6		
計					573,6	5,05	2,896,68
小河内村	天 外 神 山 五	1	6,0	2,5	20,9		
		2	7,3	2,5	24,8		
		3	8,0	2,5	25,7		
		4	4,5	2,5	15,8		
		5	5,8	2,0	17,0		
		6	5,8	2,0	17,0		
		7	5,8	2,0	17,0		
計					138,2	5,05	697,91
神金村	萩原山	1	6,5	2,0	19,5		
		2	6,5	2,0	19,5		
計					39,0	5,05	196,95
合計		32			750,8	5,05	3,791,54

一 平 方 米 當 單 價 表

種 目	形狀及 寸 法	數稱	數量	單價	金額	摘 要
谷留形山 腹石垣	面30樞 控50樞 內外	平方米	1.0			空積
築 石		同	1.0			玉石、割石
床 堀		立方米	0.5			土砂、礫
人 夫		人	0.3	1.50	0.45	床堀
石 工		人	0.4	4.00	1.60	石材採集築立
人 夫		人	0.9	1.50	1.35	一切
人 夫		人	0.8	1.50	1.20	石材採集運搬
人 夫		人	0.3	1.50	0.45	礫採集並運搬 石工手傳、仕 上一式其他
計					5.05	

(2) 山腹石垣

金八百七十六圓八十錢

場 所		個所數	面 積	單 價	金 額
村 名	林 名				
神 金 村	萩 原 山	3	53.0	3.20	169.600
小河內村	天 神 山 外 五	6	106.0	3.20	339.200
氷 川 村	火 打 石 谷 外 二	11	115.0	3.20	368.000
計		20	274.0		876.800

一平方米當單價表

種 目	形狀及 寸 法	數稱	數量	單價	金額	摘 要
山腹石垣	面30樞 控50樞 內外	平方米	1.0			空積
築 石		同	1.0			野面石、玉石
石 工		人	0.2	4.00	0.80	石材採集、築立
人 夫		同	1.2	1.50	1.80	共一切
人 夫		同	0.4	1.50	0.60	床堀石材採集運搬
計					3.20	石工手傳、仕上 一式其他

(3) 編柵工

金二千五百六十六圓五十銭

場 所		個所	延長	単價	金 額	摘 要
村 名	林 名	數				
神 金 村	萩 原 山	13	1.500	円 .330	円 495.00	
同	同	13	法切		171.00	
小 菅 村	川 入	7	1.000	.330	330.00	
小河内村	茂 久 保	9	2.200	.330	726.00	
同	天 神 山 外 五	7	550	.330	181.50	
氷 川 村	火 打 石 谷 外 二	46	1.700	.390	663.00	市苗圃養成は んのき六百本 植付費を含む
計		82 13	6.950		2,566.50	

一米當單價表

種 目	形状及寸法	數稱	數量	單價	金 額	摘 要
編 柵 工	地上高 0.3米	米	1	円	円	四段又は五段搔
杭 丸 太	末口 0.06米	本	1.5			市有林より採集
粗 朶	長 1米	本	5			同 上
柳 插 穂	元口 0.03米	本	5			同上 柳挿穂に萱株 を代用することある べし
苗 木	長サ 3米	束	0.1			あかしや苗又は はんのき苗
人 夫	直徑 0.3米	本	(3) 3	0.01	0.03 (0.03)	材料採集仕上一 式
	長サ 0.3米	人	0.2 (0.24)	1.50	0.30 (0.36)	
計					0.33 (0.39)	

備考

括弧内の分は火打石谷外二部分林内編柵工の單價括弧のなき

ものは他の市有林内の編柵工の単價なり。此の單價の高價なるは材料採集に多くの經費を要するに依る。

二 雜 費

金百四十五圓

品 名	形狀及寸法	數稱	數量	單價	金 額
生 子 板	六尺もの	枚	75	1.05	78.75
釘	五寸、六寸	貫	5	90	4.50
針 金	十八番線	同	3	80	2.40
薄 緣	長さ一間	枚	20	1.20	24.00
鋼 鐵	八分八角	貫	6	2.20	13.20
唐 鋏		挺	5	1.63	8.15
萬 能		同	5	1.90	9.50
ジ ョ レ ン		同	5	90	4.50
計					145.00

臨時部砂防工事設計書

豫定工費金一萬四千七百六十二圓四十四錢

内 譯

金一萬四千三百九十七圓四錢

内 職工人夫賃金 一二、七四八、一八
材料購入費 一、六四八、八六

但し石堰堤八個 此體積一千七十一立方米五

金九十六圓二十錢 職工人夫賃

但し附屬石積二個 此面積二十六平方米

金二百六十九圓二十錢 雜 費

但し工事用具鐵板外七點代

主なる工種を舉ぐれば次の如し

(1) 石堰堤並附屬石積

山梨縣東山梨郡神金村字萩原山東京市有林内葉廣澤

金八百十五圓六十五錢

内 金七百十二圓五十錢

練積石堰堤 延長一五米 高さ一、〇 堤冠幅〇、六米
(布積) 法二五% 體積二二立方米

但し量水堰堤改築設 (金具一式を含む)

金四十八圓十錢

附屬石積 十三平方米

金五拾五圓五錢

附屬石堰堤 延長七米 高さ一米 堤冠幅〇、五米
法二五% 體積四立方米五

(2) 混合積石堰堤

東京府西多摩郡小河内村大字原字天神山外五市有林内水久保澤

金四千六百三十二圓五錢

職工人夫賃 三、九五六圓八五〇 材料購入費 六七五圓二〇〇

混合積石堰堤 延長二一、八米 高さ六、〇米 堤冠幅二、五米
法二五% 體積二九一立方米 石材 玉石

種 目	形状及寸法	数稱	數量	單價	金 額	摘 要
混 合 積 石 堰 堤	延長 21米8 高さ 6.0 堤冠幅 2.5 法 2分5厘	立方米		圓	圓	
築 石	面 0.5米以上 控 0.7	同	291			玉石、割石
床 堀		同	99			岩石 60立方米 土砂 39立方米
混 凝 土	調合 1.3.6	同	51.1			築上 146立方分 1立方分に付0.35立方分
膠 泥	同 1.3	同	4.83			築上 161平方分 1平方分に付0.03立方分
砂		同	30.38			混凝土1立方分に付1/2 膠泥1立方分に付1立方分
砂 利		同	51.1			混凝土1立方分に付1立方 米 混凝土1立方分に付1/6 膠泥1立方分に付1/3
セメント		樽	84.4	8.00	675.20	1樽(172赶入)0.12立方分 小河内村熱海着代 セメント運搬(小河内村 熱海より工事現場迄)
人 夫		人	34	1.50	51.00	床堀岩石1立方分に付 0.9人
石 工		同	54	4.00	216.00	同 岩石1立方分に付 0.3人土砂同0.3人
人 夫		同	30	1.70	51.00	築石採集1立方分に付 0.5人
石 工		同	145.5	4.00	582.00	築石採集運搬樋道 1.5軒 分を含む1立方分に付 2.4人
人 夫		同	698.5	1.70	1,187.45	築立 1立方分に付0.57人
石 工		同	166	4.00	664.00	築立石工手傳 1立方分に 付 0.57人
人 夫		同	166	1.70	282.20	砂採集 1立方分に付 2.50人
同		同	76	1.50	114.00	砂利採集 1立方分に付 2.20人
同		同	113	1.50	169.50	混凝土膠泥練方敷入突固 共1切1立方分に付2.60人
同		同	146	1.70	248.20	準備仕上一式雜役(水路 歩道作一切)
同		同	261	1.50	391.50	
計					4,632.05	

(3) 空積石堰堤

東京府西多摩郡小河内村大字原字天神山外五市有林内水久保澤
金一千八百四十二圓九錢也

空積石堰堤 延長一七、一米 高さ五、〇米 堤冠幅二、五米
法 二分五厘 體積一九一立方米 石材 玉石

種 目	形狀及寸法	數稱	數量	單價	金 額	摘 要
石 堰 堤	延長 17.1 高さ 5.0 堤冠幅 2.5 法 2分5厘	立方米	191	圓	圓	空積
築 石	面 0.5米以上 控 0.7	同	191			玉石、割石
床 堀		同	63			岩石 38 土砂 25 立方米
石 工		人	34.2	4.00	136.80	床堀 岩石1立方メートルに付 0.9人
同		同	95.5	4.00	382.00	築石 採集1立方メートルに付 0.5人
同		同	95.5	4.00	382.00	築立 1立方メートルに付0.5人
人 夫		同	18.9	1.70	32.13	床堀 岩石1立方メートルに付0.3 土砂1立方メートルに付0.3
同		同	382.0	1.70	649.40	築石採集運搬 1立方メートルに付 2.0、1軒樋道作を含む
同		同	95.5	1.70	162.35	石工手傳 1立方メートルに付0.5人
同		同	57.3	1.70	97.41	仕上雜役
計					1,842.09	

明治十七年武井守正山林局長歐洲森林視察旅行報告の一節
度 山

佛國なんしい山林學校に於て海岸砂防の模型を見たが其事業の世間に有名な如く
頗る行届いたもので植樹前砂中にナラの板にて高さ五尺前後の垣を作り砂の之を埋む
るに従ひ次第に引上げ常に砂上に若干尺を出して置くのである

此の垣の現在せる長さを總計すれば七百キロメートル(約百七十五里)に及んだとの
ことで模型の傍には砂防に効ある灌木莎草等を根引して根鬚の砂中に入る形狀を示さ
れ又模型の側面に地層の構造を示して土石の脱落し易き原因を知らしめる等は殊に有
益であると感じた云々。

5.3.2「砂防」第39号 東京市水道水源林視察旅行記

調査期間：昭和9年9月15日～22日

りの河原、水溜り、又は流水敷となり水害後1ヶ月餘、猶洪水滔々としてゐる。樺の巨木は根元を深く洗掘せられ、或は將に倒れんとするものさへあるのに、良く水勢を防ぎ、家屋敷を立派に護り了へたものである。 以上

東京市水道水源林視察旅行記

度 山

昭和九年九月十五日(土)曇、午前六時晨起、七時三十分青山の宅を出で市電にて八時新宿驛に着す。驛の二等待合室にて東京市のN君に會し共にプラットフォームに行き長野行列車に乗込む。暫くしてY君來る。列車は八時三十分發す。九時立川驛にて東京市のH君及東京府のT君乗車し一行五人となる。十一時三十一分鹽山驛に着す。之れより乗合自動車にて山梨縣道を東方に向つて走ること約二里、十二時前、番屋に着し自動車待合茶屋にて休憩辨當を食す。乗合自動車の同乗者に大きなリツクサツクを荷ふ三人連のハイカーあり自動車賃五十五錢は高い。何時から値上したのか三十五錢に負けよと盛に車掌に談判して居たるが、此自動車賃は上りは五十五錢、降りは三十五錢なることが分り大笑ひとなりき。

後にて聞くに此三人は落合にて休み、二人は少し早く出立して一の瀬部落に行き、一人は遅れて出發し路を迷ふて丹波山村に出で民家にて夕飯を食し夜中雲取山に向ひ出發せしとのことなれば懷中淋しきものなりしと見ゆ。又一の瀬に行きし二人は二人の懷中合せて一圓よりなかりしとのことなれば三人共に懷中淋しき人々にてありしならん。余等一行は午後一時馬にて出發。三時海拔千四百七十米の柳澤峠に着く。水神社大鳥居の前に落合出張所詰の山下君が出迎へらる。之れより右方に鷄毛山路を行くこと約二里、四時半横手山水呑澤に着す。此澤には空積堰堤工事及護岸工事の施行中なり。工費豫

算千五百圓なりと。午後五時半出發、急坂を降りて途中落合出張所員の提灯持での出迎に會ひ、六時半落合に在る東京市水道局庶務課林務掛落合出張所に着し湯に入り晚餐を終へ九時床に入る。大正五年に此處に來た時に讀んだ次の名句を想起した。

「大君に捧ぐる水を淨めんと來る吾等か落合の里」

九月十六日(日)曇、午前五時半晨起、九時半より春木、山下兩技手の案内にて徒歩、葉廣澤の量水堰堤を見る。越水堰幅一米、水位十二糎なり。之れより苗圃を見る。苗木はにせあかしや、やまはんのき等にて砂防用苗が大部分を占む。十二時前高橋部落の鶏冠神社に着し休憩辨當を食す。午後一時出發。一時半犬切峠を越ゑて犬切澤に入り砂防工事を見る。山腹の崩壊面積約四ヘクタールあり。山腹工事は柳筋工及丸太筋工にて柳は良く萌芽し成績宜し。溪間には空積堰堤十六本あり、使用せる石材が餘り小なる故豪雨或は地震あらば破壊される憂あり。故に大石材なき場合にはセメントを使用するを宜しとす。之れより歸路に着き六時落合出張所に歸着す、晚餐を終りし時に前水源林事務所長K君來らる。

東京市水源林萩原山に於ける荒廢林地復舊工事の單價表を示せば次の如し。

山 腹 編 柵 工

出來高總數 15.700米 (一米當0.30強)^四

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
杭	長1米		本	23,130.000	0.02 ^四	462.60 ^四	一米當1.5本弱
小 丸 太	末口徑0.06米		同	15,420.000	0.06	925.20	二段乃至三段搔き
柳 挿 穂	長0.3米1米繩ノ		束	1,542.000	—	—	—
苗 木	長0.5米以上		本	13,000.000	4本當 5.40	70.20	—
同	にせあかしや		同	37,000.000	同 4.25	157.25	—
同	同 山はんのき		同	770.000	同 5.00	3.85	—
人 夫	—		人	1,876.459	0.85	1,594.99	{ 法切階段切杭打込 柵搔一式一米當 0.12人強

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
人 夫	—	—	同	1,568.248	0.85	1,333.01	{一米當0.10人弱 材料採集運搬
同	—	—	同	206.436	0.85	175.47	{苗木植付其他仕上 一式、 一米當0.013人強
計	—	—	—	—	—	4,722.57	—

柳 筋 工

出來高總數 23.500米 (一米當0.096強)

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
柳 挿	穂	長0.3米一米繩ノ	束	3,822.00	—	—	—
苗 木	{はんのき 長0.5米以上	本	17,000.00	{4本當 5.40	91.80	—	—
同	にせあかしや	同	45,000.00	同 4.25	191.25	—	—
同	はんのき	同	720.00	同 5.00	3.60	—	—
人 夫	—	—	人	1,168.918	0.85	993.58	{法切、段切 一米當0.05人弱
同	—	—	同	802.965	0.85	682.52	{材料採集運搬 一米當0.034人強
同	—	—	同	360.224	0.85	306.19	{苗木植付其他仕上 一式 一米當0.015人強
計	—	—	—	—	—	2,268.94	—

粗 朶 伏 工

出來高總數 550平方米 (一平方米當0.106)

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
粗 朶	長2米一米繩ノ	束	255.00	0.05	12.75	—	—
人 夫	—	—	人	37.518	0.85	31.89	{粗朶及押へ木採集 運搬 平方米當0.07人弱
同	—	—	同	16.071	0.85	13.66	{仕上工作一式 平方米當0.03人弱
計	—	—	—	—	—	58.30	—

山 腹 空 積 石 工

出來高總數 210.0平方米 (一平方米當1.28強)

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
積 石	扣0.3米以上	平方米	210.000	—	—	—	—
裏 込 礫	徑0.1米以上	立方米	94.500	—	—	—	{一平方米 = 付0.45立方 米遣ヒ
床 堀	—	同	84.000	—	—	—	土砂
人 夫	—	—	人	14.283	0.85	12.14	{同上床堀 一立方米 = 付0.17人強
石 工	—	—	同	27.138	1.60	43.42	{割石工 一平方米 = 付0.13人弱

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
人 夫	—	—	同	138.483	0.85	117.71	{積石採集運搬 一平方米=付0.66人弱
同	—	—	同	47.248	0.85	40.16	{礫採集運搬 一立方米=付0.5人弱
石 工	—	—	同	23.650	1.60	37.84	{積石工 一平方米=付0.11人強
人 夫	—	—	同	21.095	0.85	17.93	{同上手傳 一平方米=付0.1人強
計	—	—	—	—	—	269.20	—

粗 朶 明 渠 工

出來高總數 311米 (一米當0.278強)

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
杭 丸 太	{長一米 末口徑0.06米	本	900.000	0.02	18.00	—	—
粗 朶	{長二米以上 1米繩	束	150.000	0.05	7.50	—	—
人 夫	—	人	15.753	0.85	13.39	{材料採集運搬 一米當0.05人強	—
同	—	同	15.248	0.85	12.96	{掘割 一米當0.05人弱	—
同	—	同	41.000	0.85	34.85	{杭打込仕上一式 一米當0.13人強	—
計	—	—	—	—	—	86.70	—

空 積 護 岸 工

出來高總數 744.0平方米 (一平方米當1.438強)

名 稱	品 種	寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
積 石	扣0.3米以上	平方米	744.000	—	—	—	—
裏 込 礫	徑0.1米以上	立方米	446.400	—	—	{一平方米=付 0.60立方米遣ヒ	—
床 堀	—	同	297.600	—	—	{花崗岩 44立方米 土砂 253.6同	—
石 工	—	人	27.732	1.60	44.37	{岩石床堀 一立方米=付0.63人強	—
人 夫	—	同	43.024	0.85	36.57	{土砂床堀 一立方米=付0.17人弱	—
石 工	—	同	97.019	1.60	155.23	{割石工 一平方米=付0.13人強	—
人 夫	—	同	510.895	0.85	434.26	{積石採集運搬 一平方米=付0.68人強	—
同	—	同	225.648	0.85	191.80	{礫採集運搬 一立方米=付0.5人強	—
石 工	—	同	90.000	1.60	144.00	{積石工 一平方米=付0.12人強	—
人 夫	—	同	74.930	0.85	63.69	{同上手傳 一平方米=付0.1人強	—
計	—	—	—	—	—	1,069.92	—

空 積 谷 留 工

出來高總數 420.0平方米 (一平方米當^円3.357強)

名 稱	品 種 寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
積 石	扣0.4米以上	平方米	420.000	—	—	—
裏 込 礫	徑0.1米以上	立方米	378.000	—	—	{ 平方米 = 付 0.9立方米遣ヒ
床 堀	—	同	168.000	—	—	{ 花崗岩 42立方米 土砂 126立方米
石 工	—	人	44.950	1.60	71.92	{ 岩石床堀 一立方米 = 付 1.07人強
人 夫	—	同	28.459	0.85	24.19	{ 土石床堀 一立方米 = 付 0.22人強
石 工	—	同	93.000	1.60	148.80	{ 割石工 一平方米 = 付 0.22人強
人 夫	—	同	648.059	0.85	550.85	{ 積石採集運搬 一平方米 = 付 1.54人強
人 夫	—	同	435.836	0.85	370.46	{ 礫採集運搬 一立方米 = 付 1.15人強
石 工	—	同	72.807	1.60	116.49	{ 積石工 一平方米 = 付 0.173人強
人 夫	—	同	71.906	0.85	61.12	{ 積石工手傳 一平方米 = 付 0.17人強
人 夫	—	同	78.248	0.85	66.51	{ 仕上跡片付一式 一平 方米 = 付 0.186人強
計	—	—	—	—	1,410.340	—

水 叩 張 石 工

出來高總數 193.0平方米 (一平方米當^円1.266強)

名 稱	品 種 寸 法	單 位	數 量	單 價	金 額	備 考
張 石	扣0.35米以上	平方米	193.000	—	—	—
礫	徑0.1米以上	立方米	67.550	—	—	{ 一平方米 = 付 0.35立方米遣ヒ
床 堀	—	同	77.200	—	—	土砂
人 夫	—	人	13.624	0.85	11.58	{ 床堀(土砂) 一立方米 = 付 0.17人強
石 工	—	同	25.294	1.60	40.47	{ 張石採集石工 一平方米 = 付 0.13人強
人 夫	—	同	130.459	0.85	110.89	{ 張石採集運搬 一平方米 = 付 0.67人強
人 夫	—	同	33.777	0.85	28.71	{ 礫採集運搬 一立方米 = 付 0.5人強

石 工	—	同	22.650	1.60	36.24	{張石工 —平方米=付0.12人弱
人 夫	—	同	19.412	0.85	16.50	{同上手傳 —平方米=付0.1人強
計	—	—	—	—	244.390	—

九月十七日(月)曇、午前五時晨起、八時馬にて出發す。犬切峠を越え「一ノ瀬」部落に出で之れより雲取山路を通り海拔千七百八十九米の將監峠に着し、砂防人夫小屋にて休憩中食をなす。午後零時半より丹波山出張所主任齋藤技手の案内にて目下工事中の長アラン澤の砂防工事を視察す。本工事は空積谷留の階段工事なり、二時半出發、三時屋敷澤に着す。此谷は嘗て徳川家康が江戸城を築く時にひのき材を伐出せし所にて當時の屋敷跡らしきもの今尚ほ殘存す。

之れより大常木、小常木の界のハシカキ垂みを越えて小常木川に出で隧道の如き晝尙暗き絶壁の間を流るる河を通り、二本丸太橋を渡る折に靴滑りて足元くるひ遂に水中に落ちたるも幸に淺瀬にて負傷せざりしは天祐なりき。併し余の上着服を持つ人夫が滑り轉びて服のポケット内の安東縣仕入の眼鏡を破壊せられ旅行中眼を失ひしには困却せり。併し身體に負傷なかりし代償と思ひ諦めたり。日は既に暮れて夜道の一入難儀を感じしむる川筋をしばし急ぎ行く。偶々丹波山出張所員の提灯の出迎を受け漸く落合より丹波山村に通ずる縣道に出で約一里にして七時十五分丹波山村に着し、野村屋旅館に入り夕食を済まし九時床に入る。

九月十八日(火)雨天、午前六時晨起、八時半馬にて丹波山村を出發し、行くこと約二里、十時大澤峠に着し少憩、之れより徒歩約一里、十一時小管村川久保の小管出張所に着し、之れより再び馬に乗り大菩薩峠道を進むこと約二里、川入事業地を視察し、午後一時赤谷の砂防人夫小屋に着し辨當を食す余はパン菓子にて腹拵へせしも味噌汁甘く「一行中のT君は汁椀のリレーにて四椀を平らげた」と計算し居たる人ありき。少憩の後堰堤を見る。此他山

腹石垣及張石水路あり。午後三時出發、四時半川久保に歸り大村屋旅館に着く。湯に入り晚餐を済まし午後八時床に入る。

九月十九日(水)小雨、午前六時晨起、八時半馬にて大村屋旅館を出發す。十時小河内村川野に着す。途中前所長K君、氷川出張所のK君其他諸君の出迎を受け麥山より峠を越えて午後零時半三澤に着し、坂村氏方にて休憩そばの馳走になり。午後二時出發徒歩約半里にして「アリサメ」崩壊地に至り、砂防工事を視察す。空積堰堤、張石水路、護岸石垣等あり。植栽したる「ニセアカシヤ」の成長の良好なるには驚けり。

午後三時半出發、徒歩約二里、峰川に沿うて下り五時半小河内村湯場鶴屋支店に入る。東京府技師K君來り晚餐を共にす。

九月二十日(木)雨、午前六時晨起、九時出發、豆自動車を走らして九時半東京市水道局庶務課林務掛氷川出張所に着し、休憩。

本日の日程は天神山又は小中澤を視察の豫定なりしが、雨天の爲め日程を変更して日原川流域の樽澤に於ける東京府農林課施行の荒廢地復舊工事を見ることにして十時半出發、徒歩約二里、十二時半樽澤の入口の茶屋に着し辨當を食し、午後二時出發樽澤を上り二時半工事地に着し堰堤を見る。放水路の位置面白からず。併し設計者の説明には「わさび田」の爲めに止むを得ず斯くなせりとの事なり。三時半出發、五時半日原に着し山上旅館に入り晚餐を済まし九時床に入る。

日原へは余が大正六年に東京府の依頼を受け東京府下の砂防工事に對し十二年計畫を立てたる時に來りし事あり。其當時と比すれば道路は取り擴げられ木橋はコンクリートの橋と變り特に最近救農土木事業に依つて林道が出来たるため車を通ずるを得て交通非常に便となれり。

九月二十一日(金)暴風雨、午前五時頃より暴風雨となり、物凄き嵐に雨戸など開くべきにもあらず不安の思ひに驅られつゝ暫く床に在り、七時半起きて食事をせしも風愈々強く附近の家の屋根は吹き飛ばされ樹木は倒れ柿の實

は落つる。危険にて外出するを得ず。本日の日程は蕎麥粒山カツラ谷を経て鹽地谷小屋泊の豫定なりしも、暴風雨の爲樹木が倒れ居り山路は通行不可能の由にて日程を変更して氷川に歸ることとし、午後二時出發、五時氷川出張所に着す。途中風害の跡を見ると大樹の根が抜かれ居るものあり、其の幹が折れたるものあり、又大石や土塊が道の眞中に墜落したるものあり、家根や小屋を吹き飛ばされたるもの少なからざりき。一行は途中道路上に横はる大石を溪に投げ込み通行の妨害物を除き社會奉仕をなせり。氷川出張所にて聞くに鹽地谷の小屋は風の爲めに破壊され、余等一行の宿泊の準備の爲めに昨日上りし人々が今歸りたる所なりと、余は無理にも日程通り行かんとせしが若し行きたらんには泊る處もなく夜路を歸らざるを得ざることとなり非常に困難せし事にてありき。

午後五時四十分氷川發の自動車に乗り六時御岳の河鹿園に入る。暴風の爲め青梅鐵道の電車は動かず、電燈は消え、河鹿園は眞暗となり。蠟燭の明りにて食事をなせり。斯かる有様は現今にては芝居の舞臺ならでは見るを得ざることとなるが、宴會には電氣にて明るきより却て蠟燭の方氣分良し。十時床に入る。

九月二十二日(土)晴、午前五時晨起、暴風雨の損害が氣にかゝり歸宅を急ぎ、九時五十分發の電車にて十時三十五分新宿着、十一時半青山の宅に歸れり宅は屋根瓦が落ち、桃の枝が折れた位の損害なりしが、新聞紙を見て昨日の風速は六十米にて大阪、京都、兵庫、岡山の諸府縣に於ける損害の甚しきに驚けり。

市有林内に施行せる砂防工事の成績は非常に良好なり、其の一例を寫眞にて示さん。

卷首に掲ぐる寫眞は山梨縣東山梨郡神金村萩原山市有林内葉廣澤に大正五年に施行したる山腹編柵工及空積石堰堤にして、工事施行後六年目に寫眞に示す如く復舊して立派なる林相を呈す。



東京市有林葉廣澤砂防工事（大正五年施行當時）



同

上（工事施行後六年目の状況）

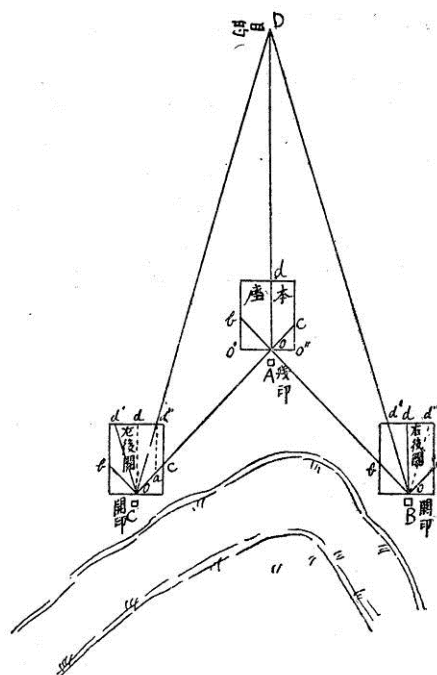
5.3.3 「砂防」第42号 東京市水道水源林視察旅行記

調査期間：昭和10年5月2日～9日

d' と對稱に $o d''$ を取り次に左方の開地に移りて盤を水平に据え、本座の殘印を見透して盤の位置を正し先きに引きたる線 $o d''$ に定規を當て目的を見透し得ざれば操作に誤ありし證なるを以て始めより操作を繰り返さざるべからず。若し見透し得たるときは d'' より $d o$ に平行に $d'' a$ を引く。

然るときは盤面に $\triangle A C D$ と相似なる $\triangle a o d''$ を生じ $a o$ は開除の長さに相應するを以て之れを元として $a d''$ より所求の距離を定む。

第十一圖



東京市水道水源林視察旅行記

度 山

昭和十年五月二日（木）晴

午前六時晨起 八時駒場に行き九時より十一時迄二時間講義を済ます。十一時半東京市山本君來り共に自動車にて澁谷驛に至り十一時四十分發の省電にて十二時新宿驛のプラットホームに着し長野行列車に乗込む。暫くして東京市の吉澤君來り見送らる。元水源林所長兒玉君も來り一行に加はらる。列車は零時三十分發す、午後一時立川驛にて東京市の波多野技師乗車し一行四人となる。午後二時大月驛にて山梨縣のM君、I君に會すM君に同行を勧め一行五人となる。三時三十七分鹽山驛に着す、落合出張所長、春木君出迎

はる、之れより自動車にて山梨縣道を東方に向つて走ること約二里、四時番屋に着し自動車待合茶屋にて休憩す、午後四時半馬に乗り落合に向て出發す、約二里、六時半海拔千四百七十米の柳澤峠に着く、水神社大鳥居の前に落合出張所詰の諸君が出迎へらる。之れより落合は下り約一里なり、途中林務掛長岡澤君の出迎を受く、掛長は中川技師と丹波山村より本日落合に來られたのである。七時半落合の東京市水道局庶務課林務掛落合出張所に着し湯に入り、岡澤掛長、中川、波多野兩技師、兒玉君、M君、山本君、春木君、鷹巢君等と晚餐を共にす。鬼怒川温泉旅行に於けるN君に關する珍談其他に花を咲かし十時床に入る、本日は寒くて馬上手足凍り困つた。

五月三日（金） 晴

午前五時半晨起昨夜は寒くて眠れなかつたが寒暖計は零下攝氏三度二分を示し今朝は水凍り湯にて洗面した。七時半より春木所長の案内にて岡澤掛長中川、波多野、山本、鷹巢君と共に九時犬切峠に至る。

犬切峠に樹齡百五十年位のコブの多くある根上り赤松がある、目下東京市にては水源地に在る名木を調査中にて此樹を名木に加へたきも其名稱なくて困るとのことであるから根上りコブ松と命名した。

午後一時出發、一時半犬切澤の砂防工事を見る、山腹の崩壊面積約四ヘクタールあり、山腹工事は柳筋工及丸太筋工にて柳は良く萌芽し成績宜し。十時一ノ瀬事務所に着、少憩の後牛首に行き砂防工事豫定地を視察し十二時、一ノ瀬事務所に歸り中飯す。時に兒玉君及丹波山出張所の川鍋君來る、午後一時出發、歸路に就き犬切澤に於ける工事豫定地を視察し、三時鶏冠神社に至り並樹のヒノキの大木を見る。直徑約一米あり四五百年生ならん、此他直徑約三十糎百年生位のヒノキ、モミの大木が多くある、此樹木の年齡を調査する参考材料として神社建設の年代を知らんとし拜殿に懸る神鈴を調べたるも文字見當らず残念であつた、之れより歸路に着き四時半落合出張所に歸着

し晚餐を終り、九時床に入る。此夜は寒暖計攝氏零下三度を示し水は凍結せしも昨夜より暖かく良く眠つた。

五月四日（土） 晴

午前五時晨起七時岡澤掛長、兒玉君、M君に別れ丹波山出張所長川鍋君の案内にて中川、波多野、山本、鷹巢の四君と共に落合を出發し「長アラシ」に向ふ八時半犬切峠に着す。時に馬來りしを以て之れより馬に乗る、今朝は八時出發の豫定にて馬を注文し置きしが、出立の準備が早く出來たので豫定より一時間早く出發した爲め馬が來らず、徒歩にて一里丁度犬切峠に着せしときに馬が來たのである。

一ノ瀬、二ノ瀬、三ノ瀬の各部落を経て海拔千四百六十米の峠を起え、大常木谷流域に入り十時長アラシ澤の下部に達す、途中犬が大兎を捕へた之を馬子及K君が横取せんとしたが中々犬が承知しない、止むなく兎の内臓を與へて犬を承知させ獲物を丹波山村に持參した。

長アラシ澤には丹波山出張所員が出迎はれた、昨年度築設の石堰堤、張石水路、護岸石垣等を見て其下流へ堰堤築設箇所三ヶ所を選定して休憩、辨當を食す。午後一時出發、二時屋敷澤の會所小屋に着し休憩、本日は端午の節句なりとてヨモギ餅の御馳走になつた、二時半出發、途中丹波山出張所の濱中君の出迎を受け三時半大常木、小常木の界のハシカキ垂ミに達し、記念撮影をなし四時海拔千五百二十米の岩岳山を越え、小常木川に出で隧道の如き晝尙暗き絶壁の間を通り、六時狹谿を過ぎナメトロに出で少憩、記念撮影をなし之れより河岸を登りて落合より丹波山村に通ずる縣道に出で、約一里にして七時丹波山村に着し野村屋旅館に投じ湯に入り、中川、波多野、山本、鷹巢、川鍋、田邊君等と晚餐を共にし九時床に入る。

五月五日（日） 晴

午前五時半晨起八時半出發、小學校裏に在る倉澤の崩壊地に於ける山梨縣

直營の荒廢山地復舊工事を視察す。堰堤四本あれども之れにては尙ほ不完全なり。次に鹽ノ山市有林の崩壊地の上部に登り視察す、本崩壊地は縣道の上に在り崩壊面積約三ヘクタールあり、地質は古生層の粘板岩にて大正十二年の關東大震災に龜裂を生じ地滑せる處あり、數年前に東京市にて工事を實施し、植栽したるヤマハンノキは成長宜しきも風の爲めに倒れるもの多し之れ早く伐採せざりし爲めなり。此の崩壊の原因は明治四十年の水害後丹波山川の水流變じて山腹の脚に水當り爲めに崩壊を起せしなり、又地下水の出る處あり故に練積山腹石積と張石水路を設くるを要す。又下方の水の衝突する處には護岸工事を設けざる可らず。然れども根本的工事としては水流を明治四十年の水害以前の狀態に復舊して直線になすこと必要なり。午後一時野村旅館に歸り中飯をなす。

午後二時小菅出張所長丹生君の案内にて出發す時に小雨ありしも直に止む。途中右岸に於ける山梨縣直營の山腹工事を視察す。カヤ筋工は霜害の爲め成績不良なり。

之れより小菅村に向ふ、越タワ峠にかゝる途中日曜遊山の一行あり。内一人が張番をしてワサビを盜採して居つたが吾等一行を見て彼等一行はしほしほと立去つた。午後四時、越タワ峠に着し休憩、記念撮影をなし、之れより峠を下りて六時小菅村大村旅館に投ず。湯に入り中川、波多野、山本、鷹巢、川鍋、丹生、野見山、浦島、田邊の諸君と晚餐を共にし十時半床に入る。

五月六日（月） 晴

午前五時半晨起八時出發、山澤川に於ける縣直營の昭和八年度施行の荒廢山地復舊工事の視察に向ふ、十時工事地に着す、此部落は明治四十年の水害にて全滅せし處にて山腹工事、護岸石垣及空積石堰堤あり、石堰堤は岩盤なき處に小石にて築設せしものなれば、大水あれば破壊の憂あり山腹筋工も成績不良なり。十二時大村旅館に歸り中飯。午後二時出發小河内村に向ふ、二

時半途中氷川出張所長近藤君の出迎を受け丹波山組の川鍋、田邊兩君に別れ、又小菅、小河内兩村界にて小菅組の丹生、野見山兩君に別れ、六時小河内村湯場鶴屋支店に着す。

東京府の桑田、高岡兩君來り余の一行を待たる、兒玉君にも再會す、湯に入り桑田、高岡、兒玉、山本、近藤、清水等の諸君と晚餐を共にし十二時床に入る、湯殿の瓦斯が室に入り眠れず困り室を變更した。

五月七日（火） 晴但し午後五時小雨

午前五時晨起八時半出發、鶴屋の老婦、女中其他舊知の人々に熱海迄見送られ、熱海の「カフェー」オタメに立寄り徒歩三里、十一時半氷川着、東京市林務掛の合宿所に入り中飯。午後一時半出發徒歩二里半、四時半日原着、原島豐氏方に入る時に小雨降出す、桑田、高岡、中川、波多野、山本、近藤、福田、河村の諸君と晚餐を共にし嘗て船乗をした外國通のT君の話にて大賑なりし、十時床に入る。

五月八日（水） 晴

午前五時半晨起七時半出發、急坂を登ること約二里、十時半一杯水に着し休憩十二時海拔千五百米の仙元峠に着し辨當、山の神前にて記念撮影をなす。午後一時出發、カツラ谷、シホデ谷、火打石谷、布瀧等の市有林を視察し午後六時棚澤峰に着、棚澤に下り氷川出張所の一行及桑田君に別れ自動車にて六時半御嶽の河鹿園に入る。兒玉君は既に氷川より來りて一行を迎へられ青梅農林の牧、三浦兩君、青梅土木出張所の及川君及東京府林務の打越君、望月君も來られ、晚餐を共にし十時床に入る。

五月九日（木） 晴

午前六時晨起九時出發、多摩川沿岸の民有杉林に於ける間伐試験地を見る。當地方は間伐せず二十五年乃至三十五年生にて皆伐する處なれば樹高は高きも直徑は小き故に間伐を急にすれば風害に罹る憂あり、之れより徒歩約

半里にして御嶽登山鐵道株式會社の御嶽山ケーブルカーの驛に至り、T君の斡旋にて優待乗車券を貰ひケーブルに乗り、約八分にて海拔一千米の靈峰の頂に達し、林正樹氏方に立寄り十二年目にて面會し中飯の馳走になる。

午後一時半出發、御嶽神社に參詣しケーブルの驛にて少憩、三時半發ケーブルに乗り下山し四時河鹿園に歸り少憩、四時四十分發の電車に乗り立川驛にて乗換へ六時十五分新宿驛着、電車にて六時五十分青山の宅に歸着す。

雜 報

本年四月二十四日開催の道林務主任官會同に於ける朝鮮總督府今井田政務總監の訓示及矢島農林局長の説示中砂防事業に關するもの次の如し。(度山)

今井田政務總監の訓示

砂防事業は開始以來豫期以上の成績を收め既に四萬六千四百町歩の施工を完了致したのでありますが、仍全鮮に涉り十九萬六千町歩の禿裸林野を残し其の禍害の及ぶ所極めて大にして、昨夏南鮮に於ける大水害の如きは其の著例でありまして砂防事業の完全は全く焦眉の急務なるを認め今回第二期砂防事業計畫を樹立し、其の實行を見ることとなつたのであります。本事業は多額の經費を要するのでありますから専ら少費多效の實を擧ぐるやう注意せらるると共に窮民の救済竝に勤勞好愛精神の振作等副次的效果に付ても格段の考慮を拂はれたいと思ふのであります。

矢島農林局長の説示

砂防事業に付ては大正十一年度以降國費を以て専ら荒廢激甚なる地域に於て實施し來りました外、昭和六年度以降は窮民救済及時局應急施設として國



東京市水源林山梨縣北都留郡
丹波山村鹽ノ山崩壊地



同上 岩岳山「はしかきのた
る」の天然ぶな林



同上 小菅村山澤入の山梨縣
營工事の空積石堰堤

5.3.4「砂防」第49号 東京市水道水源林視察旅行記

調査期間：昭和11年9月19日～25日

2. 器械力生産の失點

イ、移動性に乏しき事

荒廢林地復舊事業等にて骨材を少量宛諸所で使用する場合は隨時隨所で生産するのが理想であるが、1800疋内外のクラツシャーを一々使用場所に運搬するは煩雜で地形上から考へても出来ない事である。

ロ、碎石工場より骨材の使用場所まで生産物の運搬賃を要する事。

ハ、原石の採集に勞力費を多く要する事

3. 人力生産の特失は器械力のそれに相反するものであるから此處に省略する。

終りに臨んで、本稿がブレーキクラツシャーの廣告でないことを附言して置く次第である。(11.7.20稿)

昭和十一年秋の多摩川水源地旅行日記

度 山

余は本年一月末より肺炎に罹り二月初めに重態に陥つたが名醫と看護の御蔭にて漸く生命を保ち三月に入り横向くことが出来、四月になつて床上に起きて食事をなす様になり五月に入つて漸く歩行し得る程になつた。併し本年中は旅行はせぬ心組であつたが東京市有林鹽の山に於ける砂防工事が氣になるので此旅行をしたのである。

病みて後 からだ驗めしの 山登り

此句の意味で旅行に出掛けたのであるが幸豫定の日程を終へ無事歸京した其日記を次に記する。

九月十九日(土) 曇時々雨

午前五時晨起七時青山の宅を出で原宿驛より乗車する豫定で明治神宮參道に行つたが午前七時頃より運轉する筈の乗合自動車はまだ居らず暫時待つたが來らず、あてにならぬから豫定を變へて市電に乗り新宿驛に至る、丁度約束の時間七時三十分であつた。三十五分に東京市林務掛の春木君來り四十分に見送りの吉澤君來り四十五分に山本君が來た。

午前八時發の松本行列車に乗込む、本列車は準急行で非常に便利の列車だから車内は満員である、八時五十四分八王子驛着東京府の吉野改木住野君が乗込み、余等の一行に加はる、時に雨が降り出した。

午前十時半鹽山驛に着す、時に雨止む。鹽山にて食料を仕入れ自動車を傭ひ十一時出發、走る事約二里、十一時半番屋茶屋に着く、此處は舊幕時代に關所の在つた處である。此處に東京市水道局庶務課林務掛落合出張所長並木君が馬を連れて出迎へらる。茶屋で休憩、宅より持參の玉子と握めしにて腹をこしらへ、零時半馬で落合に向ふ、黒門より雨が降り出した。

午後二時半柳澤峠に着く、爰に落合出張所の小谷野、川口兩君出迎へらる。午後三時大日影澤口の砂防小屋に着く。時に雨が止んだ。少憩の後柳澤本流の砂防工事を見る、此工事は空積石堰堤三本で内一本は工中事である。堰堤の位置、水叩張石等に付き話し再び馬に乗り午後五時落合出張所に着き、湯に入り春木、山本、木住野、並木、小谷野、川口の諸君と晚餐を共にし九時半床に入る。

九月二十日(日) 小雨

午前六時晨起、午前中は雨降る爲出張所にて量水の結果を伊集院君より聞いた。其内一二を爰に挙げやう。

量水堰堤に於ける降雨と流出水の水位の關係は昭和八年七月二十一日より二十二日に至る自記水位計及雨量計の用紙から次の通りである。

二十二日の午前十時より十一時の間に 65.3 耗時の豪雨あり。

量水堰堤 の在る河 川名	幅	流 域 面 積	増 水 の 始 ま る 時 間	最 水 位 高 水 位 時 間	最 高 位 最 水 位	減水して降雨 前に戻る時間
高 橋 川	7.57 米	800 ヘクタール	正 午	22日午後2時	(耗) 14	23日午前8時
葉 廣 澤	1.00	117	午前10時50分	正 午	250	23日午前10時
金 場 澤	1.00	122	0 時20分	午前11時	20	23日午前10時

之れに依ると降雨後約一時間にて水位は最高となるものである。流域の小さい愛知演習林の量水堰堤でも同様である。

昭和十一年九月自二十六日至二十七日二日間に亘る豪雨に依る各河川の最高水位

量水堰堤 の在る河 川名	最 水 水 位	高 位	摘 要
金 場 澤	90.0	厘	2 日間降水總量、286.8耗. 1 時間最大雨量28.5 時 間は何れも 9 月 27 日自午後4時至午後5時の 間の水位、金場澤の増水、特に多し
葉 廣 澤	36.5		
高 橋 川	45.0		
柳 澤 川	56.0		

午後一時から水神社殿裏の赤坂澤を視察した。此澤は水神社建設の際、土を捨てた處で昭和四年に下流に空積石堰堤四本と山腹石積工を設けたが、昨年の豪雨で山腹が崩壊し堰堤も山腹石積工も破壊されたのである。之れは溪床は岩盤で浸蝕はされないが、使用した石が小石で空積であつた爲めに破壊したのである。復舊には練積石堰堤となし上部に山腹工事をなす、勿論山腹には埋設編柵及水路を設けることが必要である。

午後二時雨が降り出したから歸らうとした時に、山梨縣の守谷技師が來た、同君は第一日から同行の豫定であつたが、我等一行の東京出發が四日早まつた爲め行違ひを生じ一日遅れて今日來られたのである。

社殿前で記念撮影をして出張所に歸つた。

此夜は守谷君を加へて晚餐をなし食後將棋、圍碁等で十時半床に入る。

九月二十一日(月) 小雨

午前六時晨起、雨降る。午前十時雨が止んだから金場澤量水堰堤に至り來年度設ける量水槽の設計をした。正午出張所に歸り辨當を食す。

午後一時出發、柳澤本流の量水堰堤を見る。本堰堤の集水區域は約千二百ヘクタールで其流量を見るに堰幅一〇・五米、水高五センチメートルである。

次に高橋川の量水堰堤を見る、本堰堤の集水區域は約八百ヘクタールで其の流量を見るに堰幅、七・五七米、水高十センチメートルである。

本流の方が集水區域が大であるに其の流量の少いのは不思議である。水位標の示す水高の誤りかと思はれる。

午後二時出發、徒歩約一里半、三時半三條橋に着し、丹波山出張所長丹生君、山梨縣の石山君に出迎へられ逆瀬川の砂防工事を見る。此工事は大正九年に前西君が監督して施行したもので、去年の豪雨で破壊せられ目下修繕中である。此破壊の原因は空積堰堤であると、溪底が天然勾配になつて居らなかつた爲め水叩張石が破壊され、次に堰堤も破壊されたのである。故に復舊には溪の縦斷面を測定して中間に堰堤を入れることが必要である。

午後四時並木君と別れて丹波山村に向ふ、時に雨が降り出した、徒歩約一里半、午後五時半丹波山村野村旅館に入る。此夜は守谷、石山、丹生、春木山本、木住野の諸君と晚餐を共にし圍碁將棋で九時半床に入る。

九月二十二日(火) 晴

午前六時晨起、午前九時小菅出張所長山下君來り、落合より寫真機來る、午前九時半山梨縣荒廢林地復舊事務所に立寄り少憩、守谷技師、石山傭、天野、羽田兩事業手の案内にて鹽の山市有林の工事を見る。本施業地は面積約四ヘクタールの大崩壊地で、中腹に山梨縣道が通つて居るから市有林なれども東京市で工事するよりも山梨縣で施行する方が便利であるから、東京市で

工費の三分の一を負担して山梨縣林務課で昨年度から工事に着手した、現在にては工費約一萬九千圓で卷頭寫眞に示す如き、練積石堰堤、練積山腹石積工、練積張石水路工、練積護岸工等を施行し、本日は縣土木課の工費約七千圓の縣道工事を林務で引受けて縣道の石垣工事を實施中である。此崩壊地は大正十二年の震災の爲めに非常に大きくなつたが、其最大原因は明治四十年の水害で水路が變じ屈曲部を生じ鹽の山の下方が其屈曲部で水が之れに衝突するから次第に崩壊するのである。故に禍根を永久に除く根本的工事は丹波川の屈曲部を改修して眞直にし此部に水の當らぬ様になすのであるから是非共之れを實行される事を希望する。

正午。明治四十年の水害で出來た河原の赤松林内で申飯の御馳走になつた、實に心持が良かった。爰に山梨縣の事務所の諸君に其厚意を感謝する。

本日正午迄に来る筈の東京府の高岡君を待つたが來ないから、午後二時再び現場に行き護岸工事を見る。本流に床固を一本入れる事が必要であるが、岩盤があるや否や不明で手を下ださざる様なれども、余の考へでは舊水路は狭きもので此部は深いが他の處は三米位で岩盤が出ると思ふから是非試みてくれと希望を述べた。午後二時高岡君が來た、約束より遅れる事三時間、遅刻の理由は最初は人命救助であつたが、之れが變つて自轉車救助となり、再び變つて東京市の自動車の都合即ち一圓の節約の爲めとあつたから罰金ものである。午後四時宿に歸る。

此夜は守谷、石山、天野、羽田、丹生、高岡、木住野、春木、山本の諸君に守屋丹波山村助役を加へて晚餐を共にした。T君の大嶋縮尻話で持切り大賑であつた。午後十一時床に入る。

九月二十三日(水) 晴

午前五時晨起、本日は秋季皇靈祭で日の丸の旗が各戸に揚り小學生は小菅村に於ける聯合運動會に出掛けるので早朝から屋外は大騒ぎであつた。午前

八時出立、再び鹽の山の工事を見て守谷技師と階段状水路に付き相談をなし、午前九時半出發。十時半親川に着く、注文の自動車が來た。丹生君に別れ守谷、高岡、春木君と共に先發して走ること約二十分で小河内村川野の巡查駐在所に着き休憩す。途中伏谷君、東京市の齊藤君に會す、待つこと約二十分で山本、木住野、齊藤君が市の自動車で來た。波多野掛長は東京より來て一行に加はる。佐野巡查の厚意で茶を貰ひ辨當を食す。「しるこ」の御馳走になる。午後二時石山君が來た、石山君は自動車の都合が悪く人夫と共に徒歩で來たのである。午後二時半K君に臀を押上げられて雨乞場市有林に登り昨年度施行の救済砂防工事の堰堤即ち高さ六米の丸石練積堰堤と高さ三米の混合積堰堤を見る（砂防第四十八號口繪参照）。駐在所前で記念撮影をして午後三時半自動車で出發、午後四時湯場鶴屋支店に着く。五時桑田技師來る。此夜桑田高岡、伏谷、木住野、守谷、石山、波多野、春木、山本(保)、齋藤、濱中、川鍋、池田、野々宮、山本(東)の諸君と晚餐を共にし十一時床に入る。但し十二時過まで圍碁をやつて隣室の客から小言を食つた連中もある。

九月二十四日(木) 晴

午前九時出發、F君に臀を押上られて急坂に登り十時大ムゾ谷に着き、昨年度施行の救済砂防工事の空積石堰堤四本を見る。位置、高さ等に付き話をなし引返へして熱海の珈琲おためで自動車を待ち午前十一時自動車で出發、十一時半氷川村東京市林務掛の詰所に着き休憩、辨當を食す。午後二時出立寺地に至り東京府の荒廢林地復舊工事の山腹石積、丸太筋工、「いぬあかちや」の植栽を見る。置土上の「いぬあかちや」の成長は良好である。午後四時氷川村に歸り、之れより自動車で四時半御岳の若松旅館に入る。木住野君は止むを得ぬ用向？で一行に別れて八王子に歸る。河鹿園の豫定であつたが、K技師に曳かれて若松旅館に投じたが、心持の良い宿である。此夜は東京府林務の桑田、高岡、伏谷、水上、東京府土木部の及川、青梅農林の牧、三浦、東

京市の波多野、春木、山本、齋藤の諸君と晚餐を共にし、九時床に入る。牧、三浦、及川の三君は歸宅さる。

九月二十五日(金) 晴

午前六時晨起、記念撮影をなし、若松旅館のマダム其他に見送られて桑田、高岡、波多野、春木、山本の諸君と共に十時十五分發の上り電車に乗込み十時半青梅驛下車、東京府林業事務所に一寸立寄り、行違ひで伏谷君居らず、十一時出發、自動車で走ること約十五分霞村着、伏谷、水上、福島君に出迎へらる、F君に臀を押上げられて急坂を登り、徒歩約十五分で小曾木村厚澤に着き丘上の赤松林内で休憩、及川君來り待受けらる、中飯の馳走あり水上、福島兩君の案内で本年度施行中の筋工、積苗工、張石水路、護岸石垣等を見る。此工事は石垣の石の悪いのと、水路に缺點がある。本施業地は明日府會議員が視察する豫定であると聞いたから、余等一行は豫定の日程を變へて其下検査の心持で視察したのである。

本施業地は西多摩郡小曾木村地内にて入間川支流小布市川の流域に在りて地質は秩父古生層（基岩は砂岩及び粘板岩）及び五日市砂礫層に屬し地勢は丘陵地で、表土は淺く、樹種は二十年乃至三十年生の「あかまつ」を主とし「くり」「なら」「くぬぎ」「はんのき」等の潤葉樹所々に存在し、樹木の生育は概して不良である。

此地方の林地は三十年以前に濫伐の爲め荒廢したが、其後林地の大部分を村有林となし、林地の回復に努めた結果現在の林相を呈するに到つた。されど其の間關東大震災、相繼ぐ豪雨の爲めに林地の山脚部及林内に崩壊地を生じ、再び荒廢の傾向を生じ出水毎に土砂を流出し、治水上害があるから東京府農林課では崩壊區域並に崩壊の憂ある箇所を土砂扞止保安林に編入し、毎年工費約八千圓を投じて荒廢林地復舊工事を施行し、國土の保安と林地生産力の恢復を圖つて居る。

昭和十年度及十一年度の施業経費内訳は下表の通りである。

昭和十年度 施業経費内訳表 施業面積 9.72 ヘクタール
植栽面積 5.78 ヘクタール

工 種	数 量	単 位	単 価	金 額
萱 筋 工	20,903.00	m	圓 102	圓 2,132,106
積 苗 工	1,700.00	m	332	564,400
空積谷止工	145.00	m	6,650	964,250
空積護岸石積工	955.00	m ²	2,200	2,101,000
空積山腹石積工	275.50	m ²	2,000	551,000
張 石 水 路 工	181.00	m ²	1,470	266,070
埋 設 編 柵 工	290.00	m	310	89,900
山 腹 編 柵 工	1,497.00	m	287	429,639
張 芝 水 路 工	451.00	m ²	390	175,890
計	—		—	7,273,235
雑 費	—		—	727,000
合 計	—		—	8,000,235

昭和十一年度施業経費内訳表 施業面積 9.93 ヘクタール
植栽面積 6.23 ヘクタール

工 種	数 量	単 位	単 価	金 額
萱 筋 工	13,968.00	m	圓 103	圓 14,38,704
積 苗 工	4,487.00	m	340	1,525,580
空積護岸石積工	660.00	m ²	2,250	1,485,000
空積山腹石積工	732.00	m ²	2,000	1,464,000
敷 石 水 路 工	524.00	m ²	1,470	770,280
山 腹 編 柵 工	220.00	m	270	59,400
連束柴敷水路工	560.00	m ²	947	530,320
計	—		—	7,273,284
雑 費	—		—	727,000
合 計	—		—	8,000,284

午後一時三十分厚澤出立、一時五十分山下より自動車で午後二時東青梅驛に着き高岡、伏谷兩君と別れて午後二時八分發の電車に乗り立川驛で中央線に乗替へ吉祥寺驛で波多野君と別れ西荻窪驛で桑田君に別れ午後三時半新宿驛に着き山本、春木兩君に別れ市電で午後三時五十分無事青山の宅に歸る。

5.3.5「砂防」第54号 昭和十二年初夏の東京市水道水源地旅行日記

調査期間：昭和12年6月7日～13日

昭和十二年初夏の東京市水道 水源地旅行日記

度 山

六月七日(月) 晴、曇後小雨

午前六時晨起、七時青山の宅を出で明治神宮参道から青バスで原宿驛に行き省線で新宿驛に到る。時に七時二十分であつた。此の時傘を原宿驛に忘れたことを氣付き直ぐ原宿驛に引返へし驛員から傘を貰ひ再び新宿驛に到る。時に七時四十五分でまだ發車迄十五分間あつた。早く家を出たので、こんなつまらぬ事をして居ても尙時間があつた、丁度東京市の春木君が來たから共に松本行急行列車に乗込んで同伴者の來るのを待つた、五分遅れて波多野係長、山本君相次いで來た、十分遅れて前水源林所長で現今は某會社の重役(社長? 技師長?) のK君が來た、まだ發車迄五分ある、K君には珍らしく早かつたとの評である、之れで一行五人となつた。

列車は午前八時に發車した、八時半に立川驛に着く、東京府の阿部・高岡兩技師、本庄君、東京高農の學生浦井・櫻井兩君が乗込み一行は合計十人となつた。昨夜の大雨の爲めか今朝は珍らしく晴れて居つたが立川驛から曇り始め八王子驛では小雨になつた、之れは不淨の人が乗り込んだからだと言ふ惡口も出た。

十時半鹽山驛に着く、驛に山梨縣の守谷技師、河合鹽山出張所長、綠川其他の諸君が一行を迎へらる、明日落合で會ふ約束をして守谷技師に別れ自動車二臺に分乗して走ること約二里、十一時神金村番屋に着く、此處で休憩、宅から持參の握飯が中々美味かつた、正午出發、馬で坂路を登ること約一里半、午後一時半柳澤峠に着く、峠に水神社の大鳥居がある、總高三十二尺幅

二十四尺、柱の直径二尺四寸、上に掲ぐる額面の重さ四十二貫で實に大したものである。此處の標柱に海拔千四百七十米、鹽山を距る十二、九八九軒と書いてあつた。

少憩の後一行は二手に分れ阿部君一行は林相を視察する爲め泉水谷の方に向ふた、余は山本君、學生二名と共に峠を下り落合に向ひ二時半梅ノ木臺で馬をおりて昨年施行の砂防工事を視察し、三時半水道局林務掛の落合派出所に着き荷物を預け直ぐ葉廣、金場の兩量水堰堤を視察に出掛け五時派出所に歸る、丁度阿部君一行も派出所に着く、直ぐ名物の湯に入り食卓に着く、一座は一行に派出所の並木、小谷野兩君加はり十二名で山本君が取出した二幸の食料品と鹽山で買入れた酒で中々な御馳走であつた。食後に將棋と圍碁が始まり、余はT君と將棋をやつたが天井に吊したランプのおしりが盤の上に大きな丸い蔭を落したから暗くて負けた。九時床に入る。

六月八日(火) 小雨

午前六時晨起、雨の止むを待つたが中々止まないから雨を冒して十時に徒步出發、犬切峠を越えて約一里半、正午市ノ瀬の保護員詰所に着く、此詰所には大野、河村兩君が居る、海拔千百六十五米の處である。

休憩晝飯を食す。

午後二時半出發、犬切澤に入り昨年度竣功の練積石堰堤を視察した、其工費明細書は次の通りである。(口繪参照)

犬切澤練積石堰堤竣功明細書

長^{上市17,7}_{下市14,0}米 高2米放水路上^{9,0}_{下7,0}米 深1,0米 水表直 堤冠1,0
水裏3分 堤底1,9 1立方米當12圓458弱

名	稱	寸	法	數	量	單位	單價	金	額	備	考
體	積			59.00	立方米		四	四			
積	石	野面又は割石		102.20	平方米		2.98	304.55			
玉	石	控0,5米		7.90	立方米		1.29	10.19			

名 稱	寸 法	數 量	單位	單 價	金 額	備 考
混 凝 土		19.70	立方米	12.53	246.84	
膠 泥		1.70	〃	22.35	37.99	
床 堀		100.50	〃	95	95.47	
基礎工事		6	組	5.21	31.26	枠 1 組長3米巾2米
人 夫		10.25	人	85	8.71	
計		—	—	—	735.01	

犬切澤練積張石水路工竣功明細書

長 2.5米 巾10.0米

1 平方米 6圓89

名 稱	寸 法	數 量	單位	單 價	金 額	備 考
張 石	控 0.4—0.5米	25.00	平方米	—	—	
混 凝 土		4.18	立方米	12.53	52.37	
膠 泥		41	〃	22.35	9.16	
床 堀		25.00	〃	—	—	
割 石 工		7.50	人	1.60	12.00	1平方米に付0.3人
張 石 工		5.40	〃	1.60	8.64	〃 0.216人
人 夫		3.00	〃	85	2.55	割石工手傳人夫 1平方米に付0.12人
〃		6.23	〃	85	5.29	張石手傳人夫 1平方米に付0.25人弱
〃		39.00	〃	85	33.15	張石運搬人夫 1平方米に付1.56人
〃		27.00	〃	85	22.95	床堀人夫 1平方米に付1.08人
〃		5.00	人	85	4.25	雜役人夫 1平方米に付0.2人
基礎工事		4.20	組	5.21	21.88	枠1組 長さ3米 巾2米
計		—	—	—	172.24	

犬切澤練積護岸工竣功明細書

長 3.5 米 高さ 1.5 米 2 本

1 平方米當 5 圓 960

名 稱	寸 法	數 量	單位	單 價	金 額	備 考
積 石	控 0.4—0.5米	10.50	平方米	—	—	
混 凝 土		1.80	立方米	12.53	22.55	

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
膠 泥		18	立方米	22.35	4.02	
裏込玉石		8.40	〃	—	—	
床 堀		4.20	〃	—	—	
割 石 工		2.00	人	1.60	3.20	1平方米に付0.19人
積 石 工		2.00	〃	1.60	3.20	1平方米に付0.19人
人 夫		1.30	〃	85	1.10	割石工手傳人夫 1平方米に付0.123人強
〃		2.20	〃	85	1.87	積石工手傳人夫 1平方米に付0.207人強
〃		14.75	〃	85	12.53	積石運搬人夫 1平方米に付1.40人強
〃		9.00	〃	85	7.65	玉石採集運搬人夫 1立方米に付1.07人強
〃		5.00	〃	85	4.25	床堀人夫 1立方米に付1.19人強
〃		2.60	〃	85	2.21	雜役人夫 1平方米に付0.25人弱
計		—	—	—	62.58	

次に昭和八年度に築設した堰堤の破壊した跡を視察しつゝ、犬切峠に出で五時落合に着き高橋川及び柳澤の量水堰堤を見て六時派出所に歸る。

量水堰堤の水位は此頃の雨で高く次の通りである。

量水堰堤名	越水堰幅	水 位	流 域 面 積
葉 廣	1.0 米	6.0 糎	117 ヘクタール
金 場	1.0 米	10.0 糎	122 ヘクタール
高 橋	1.0 米	10.0 糎	800 ヘクタール
柳 澤	11.5 米	8.8 糎	1300 ヘクタール

本月六日に二十七耗の降雨があつて葉廣澤では一時間半の後に水位の最高五糎に達したと。

山梨縣の佐藤林務課長、守谷技師、河合鹽山出張所長、三枝君、深澤君の五人が派出所で余の歸るを待つて居られた、佐藤課長を名物の湯に案内し七時晚餐を始めた、食卓に着くもの十七人で中々盛んであつた、食後圍碁と將

棋で時の過ぐるを知らず十二時床に入る。

六月九日(水) 雨

午前三時人聲が喧しいので眼を醒ますと女中が病氣で高橋の實家へ送り返す騒ぎであつた。

午前六時晨起、雨止まず、佐藤、河合、深澤の三君は急用があつて七時半出發鹽山へ下る、余等一行は出發に先だち水神社に參拜し十時雨を冒して出發、徒歩約二里、三條橋で丹波山派出所の濱中、飯田、金子三君の出迎を受け之れより約一里午後一時丹波山村に着く、村の入口で守屋助役其他有志數名が一行を出迎へられた。

野村旅館に荷物を預け直ぐ鹽ノ山に行き明治四十年の水害で出來た中洲上の松林内に張られたテントの下で雨中晝飯の御馳走になつた。

午後三時雨が止んだので鹽ノ山の工事を見る、本工事は山梨縣直營工事で守谷技師の説明を聽いた。(此工事に關する記事は砂防第四九號にあるから略す)

午後五時野村旅館に入る、午後七時から晚餐會を始めた、食卓に着くものは阿部、高岡、本庄(東京府)

波多野、春木、山本、濱中、飯田(東京市)

守谷、三枝、畑(山梨縣)

浦井、櫻井(東京高等農林學校學生)

兒玉君及び度山

の十五名であつた。

今夜は十數年前に於ける駒場運動會の M (林實應援團長)、T (八百米選手) 兩君の懷舊談で花が咲いた。

午後十一時三枝君宅を訪問し十二時宿に歸り床に入る。

六月十日(木) 晴

午前六時晨起、今日は天氣が良くて山の新緑が素晴らしい、雨上りの山を見ると檉其他の若葉が濡れたまゝ朝陽に輝き始めた、實に心持が良かった。

午前八時半丹波山村を出發、徒歩二里、午前十一時鴨澤に着く、氷川派出所の齋藤君が一行を出迎へらる。

舊知の大室方で休憩、十一時半飯田君に別れ自動車二臺に分乗して走ること約二里半、十二時小河内村貯水用堰堤の築設個處で下車、視察して波多野君から説明を聞く、其要旨は次の通りである。

目下東京市は小河内貯水池建設事務所を設置して着々堰堤築設の準備を進めて居る。即ち此處に堰堤を築設して多摩川の本流を堰き止め一大貯水池を築造し洪水時の溢流水を貯留し置き渇水時に之を放流して流量を調節せんとするものである。此堰堤は混凝土造で高さ百四十九米、長さ三百二十米で堤冠の厚さ八米、堤底の厚さ百三十米、水表の法略垂直、水裏法八分二厘、體積百三十八萬立方米で建設費は約二千四百萬圓である。

此目的は多摩川より導水する村山山口貯水池の給水能力一日最大約四十八萬噸（立方米）に對して約九割増し即ち九十萬噸に擴張せんとするもので貯水池は小河内、丹波山、小菅の三村に跨り其大さは下流より上流の最長距離十一軒、最大幅員二軒満水面周長三十六・六軒、満水面積四百二十五ヘクタールで河口湖と略類似し一億八千四百萬立方米の水を貯へ得るものである。

之れより走ること約二里、零時半氷川派出所に着き休憩、辨當を食し兒玉君に別れて午後二時自動車で出發、途中寺池の砂防工事を視察す。本工事は大正八年度乃至十年度の東京府土木課直營砂防工事で工費約二萬圓を投じたものである。

此處で學生に別れ走ること約一里、午後三時大澤に着く、此處から自動車が通らぬので徒歩すること約二里、午後五時日原詰所に着く、此詰所は本年出來たものである。詰所の庭に樹高五十糎のタウヒを旅行記念として植ゑた

今夜は原島豊君の宅で御馳走になる。食卓についた人々は阿部、高岡、本庄、水上、小林（東京府）、守谷、三枝、畑（山梨縣）、波多野、青木、山本、齋藤、福田（東京市）の諸君と余の十四人で府縣別の順で謡ひ舞ふ大騒であつた。武骨な手拍子を打つて俚謡を怒鳴つた人もあり、M君、H君、T君、のダンスとA君の壺阪は秀逸であつた。

今夜は本旅行中の最も愉快な夜で時の移るを知らず、十二時床に入る。

六月十一日(金) 晴

午前六時晨起、丹波山村に歸る守谷、三枝、畑の三君を見送り余等一行は八時半出發、日原川の本流に沿うて遡ること約一里半、十時一石神社に着く。これより小川大日谷に入り昭和八年度築設の練積石堰堤を視察した。

其の構造及び工費は次の通りである。

全 長	32. 米	堰 堤 體 積	524.18立方米
敷 長	17.3 米	土砂床堀體積	611.4 立方米
有效 直 高	6.5 米	岩切取體積	4.67立方米
放水路敷長	12. 米	放水路上長	16. 米
放水路敷幅	2. 米	放水路深さ	2. 米
堰 堤 敷 幅	3.95米	天 端 幅	1.60~1.34米
水 表	1 分	水 裏	2 分

練積石堰堤の工費内譯表

名 稱	長	幅	法高 末口	數 量	單位	單價	金 額	摘 要
練積石堰堤	m 32.00	—	—	524.18	立方米	円	4,983.290	
積 石	面 36 控 54	—	—	524.18	〃	—	—	
混 凝 土	—	—	—	183.46	〃	11,427	2,096.420	積石1立方米當り 0.35立方米
石 工	—	—	—	356.54	人	2,000	712.900	積石工1人當り 1.47立方米強

名	稱	長	幅 法高 末口	數 量	單位	單價	金 額	摘 要
石	工	—	—	61.50	人	2,000	123,000	積石割取1人當り 0.85立方米強
人	夫	—	—	483.40	〃	1,000	483,400	石工手傳、石工1人に 付1.36人弱
〃		—	—	704.85	〃	1,000	704,850	積石採運1人當り 0.74立方米
〃		—	—	333.26	〃	1,000	333,260	混凝土搗固其他仕上 一式
床	堀	—	—	616.07	立方米	—	—	
土	砂	—	—	611.40	〃	—	—	
岩	盤	—	—	4.67	〃	—	—	
石	工	—	—	30.85	人	2,000	61,700	岩盤切取1人當り 0.15立方米
人	夫	—	—	467.76	〃	1,000	467,760	土砂掘取搬出共1人 當り1.30立方米強

位置は良くない様である。此處から引返へし再び本流に沿うて進み行くことと約一里、十二時待岩で辨當を食し一時出發歸途に着き途中ミヅキ箸の製造を視て其説明を聞き二時半詰處に歸る。

此地方は私有林で杉林多く又ミヅキ林がある、日原はヤナギ箸の産地で其用材にミヅキ林を要するからミヅキを植栽して居る。材質は天然生に及ばぬとのことであるが研究する必要がある。

植栽ミヅキの樹齡を見るに直徑九糎で二十三年であつた。

午後六時晚餐をなす。今夜はM君の居ないのと昨夜の疲れとで皆元氣なく靜かに食事を済まし九時床に入る。

六月十二日(土) 小雨

午前一時波多野君のゴマ油騒で眼を醒まし眠れず困つた。

午前六時晨起、小雨の爲め出發を見合せて居つたが止まないから濡れる覺悟で十時四十分出發、日原川右岸に在る已ノ戸澤の練積石堰堤を視察した。此堰堤は十一年度の工事で其構造及び工費は次の通りである。

全 長 21. 米 敷 長 2 米

敷 幅	5.5 米	有効直高	7. 米
放水路敷長	8. 米	放水路上長	11. 米
放水路敷幅	2. 米	放水路深さ	1.5 米
天 端 幅	1.55米	水 表	2, 分
水 裏	3. 分	堰 堤 體 積	263.99立方米
土砂床堀體積	113.92立方米	岩切取體積	18.86立方米

練積石堰堤の工費内訳表

名 稱	形状	数 量	單位	單 價	金 額	備 考
練積石堰堤	—	263,990	立方米	円 —	2,573.23	
積 石	—	263,990	同	—	—	野面又は割石
混 凝 土	—	105,600	同	11,692	1,234.71	積石體積ノ4割強
岩 盤 切 取	—	18,860	同	—	—	
床 堀	—	113,920	同	—	—	
石 工	—	12,550	人	2,000	25.10	岩盤切取り 1人當り1,503立方米弱
同	—	52,803	同	2,000	105.60	積石拵へ 1人當り5立方米弱
同	—	175,910	同	2,000	351.82	積石工 1人當り1,501立方米弱
人 夫	—	9,450	同	1,000	9.45	切取岩屑片付 1人當り2立方米弱
同	—	56,950	同	1,000	56.95	床堀土砂搬出並に埋戻共 1人當り2立方米強
同	—	527,980	同	1,000	527.98	積石採運 1人當り5立方米弱
同	—	175,990	同	1,000	175.99	積石工手傳夫 石工1人に付1人強
同	—	85,630	同	1,000	85.63	混凝土突込目塗り其他仕上 一式1人當り3.083立方米弱

放水路の位置が悪い様である。此少し上流に山腹工事がある、工種は山腹石積、張石水路及び萱筋工で面積は四ヘクタール工費は千圓で其詳細は次の通りである。

空積山腹石積工の工費内譯表

名 稱	形 狀	數 量	單位	單價	金 額	備 考
空積山腹石積工		1,004.00	平方米	2,069	2,077.10	竣功數量
積石	面 0.2米以上 控 0.3米	1,004.00	同	—	—	野面又は割石
礫	徑 0.05米以上	502.00	立方米	—	—	積石1平方米に付 0.5立方米
床 堀		754.00	米	—	—	1.5米のもの500米 法高1.0米のもの254米
石 工		171.80	人	2,000	343.60	積石工1人當り 5.84平方米強
人 夫		171.80	同	1,000	171.80	石工手傳夫 石工1人に付1人
同		761.80	同	1,000	761.80	積石採運 1人當り1.32平方米弱
同		476.13	同	1,000	476.13	礫採集運搬人夫 1人當り1.054立方米強
同		260.77	同	1,000	260.77	床堀其他仕上一式
常 備 夫		56.00	同	—	63.00	1.00圓のもの28人 單價1.25〃のもの28人

張石水路工の工費内譯表

名 稱	形 狀	數 量	單位	單價	金 額	備 考
張石水路工	—	541.00	平方米	1.54	833.14	竣功數量
張 石	—	541.00	同	—	—	野面又は割石
礫	—	216.40	立方米	—	—	張石1平方米に付0.4立方米
床 堀	—	391.00	米	—	—	1.5米のもの300米 弧長1.0米のもの 91〃
石 工	—	75.74	人	2.00	151.48	張石工1人當り 7.143平方米弱
人 夫	—	60.60	同	1.00	60.60	石工手傳夫 石工1人に付0.8人強
同	—	359.20	同	1.00	359.20	張石採集運搬夫 1人當り1.51平方米弱
同	—	109.00	同	1.00	109.00	礫採運 1人當り1.985立方米強
同	—	47.46	同	1.00	47.46	床堀其他仕上一式
常 備 夫	—	93.00	同	—	105.40	1.25のもの31人 單價1.15のもの31人 1.00のもの31人

萱筋工の工費内譯表

名	稱	數 量	單位	單 價	金 額	備 考
萱 筋 工		7,000.00	米	円 弱 1.468	円 1,027.51	竣工數量
法	切	250.00	アール	—	—	
萱	株	1,400.00	束	—	—	萱筋工1米に付0.2束
ニセアカシヤ	苗	7,400.00	本	1000本に付 6.900	51.06	} 11,100本 萱筋工10米に付1.59本弱
山 ハンノキ	苗	3,700.00	本	1000本に付 7.700	28.49	
人	夫	50.00	人	1.000	50.00	萱採集運搬1人當り10.06米
常 備	夫	82.00	同	—	91.70	單價0.950のもの13人 10.06
	同	77.00	同	950	73.15	米強 萱株植付1人當り90.9米強
人	夫	124.26	同	1,000	124.26	} 階段切付 1人當り44.80米弱
常 備	夫	32.00	同	950	30.40	
	同	62.00	同	—	72.15	苗木假植小運搬植付其他仕 上一式
	同	442.00	同	—	506.30	單價 { 1.25のもの 31人 1.15のもの 16人 1.00のもの 15人 1.25のもの 184人 1.20のもの 91人 1.15のもの 16人 1.10のもの 15人 1.00のもの 60人 0.95のもの 76人

尙此下方に堰堤を築設する必要があると思ふ。十一時半詰所に戻り辨當を
食べる。

午後一時出發、徒歩三里、午後三時半氷川に着き直に乗合自動車に乗り鳩
ノ巢に下車、對岸の保安林編入豫定地を視察し府直營の林道及び雲仙橋を視
察した。

此の如き急な岩石地の樹木を伐採すれば再び樹木を生ずること困難である
から早く保安林に編入して取締ることが必要である。

これより再び自動車に乗り四時半御岳和歌松に着く、氷川より此處まで約
二里半、午後五時半東京府の桑田君、次いで青梅農林學校の牧君來り晚餐を
共にし十時床に入る。

六月十三日(日) 晴

午前五時晨起、十時出發、自動車二臺に分乗して吉野村に行き河岸の荒廢林地復舊工事を視察した。昭和八年度の工事で工種は空積山腹石積工、張石水路工、練積護岸石積工及び萱筋工でニセアカシヤの植栽は成績宜しく中には伐採を要するものもある。

此工事の施業面積及び工費は次の通りである。

施業地面積 13.9 ヘクタール 植栽面積 3.4ヘクタール
 竣功金額 11,225圓 着手年月日 昭和8年7月15日
 竣功年月日 昭和9年3月31日

空積山腹石積工の工費内譯表

名 稱	形 状	数 量	單位	單價	金 額	備 考
空積山腹石積	—	695.00	平方米	1.61	1,118.64	竣功數量
積 石	面 .20米以上 控 .30米	695.00	同	—	—	
礫	徑 0.05米以上	347.50	立方米	—	—	1平方米當り 0.5立方米
床 堀	—	495.00	米	—	—	平均 1.5米のもの400米 法當 1.0米のもの95米
石 工	—	78.74	人	2.00	157.48	積石工53.5平方米 1人當り 6.79平方米強
人 夫	—	50.85	同	1.00	50.85	積石人夫160平方米 1人當り 3.15平方米弱
同	—	104.16	同	1.00	104.16	積石手傳積石工 1人に 付き 1.32人強
同	—	458.65	同	1.00	458.65	積石採運 1人當り 1.52平方米弱
同	—	139.00	同	1.00	139.00	礫採集運搬 1人當り 2.5立方米
同	—	208.50	同	1.00	208.50	床堀其他仕上一式

張石水路工の工費内訳表

名 稱	形 状	数 量	単 位	単 價	金 額	備 考
張石水路工	—	405.00	平方米	円 1.324	円 536.08	竣功數量
張 石	面 .15米以上 控 .23米以上	405.00	同	—	—	
礫	徑 .5米以上	162.00	立方米	—	—	1平方米當り0.4立方米
床 堀	—	405.00	米	—	—	
石 工	—	57.14	人	2.00	114.28	張石工 1人當り7.09平方米弱
人 夫	—	57.14	同	1.00	57.14	石工手傳石工1人に付1人
同	—	201.28	同	1.00	201.28	張石採運 1人當り2.012平方米強
同	—	63.68	同	1.00	63.68	礫採集運搬 1人當り2.54立方米強
同	—	53.20	同	1.00	53.20	床堀其他仕上一式
常 備 夫	—	15.00	同	2.00	30.00	計30人
		15.00	同	1.10	16.50	圓 同

練積護岸石積工の工費内訳

直高3米法 3分厚さ0.7米

名 稱	形 状	数 量	単 位	単 價	金 額	備 考
練積護岸石積	—	70.00	米	円弱 14.812	円 1,036.93	竣功數量
積 石	面 .20米以上 控 .30米以上	219.10	平方米	—	—	1米當り3.13平方米
玉 石 混 凝 土	—	102.90	立方米	円弱 5.916	608.76	1米當り1.47立方米
礫	—	63.00	同	—	—	1米當り0.9立方米
床 堀	—	70.00	米	—	—	
石 工	—	36.07	人	2.000	72.14	積石工 1人當り6.07平方米強
人 夫	—	36.07	同	1.000	36.07	石工手傳 石工1人に付1人
同	—	201.11	同	1.000	201.11	積石採運 1人當り1.09平方米弱
同	—	54.38	同	1.000	54.38	礫採運 1人當り1.16立方米弱
同	—	64.47	同	1.000	64.47	床堀其他仕上一式

萱筋工の工費内譯表

名 稱	形 狀	數 量	單位	單 價	金 額	備 考
萱 筋 工	—	13,500.00	米	四強 1.11	1,485.47	竣功數量
法 切	—	340.20	アール	—	—	
萱 株	{ 莖長.25米 打違.90米 繩メ	4,050.00	束	—	—	
ア カ シ ヤ 木	—	8,000.00	本	1,000本 6.70	53.60	{ 13,000本 1米當り0.96本強
山 ハ ン ノ キ 木	—	5,000.00	同	1,000本 6.20	31.00	
人 夫	—	414.48	人	1.00	414.48	萱株採集運搬3,448束 1人當り8.32束弱
常 傭 夫	—	13.00	同	2.00	26.00	同
	—	13.00	同	1.30	16.90	計52人72.15圓
同	—	13.00	同	1.15	14.95	602束1人當り
	—	13.00	同	1.10	14.30	11束58弱
人 夫	—	126.91	同	1.00	126.91	萱植付 1人當り106.4米弱
同	—	52.84	同	1.00	52.84	苗木假植小運搬並に植 付5,046本1人當り 95.5 本弱
常 傭 夫	—	15.00	同	2.00	30.00	計60人83.25圓7,954本
	—	15.00	同	1.30	19.50	
同	—	15.00	同	1.15	17.25	1人當り132.7本弱
	—	15.00	同	1.10	16.50	
人 夫	—	336.78	同	1.00	336.78	法切303.1アール1人當 り0.90アール弱
常 傭 夫	—	15.00	同	2.00	30.00	同 37.1アール1人當 り2.46アール強
人 夫	—	214.36	同	1.00	214.36	段切9,646米1人當り45 米弱
常 傭 夫	—	15.00	同	1.30	19.50	計61人45.50圓同 3,851米 1人當り63.18 米強
	—	46.00	同	1.10	50.60	

再び自動車に乗り十一時四十分青梅町東京府林業事務所に到り休憩、零時二十分青梅發の電車に乗り立川で乗替へ吉祥寺で波多野君に、西荻窪で阿部、桑田、高岡の三君に、中野で本庄、春木の兩君に、新宿で山本君に別れた、余は新宿で山手線に乗替へ二時原宿驛で下車した切符の誤りで驛員に呼止められ不足料五錢を取られ漸く二時半歸宅した。之れは余の不注意でもあるが青梅驛の誤りで原宿と云つたのを誤つて新宿の切符を賣つたので余は切符も

調べずに原宿と思つて居つたのである。切符は良く調べて受取るものであることを序に諸君に御注意申し上げます。

水源林を一巡して、余が所感を記すれば次の件々である。

第一、明治三十六年から今年まで三十五年かかつて東京府と東京市とが約四千五百ヘクタールの面積に植栽した約一千八百萬本の樹木は一年生から三十五年生で、今は間伐の時期を過ぎて居るものがあるが運搬不便で之を伐採利用することが出来ない。従て除伐、間伐の時期も遅れて居る處が多い、之れを此儘に捨て置けば植栽樹木は共倒れになるのである。既に共倒れになつて居るところもあるから、水源林經營上の急務は水源林を縦貫する主道である山梨縣東山梨郡神金村から東京府西多摩郡小河内村に通ずる延長約四十軒の山梨縣道を改築して荷物自動車の通るやうになし、これに連絡して主副の林道網を設くることである。主副林道網が出来れば水源林の合理的施業を爲すことが出来る。

第二、東京市は府下西多摩郡小河内村に多摩川本流を堰き止めて一大貯水池を築設し洪水時の溢流水を貯溜し置き渇水時に之を放流して流量を調節せんと目下着々其準備を進めて居るが、水源地の砂防工事を速かに施行せなければ暴雨ある毎に崩壊地から土砂が流出し之れが堰堤の上流に沈積するから貯水池は次第に埋まり豫定した一億八千四百萬立方メートルの水量を貯へることが出来なくなる計りでなく、幾年かの後には池が全く埋まつてしまうことは明かである。池が埋れば二千四百萬圓を投じて築設した堰堤が其の用をなさなくなるのであるから、なるべく速に上流の砂防工事を施行せねばならぬ。

第三、水源林の保護に注意することが必要である。水源林の保護とは消極的に山林を伐採せず保存すると云ふことで無く人工林でも天然林でも適當の手入れをして更新することである。全く手入れせず天然のまゝにすて置けばよいと云ふ人があるが、それはあやまりである。天然のままにしておくと

老木は風水害に際して倒れて山地の崩壊を起し或は倒木が溪川に流れて溪岸を浸蝕するものである。森林が土砂を扞止して山地の崩壊を豫防する力は百年内外の壯齡林にあるもので二十年生以下の幼齡林や數百年生の老齡林では其の効力が少ないから森林の保護手入をすることが必要である。

水源林の仕事はなかなか六ヶ敷い仕事であるから東京市は明治四十三年に青梅町に水源林事務所を設け、水源林の經營に當らしめたのである。その創立當時は技師が三人技手が七人も居て其の經營にあたつて居たのであるが、近頃は水源林事務所が廢せられ水道局庶務課の林務掛なる一の掛となり、水源林の經營は縮少されたのである。これは誠に遺憾である。是非水源林事務所を復活するか、少なくとも林務課になることを希望する。

第四、東京市では土木用、建築用、公園用等に澤山の木材が入用であるから是等の用材で水源林から出るものは成るべく之を使用することにすれば、商人の手を経て木材を販賣及購入することが少なくなり、手数が省けて便利だと思ふ。

大正十二年の關東大震火災の爲めに東京市水道局に於て澤山の水栓が入用になつたから余は此應急策として又水源林に在るカラマツ材の利用途としてカラマツ丸太の水栓を使用したら如何との案を水道當局に話した。之れが動機となつて丹波山村に製材所を設け水栓を製作して水道局業務課へ賣ることになつたのであるが、之れが實行に於てはカラマツ丸太材の利用でなくてヒノキ材の利用且其註文中々六ヶ敷無節のヒノキ材でなくては合格せぬこととなり、水源林に於ては之れが爲めに天然生ヒノキ、タウヒを運搬不便の山奥から伐出して水栓を製作し水道局業務課へ賣つたのである。之れでは水源林の經營上より見ても宜しくなく且收支の點から言ふても利益がないばかりでなく損失となつたかと思はれたが、之れは其後中止となり此頃は公園課の方へ丸太材を供給して居るが之れは公園課の註文通りの丸太材を供給する爲めに市有林を伐採するのでなく、造林地の手入上必要な間伐を實施して其材を供給するのであるから公園課の註文通りに供給することが出来ない場合もある。若し公園課の註文通りの丸太材を是非無理に供給せんとすれば之れは間

伐でなく却て林相を不良になす木材の亂採である。此の如きは東京市で必要なる木材を水源林から供給すればよいと云ふ余の意見とは全く異なるのである。水源林經營に當る人は此點に能く注意して貰ひたい。余の意見は東京市に必要な木材で水源林にあるものは何でも彼でも伐採して其需要に應ぜよといふのではなく、水源林施業案に依り伐採出来る範圍で東京市の木材需用に應ずる様にすればよいと云ふのである。

第五、禿緒地の植栽は六ヶ敷いが普通の林地に於てヒノキ、スギ、カラマツの如き普通の造林樹の植栽は金があれば誰でも出来ることで、別に難事ではない。大面積を植栽して後の手入、間伐、利用はなかなか六ヶ敷ものである。之れを誤れば折角多額の經費を投じて三十五年間もかゝつて出来た四千五百ヘクタールの造林地は無茶苦茶になるのであるから水源林經營の任に當る人々は大に注意せねばならぬ。東京市に於ては水源林主腦部に變更があつて目下施業案の編成替中であるが、毎年除伐、間伐で伐採する多量の木材の利用方法を講究することが目下の急務である。

参考の爲め植栽面積及び本數を擧ぐれば次表の如し

年 度	面 積	本 數	年 度	面 積	本 數
自明治36年	町歩 494.14	2,199,755	〃 12年	町歩 176.00	636,500
至明治44年			〃 13年	172.00	546,140
明治43年	45.00	246,500	〃 14年	181.30	551,000
〃 44年	46.00	229,257	昭和1年	198.66	663,600
大正1年	157.00	875,535	〃 2年	93.00	345,100
〃 2年	201.00	934,700	〃 3年	99.70	384,450
〃 3年	325.00	1,536,250	〃 4年	93.00	323,700
〃 4年	372.00	1,916,270	〃 5年	78.00	282,000
〃 5年	379.00	1,687,450	〃 6年	76.00	261,600
〃 6年	313.00	1,293,060	〃 7年	32.00	114,000
〃 7年	160.00	568,800	〃 8年	40.00	160,000
〃 8年	109.00	360,000	〃 9年	32.00	105,600
〃 9年	127.00	464,000	〃 10年	75.76	307,400
〃 10年	136.00	493,000	〃 11年	77.00	107,600
〃 11年	168.60	642,300	計	4,457.16	18,235,567

〔備考〕 植栽樹種はヒノキ、カラマツ、スギ、サワラ、アカマツ、ケヤキ等なり。

5.3.6 砂防第86号 東京市水源林視察旅行記

調査期間：昭和17年9月10日～16日

雑 報

東京市水源林視察旅行記

度 山

昭和十七年九月十日（木）曇

午前八時半新宿發、九時九分立川驛着、水源林事務所長山田實君、東京府青梅地方事務所林務課の入交保雄君が乗込む。十一時半鹽山着直ちにバスに乗り青梅街道を走ること約一里半、午後一時小田原橋着。落合事務所の山下泰治君の出迎を受け休憩辨當。之れから徒歩約半里、黒門裂石の木炭倉庫着休憩。市有林で焼いた木炭を此處迄馬背で運搬し之れからトラックで鹽山に運び鹽山より汽車で東京市に運ぶのである運賃は四貫目俵一俵に付落合から、此處迄五十錢、之れから東京迄八十錢なりと云ふ。木炭の生産費を聞くに焼賃七十錢、俵代十七錢、縄代八錢、検査料三錢なりと。

東京市が生産したものを山梨縣又は東京府が検査するは全く不必要のことである。東京市水源林事務所には木炭検査の出来る技術者が居る筈であるから、山梨縣及東京府に於ては東京市水源林で製造した木炭の検査は水源林技術者に任せ、其生産數量及等級を報告せしむる事にしては如何かと思ふ。午後三時出立、約一里、四時柳澤峠下に到る。此處で落合事務所の近藤隆、福田酉三、梶榮一の三君の出迎を受けた。五時柳澤峠着休憩。峠の大鳥居がない。之れは腐朽して倒れたので取方付焼いたとのことである。之れから落合へ下り一里である。途中雷雨に出會ひ御屋敷の民家で休憩。唐モロコシの馳走になり六時半落合事務所着。

此夜、山田、入交、近藤、山下、福田、梶の諸君と夕飯を共にす。

九月十一日（金）晴

午前九時出立、近藤、山下、福田三君の案内で一ノ瀬に向ふ。十時犬切峠着。少憩の後、砂防工事を視る。工種は練積石堰堤と山腹編柵である。此處は昭和十一年に山梨縣の補助を受けて實行した工事が全部破壊して再築した處であるが、今回は堰堤は大石を使用して丈夫に出来て居り山腹に植栽したニセアカシヤが良く繁茂して居る。

正午、一ノ瀬詰處着晝飯。午後二時出立、木炭倉庫を視察した。駄馬が不足で運搬が出来ない爲め在庫品四千五百俵あり、此内には昭和十五年に焼いたものもあるとのことと誠に遺憾に思ふ。

此頃政府は木炭の増産を奨励する爲に製炭夫に米、味噌、酒、ゴム足袋、石油等の特配し、且つ一俵に付き八錢の奨励金を與へる様になつたと聞く。勿論之れも木炭増産の一方法ならんが、東京市に木炭不足の原因は公定價格の比較的安い爲めである。製炭夫は一俵に付き五六十錢の焼賃を取り、其一日の賃金は約三圓にも當り未曾有の收入である。然るに之れに尙此奨励金を加ふれば製炭夫の收入は益々多くなるが、木炭の生産費には變りがないから此奨励法では木炭の生産量は増加するが、木炭は依然として東京市に出ないのである。

抑も我國は森林國で木炭を製造する資材は豊富であるから、木炭は何萬俵でも生産することは出来るが、其場所が深山幽谷で鐵道其他運搬機關のない處であるから之れを都會に運ぶことが容易でない。故に水源林には澤山に木炭があつても東京市では不足して困つて居るのである。水源林では本年度も一萬俵位は生産する計畫であるから木炭は澤山に生産出来るが、之れを車道運ぶには人力か駄馬に依らねばならぬ。然るに人口稀薄の部落で且つ此頃はにまで駄馬の頭数が減少したから運搬が思ふ様に出来ない。且つ諸物價騰貴の爲め運賃が高くなつたから、木炭を生産しても利益がないので木炭の公定價格を高くしなければ山奥の木炭は都會に出ない。故に政府から奨励金を出

すなら之を製炭夫に與へるよりも其金を運搬費に補助する方が得策である。
或は鐵道省に於て木炭運賃を特に割引することも木炭増産配給の一方法である。故に本年冬に必要な木炭は應急の處置として駄馬を陸軍から一時借用して現在山奥にある木炭を搬出して使用するがよい。而して根本策としては森林内に車道を造るか、或は軌道を敷設して木炭及薪材を搬出するがよい。勿論之れと同時に砂防工事の施行が必要である。砂防工事を施行しないと車道も軌道も大雨毎に破壊され其用を爲さぬ。

之れから本年度の山腹法切を視察して午後四時落合に歸る。

落合事務所に於ける砂防新設並修繕苗木養成及砂防植栽地手入事業の設計書は次の通りである。

金四千六百九拾貳圓六拾貳錢也

内

金四千五百八拾七圓六拾貳錢也

金壹百圓也

金五圓也

外に

金四百七拾六圓八拾錢也

計 畫 說 明

右は山梨縣東山梨郡神金村字萩原山東京市有林内市ノ瀬川流域グズバ大栗澤及柳澤川流域高橋川流域市ノ瀬川流域に於て山腹工事並溪流工事修理及砂防植栽地手入苗木養成事業を要するに依り前記金額を目途とし直傭を以て人夫を使役し直轄工事を施行するものとす。

豫 定 工 期

自昭和十七年八月十八日、至昭和十八年三月三十一日

工 種 別 内 譯

場 所	名 稱	單 位	員 數	單 價	金 額	摘 要
萩原山、市ノ瀬川流域大栗澤グズバ澤	山 腹 工 事 丸 太 柵 工	米	3,100	円 .70 *.084	円 2,170.00 *260.40	別紙明細書の通り *は市有林採集材料見積價格、以下同

計 萩原山 葉廣苗圃	編 柵 工	1,100	米	.70	770.00	
				*.104	114.40	
	柳 筋 工	3,000	米	.35	1,050.00	
				*.03	90.00	
	粗朶伏水路工	60	米	1.25	75.00	
				*.20	12.00	
	計	—	—	—	4,065.00	
				—	*476.80	
	苗木養成	0.10	HA	—	—	
	掘 取	33,000	本	—	—	
計 萩原山、柳澤 川、高橋川、 市ノ瀬流域	掘 取 人 夫	22	人	2.50	55.00	一人一日 1,500 本
	撰苗並假植人夫	11	人	2.50	27.50	にせあかしや山田 30,000本 にせあかしや床掘 3,000本 一人一日 3,000本
	苗木採集	10,000	本	—	—	附近市有林より採集
	同採集人夫	10	人	2.50	25.00	一人一日 1,000本
	培養人夫	25	人	2.50	62.50	除草(三回分) 0.10HA 當 五人 緑肥敷込(二回分) 0.10HA 當五人
	計	—	—	—	170.00	
	砂防植栽地手入	5.00	HA	—	—	柳澤川流域 1.00HA 高橋川流域 3.00 市ノ瀬川流域 1.00
	手入人夫	49	人	2.50	122.50	昭和十四年度施行以前
	没流工事 空積床固工	13	立方 米	—	230.12	別紙工明細書の通り 大功澤第二號練積石堰堤補 強工事
	合 計	—	—	—	4,587.62	
器 具 材 料 雜 費 總 計	唐鋸修繕其の 他	—	—	—	*476.80	
		—	—	—	100.00	
		—	—	—	5.00	應急手當用品
總 計		—	—	—	4,692.62	
					*476.80	

第1號

山腹丸太柵單價表 (高サ 0.3 米) 1 米當リ

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
杭 木	長 1 米 末口徑 0.06 米	1.5	本	四 *.016	四 .024	市有林内より採集
小 丸 太	長 3 米 中央徑 0.06 米	1.	〃	*.030	.030	落葉松除伐材 市有林内より採集
柳 挿 穂	長 0.3 米 1 米繩ノ	1.	束	—	—	直徑 1 糎以上 〃
苗 木	伸長 0.5 米	3.	本	*.010	.030	市苗圃養成苗、にせあかしや
人 夫		.14	人	2.50	.35	法切階段切付杭打込柵作一式

人 夫		.10	〃	2.50	.25	柳挿穂小丸太採集運搬人夫
人 夫		.04	〃	2.50	.10	苗木植付柳挿穂其ノ他仕上一式
計		.28		—	*.084 .70	

第2號 山腹編柵單價表 (高サ 0.3 米) 1 米當リ

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
杭 木	長 1 米 未口徑 0.06 米	1.5	本	* .016	.024	市有林内より採集
粗 朶	元口 0.03 米 長 3 米	5.	〃	* .010	.050	〃
柳 挿 穂	長 0.3 米 1 米繩	1.	束	—	—	〃
苗 木	伸長 0.5 米	3.	本	* .010	.030	市苗圃養成苗 にせあかしや
人 夫		.14	人	2.50	.35	法切階段切付杭打込柵搔一式
人 夫		.10	〃	2.50	.25	柳挿穂杭木粗朶採集運搬人夫
人 夫		.04	〃	2.50	.10	苗木植付柳挿穂其ノ他仕上一式
計		.28		—*	.104 .70	

第3號 柳 筋 工 單 價 表 1 米當リ

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
柳 挿 穂	長 0.3 米 徑 0.03 米	2.	束	—	—	萱株を以て代用するを得
苗 木	1 米繩 伸長 0.5 米	3.	本	* .010	.030	市苗圃養成苗 にせあかしや
人 夫		.08	人	2.50	.20	法切階段切付
人 夫		.02	〃	2.50	.05	柳挿穂萱株採運人夫
人 夫		.04	〃	2.50	.10	柳挿穂苗木植付其ノ他仕上一式
計		.14		—*	.030 .35	

第4號 山腹粗朶伏水路單價表 1 米當リ

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
杭 木	長 1.0 米 未口徑 0.06 米	3.	本	* .016	.048	市有林内より採集
粗 朶	長 3 米 直徑 0.4 米	1.0	束	* .152	.152	1 米 3 束を使用市有林内より採集
人 夫		.30	人	2.50	.75	粗朶伏路掘取伏込杭打込覆土

人 夫	.20	//	2.50	.50	杭木粗朶採集運搬結束其の他 仕上一式
計	.50		—*	.200 1.25	

第5號 大切澤第二號練積石堰堤 工明細書
補強工事 空積床固

體積 12.90 長 7.00米 法 水表 直 厚 堤冠 1.00米
面積 28.5平方米 高 1.5米 水裏 3分 堤底 1.45米

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
體 積		12.90	立方 米	円	円	
積 石		28.50	//	6.25	178.12	第5號單價表の通り
玉 石		1.50	//	4.00	6.00	第6號 //
床掘土砂		23.00	//	2.00	46.00	第7號 //
計		—	—	—	230.12	

第6號 積 石 工 單 價 表 1立方米當り

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
積 石	控 0.4米	1.00	平方 米	円	円	
石 工		.20	人	4.50	.90	割石工
入 夫		.20	//	2.50	.50	割石工手傳人夫 石工1人に付1人
石 工		.30	//	4.50	1.35	積石工
人 夫		.30	//	2.50	.75	積石工手傳人夫 石工1人に付1人
人 夫		1.00	//	2.50	2.50	積石運搬人夫
人 夫		.10	//	2.50	.25	雜役
計		—	—	—	6.25	

第7號 玉 石 單 價 表 1立方米當り

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
玉 石	徑 0.1米以上	1.00	立方 米	円	円	
人 夫		1.60	人	2.50	4.00	
計		—	—	—	—	

第8號

床掘單價表

1立方米當リ

名 稱	寸 法	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
床 掘		1.00	立方	円	円	
人 夫		.80	人	2.50	2.00	
計		—	—	—	—	

九月十二日（土）曇

午前九時出立、葉廣澤の量水堤を見て事務所で少憩。次に金場澤の量水堤を見る。此堰堤は右岸の取付が悪く洩水して居る。急に修繕を要す。之れから曹達パルプ製造工場を視察したが、四萬圓も投じて設けた工場が赤字になるので目下製造を中止して居ると。

曹達パルプ製造事業は利益があるか、ないかまだ疑問の事業であるから、よく研究して創設すべきものである。調査不充分で創めたのは誠に遺憾である。

之れから落合川、高橋川の量水堤を視察して徒歩約一里半、午後一時三條橋に到る。此處で丹波山派出所の飯田淺吉君の出迎を受けた。休憩、唐モロコシで晝飯を済ます。

午後一時半、近藤、山下、福田、梶の諸君に別れて出立、午後三時丹波山派出所着、休憩。氷川町から春木繁季君が來た。

午後四時出立、山梨縣山林課の羽田民藏君の案内で東京市有林鹽ノ山の砂防工事を對岸から視察した。本工事は昭和十二年から着手した工事で面積三町歩に對し工費約十萬圓を投じたもので我國第一の墜石防止工事である。午後五時野村旅館に入る。

此夜、山田、春木、入交、飯田、羽田の諸君と夕飯を共にす。

九月十三日（日）曇後雨

午前八時出立、山梨縣荒廢林地復舊事務所に立寄り休憩。羽田君の案内で

鹽ノ山工事を視察した。工種は山腹練積石工、練張水路、石筋工、萱株筋工で工費内譯は次の通りである。

昭和十七年度施業經費内譯書

工 種	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
山 腹 練 積 石 工	707.5	平方米	16.600	11,744.500	
練 張 水 路 工	133.4	〃	11.000	1,467.400	
石 筋 工	150.0	米	2.350	352.500	
萱 株 筋 工	908.0	〃	.700	635.600	菰萱株の交植とす
小 計	—	—	—	14,200.000	
雜 費	—	—	—	1,410.000	
計	—	—	—	15,610.000	

備考 石工日當六圓、人夫日當三圓二十錢

十時四十分、東京市小河内貯水地建設事務所工事課親川出張所着、休憩。唐モロコシで晝飯を済まし十一時四十分出立。時に雨降り出す、御祭部落の處から新設の後山林道を視察した。此林道は長サ二、二〇〇米、幅四米、工費約三萬一千圓である。築立部分多く石垣の破壊する處あり修繕をなさねば使用は出來ぬ。之れ設計が悪く、工費豫算も少く使用出来る林道の出來ない事は着手前から明かであつたのである。之れから青岩谷片栗谷五平指窪の伐木小屋に到り休憩。此谷は明治三十五年に本多先生が東京府有林を設け最初に植栽された所で、實に立派な杉林である。目下之れを間伐して居る。

此處に昭和十六年度に飯田君が設計及監督して施行した空積堰堤があつたが良く出來て居る。其構造及工費は次の通りである。

長さ上一二米、下七米、直高四米、放水路幅上七米、下六米

水表法 直、水裏法〇・二五、堤冠厚三米、堤底厚三米

體積 九九・九立方米、積石 一〇八・七平方米

工費 一、四四七・三四圓

午後二時出立、三時十分縣道口に戻れば工事課の堀田金彦君が待受けられた。之れから自動車で酒井村長宅に立寄り少憩。四時出立、五時氷川町着、三河屋旅館に入る。

此夜、東京府主任技師大島弘、青梅地方事務所林務課長高岡信平、入交保雄、山本東、王子造林事務所山本保雄、東京市水源林事務所長山田實、小田大助、春木繁季、鷹巢傳、吉澤貞次、齋藤武彦、並木茂、阿部宏壽の諸君と晚餐を共にした。

九月二十四日（月）晴

午前八時出立、治山治水協會で新設中の道場を視察した。本建築は前年度に出来る豫定であつたが色々の都合で未出来である。

次に小河内貯水池建設事務所に行き工事課長兒玉琢夫君に面會、工事の説明を聞く。之れから自動車で現場に行き二十五トン、五十トンのクレーンの据付工事、大堰堤の床掘を視察したが實に大仕掛である。余は嘗て王井の大同ダムの工事を視察したが到底其比でない。

午前十一時半東京府青梅地方事務所氷川分室（事業所）に入り辨當。

此建物は高岡技師の次男に當るもので西八王子に在る長男よりも小さいが其位置が非常によく居心地の良い建物である。

午後二時出立、五時半、日原着東京府詰所に入る。此の夜、高岡、入交、山本(東)、山田、春木、小谷野藤吉、原島豐の諸君と夕飯を共にす。

九月十五日（火）雨

午前八時出立、雨を冒して日原川上流に進み東京市水源林で本年度新設する林道豫定線を視察す。九時一石山神社着。小川谷に於ける東京府直營の荒廢林地復舊工事を視察す。高さ三米の空積石堰堤あり、其の上流に高さ二米の空積石堰堤があるが其距離が餘り近く、又石材が餘り小さい。成るべく大

石を使用するがよい。

其の設計書は次の通りである。

施業地面積 4.70 ヘクタール

施業理由 本施業地は多摩川支流日原川小支小川谷流域に位し地勢急峻を極め地質は秩父古生層より成り而して本崩壊地は関東大震災に端を發し爾後大豪雨毎に崩壊擴大し治水上憂慮に堪へざるものあり依て之が復舊工事を施行し國土保安と林地生産力の恢復を圖らんとす。

其の他 土地所有者より施行承諾書を徴し

工作物は本府之を所有し施行後の管理保護に遺憾なきを期す。

施業經費 金七千圓也

施業經費内譯書

工 種	數 量	單 位	單 價	金 額	備 考
空積石堰堤工	1.	個	円 —	1,792.00	別紙内譯表の通り
山腹空積工	400.00	m ²	6.00	2,400.00	別紙單價表の通り
空張水路工	210.00	m ²	4.475	939.75	//
石 筋 工	420.00	m	10m當り 13.25	556.50	//
萱 筋 工	2,458.00	m	10m當り 2.75	675.95	//
計	—	—	—	6,364.20	
雜 費	—	—	—	636.00	別紙明細表の通り
合 計	—	—	—	7,000.00	圓位未滿切捨

空積石堰堤工内譯表

名 稱	形 状	數 量	單 位	單 價	金 額	摘 要
石 堰 堤	長 15m 直高 3.0m	91,865	m ³	円 —	円 —	
築 石	面 0.40m以上 控 0.60m	91,865	m ³	—	—	
岩盤切取		30,124	m ³	—	—	
床 掘		92,928	m ³	—	—	

石	工		60,248	人	3.000	180.744	岩盤切取石工 1 人に付 0.50 m ³
石	工		36,746	人	3.000	110.238	割石工 1 人に付 2.5m ³ 築石採集
石	工		91,865	人	3.000	275.595	築石工 1 人に付 1.0m ³
人	夫		46,464	人	2.000	92.928	床掘夫 1 人に付 2.0m ³
人	夫		15,062	人	2.000	30.124	岩盤切取取片付夫 1 人に付 2.0m ³
人	夫		367,460	人	2.000	734.920	築石採集運搬夫 1 人に付 0.25m ³
人	夫		183,730	人	2.000	367.460	築石工手傳夫 石工 1 人に付 2 人
計			—		—	1,792.009	

山腹空積工單價表

1m²當り

法 3 分 法高 1.00m~1.50m

名 稱	形 狀	數 量	單位	單 價	金 額	摘 要
野 面 石	面 0.20m 以上 控 0.30m 以上	1.00	m ²	—	—	直營採集積石用
礫	徑 0.05m 以上	0.50	m ³	—	—	〃 裏込用
石 工		0.25	人	3.00	.750	積石工 1 人に付 4.00m ²
人 夫		0.25	人	2.00	.500	積石手傳夫 石工 1 人に付 1 人
人 夫		1.25	人	2.00	2.500	積石採集運搬夫 1 人に付 0.8m ³
人 夫		.625	人	2.00	1.250	礫採集運搬夫 1 人に付 0.8 m ³
人 夫		.050	人	2.00	1.000	床掘其他仕上一式
計		—		—	6,000	

空張水路工單價表

1m²當り

弧形仕上 孤巾 1.00m~1.50m

名 稱	形 狀	數 量	單位	單 價	金 額	摘 要
野 面 石	控 0.30m 以上	1.00	m ²	—	—	直營採集積石用
礫	徑 0.05m 以上	0.40	m ³	—	—	〃 裏込用
石 工		0.125	人	3.00	.375	張石工 1 人に付 8.00m ²
人 夫		0.15	人	2.00	.300	張石手傳夫 石工 1 人に付 1.2 人
人 夫		1.00	人	2.00	2.000	張石採集運搬夫 1 人に付 1.00m ²
人 夫		0.50	人	2.00	1.000	礫採取運搬夫 1 人に付 0.8 m ³

人	夫	0.40	人	2.00	.800	床掘其の他仕上一式
計		—	—	—	4.475	

石 筋 工 単 價 表

10m 當り
法高 0.60m

名 稱	形 狀	數 量	單位	單 價	金 額	摘 要
野 面 石	控0.25m以上	6.00	m ²	円 —	円 —	直營採集
萱 株	長 0.25m 打違徑0.30m	1.0	束	—	—	〃
苗 木	(アカシヤ)	10.0	本	.015	.150	1年生
石 工		0.25	人	3.00	.750	積石工 1 人に付40m
人 夫		0.60	人	2.00	1.200	法切夫
人 夫		0.25	人	2.00	.500	階段切付夫 1 人に付40m
人 夫		5.00	人	2.00	10.00	積石採集運搬夫 1 人に付 1.2m ²
人 夫		0.125	人	2.00	.25	萱株採集運搬夫 1 人 = 付 8 束
人 夫		0.10	人	2.00	.20	萱株植付夫 1 人に付100m
人 夫		0.10	人	2.00	.20	苗木假植小運搬其の他仕上 一式
計		—	—	—	13.250	

萱 筋 工 単 價 表

10m 當り

名 稱	形 狀	數 量	單位	單 價	金 額	摘 要
萱 株	長 0.25m 打違徑0.30m	2.0	束	円 —	円 —	直營採集
苗 木		10.0	本	.150	.015	アカシヤ 1 年生
人 夫		0.60	人	2.00	1.20	法切夫
人 夫		0.25	人	2.00	.50	階段切付夫 1 人に付40m
人 夫		0.25	人	2.00	.50	萱株採集運搬夫 1 人に付 8 束
人 夫		0.10	人	2.00	.20	萱植付夫 1 人に付100m
人 夫		0.10	人	2.00	.20	苗木假植小運搬植付其の他 仕上一式
計		—	—	—	2.75	

之れから上流は瀧で行くことが出来ないの、之れで引返し十一時詰所に

歸り晝飯。

午後〇時半出立、大雨を冒して三時氷川町着、事業所の庭園に紀念として公孫樹（高さ八尺八寸、直徑一寸）を植栽した。

三時十九分發のバスで御嶽に行き和可松旅館に入る。

此夜、東京府の高岡信平、入交保雄、青梅農林學校教諭牧駿夫及三浦清。東京市の山田實、春木繁季、小田大助、鷹巢傳、齋藤武彦、並木茂、阿部宏壽の諸君と晚餐を共にす。

九月十六日（水）晴

午前九時發の青梅電車で九時十八分青梅驛下車、新設の東京府青梅地方事務所に立寄り、十時半青梅發電車に乗り立川で乗替へ、午後一時澁谷着、二時半歸宅した。

エブナー博士の小講演

荻原貞夫

これは私が盟邦ドイツの若き林學者アダルベルト・エブナー博士に隨行して東京帝國大學農學部附屬愛知縣演習林を視察したとき、丁度同演習林へ砂防實習に來合せた三重高等農林學校林學科學生の爲に同博士の行つた講演の内容である。前以て用意されたものではなく、私等が演習林を去る直前であつた爲に約 15 分間といふ例外的に短い講演ではあつたが、その内容は同博士が日本に於て屢々行はれたものとは可成りその趣を異にしてゐたので、譯者の私も少からず興味を覺えた。講演の前に「思ひつくまゝに斷片的にやります」と云つて居られた通り、一貫した主題は見られないが、時間と聽衆とに適合する内容を選ばれた點は大いに敬服せざるを得ないと思ふ。場所は同演習林學生寄宿舍製圖室、時は昭和17年10月10日午後0時15分であつた。

×

×

×

5.3.7 砂防第92号 昭和十八年東京都水源林視察旅行記

調査期間：昭和18年10月25日～11月3日

資 料・調 査

昭和十八年東京都水源林視察旅行記

度 山

十月二十五日（月）曇後雨

午前十一時半出發午後一時立川驛着、一時十分發の青梅電車で一時四十五分青梅着、西多摩郡地方事務所林務課を訪ひ入交保雄君其他と面談、二時二十一分發の電車に乗る、車中で本旅行案内役の東京都林務課の木暮六郎、高山始、水源林の阿部宏壽の三君と會す、二時半御岳驛着バスで三時半氷川町着、三河屋旅館に入る。四時、山田(實)所長、高岡(信平)技師の案内で二十三日以來水源林視察中であつた四方(謙治)林務課長一行が着いた。午後五時日本樽材株式會社事務の桑田治君が來た。

此夜四方課長、山田所長、高岡技師、木暮、高山、阿部、齋藤(武彦)、桑田、原島町長、木村源兵衛の諸君と夕飯を共にす。食後四方課長、山田所長は所用あり歸京。

十月二十六日（火）晴

午前九時出立、高岡技師の案内で目下築設中の大澤林道を視察し帝國治山治水協會の資源寮を訪ひ板垣指導員の案内で内部を視察し栽松（最小）庵で休憩、十一時半東京都西多摩郡地方事務所林務課分室に立寄り辨當。午後零時半出立、原島氏の案内で四時、日原の水源林派出所に着、一行は高岡技師、木暮、高山、阿部の諸君である。

十月二十七日（水）晴

午前八時出立、小谷野藤吉君の案内で日原川に沿ふて林道を視察し本年度

築設の林道終點一石山神社の上流瀧に到り、之れから引返して正午日原事務所に戻り晝飯。午後一時出立途中都道改修監督小屋で少憩、四時十五分水川着、五時二十分發のバスで六時小河内村湯場着、建設部、川鍋太助君の出迎を受け鶴屋支店に入る。

此夜高岡、木暮、高山、阿部、川鍋の諸君と夕飯を共にす。

十月二十八日（木）晴

午前九時出立、小河内村助役小澤君の案内で峰谷川入口の隧道工事を視察す。此工事は東京都水道局建設部工事課の工事で設計は高さ七尺、巾九尺であるが之れではトラック運搬に差支へるから村民の希望で高さ九尺、巾十二尺に変更するとのことである。十一時川野の恵比壽屋着、晝飯、午後一時出立川鍋、小澤兩君に別れて小管村に向ふ、四時小管村大屋旅館着、一行は高岡高山、阿部の三君である、寢床に入る前にH・T・D・R君が警察署に届ける宿帳に落書して館主に非常識者と叱責され陳謝して、一枚書直したのは本旅行の記念材料である。

十月二十九日（金）晴

午前九時出立、黒須晴一郎君の案内で小管川に沿つて上り川入谷を視察し正午大屋旅館に戻り晝飯。午後二時出立、三時大田和峠着、飯田淺吉君の出迎を受けた。少憩の後黒須君に別れて出立、四時丹波山村野村旅館に着く、旅館前に山梨縣山林課の玉木捨藏、羽田民藏、出羽達行の三君が待つて居た。

十月三十日（土）晴

午前九時出立、羽田君の案内で同君が建てた鹽ノ山砂防工事記念碑を視察した。碑は高さ四尺、巾二尺五寸の天然石で其表面には「治山治水 諸戸北郎書」と刻み其裏面には次の文字を刻んである。

本鹽ノ山荒廢林地復舊工事は山梨縣技師守谷輝太君の設計、同技手三枝勳、羽田民藏兩君の監督の下に工費九萬七千九百餘圓を投じ昭和十

一年一月二十七日起工、同十八年三月三十一日竣工したるものにして
我國に於ける未曾有の難工事なり故に此碑を建て、記念とす。

昭和十八年五月

東京帝國大學名譽教授

正三位勳二等林學博士 諸 戸 北 郎 識 す

之れから飯田君の案内で丹波川に沿ふて縣道を下り支流後山川に入り林道を視察した。正午終點黒瀧で晝飯味噌汁の馳走になる、林道は幅員四米で十七年度分延長二二〇〇米、工費三萬一千圓、十八年度分延長千二百米、工費四萬二千圓である、午後一時半歸路に就く、西多摩地方事務所の角（忠治）林務課長、入交技手は縣道改修事務所で山田所長は鹽ノ山で一行に加はり同道して五時丹波山村、野村旅館に歸る。

此夜山田所長、高岡技師、角技師、高山、入交、阿部、飯田の諸君と夕飯を共にした。

十月三十一日（日）晴

午前八時半出立飯田主任の案内で丹波川に沿ふて縣道を上り正午三條橋に着、近藤(隆)技師の出迎を受け逆瀬川の林道及大正十一年前西君が施行した石堰堤を視察し三條橋畔で辨當、午後一時半出發、飯田君に別れ近藤君の案内で途中路傍の樹木を調査しつゝ落合に向つて進み午後四時落合着、水神社に參詣し記念樹としてモミを植栽した。此樹の大きさは樹高一・〇四米、根元周圍七纏である。六時頃東京から木暮六郎君來る。

此夜、山田、高岡、角、木暮、高山、入交、阿部、玉木、羽田、福田西三の諸君と夕飯を共にした。

十一月一日（月）晴

午前八時半出立、山田所長の案内で九時金場澤の潤葉樹林間伐試験地着、近藤君、山田所長の説明を聞く、此の試験地は十月二十七日に山林局の近藤

(助)技師が指導した場所である。其法は林木をA・B・C・Dの四級に別ちB級の樹木を伐採してA級の樹木を將來用材として仕立てんとするものである。從來水源林の施業方針は有用樹種を残存せしめて他は薪炭材として伐採したものであるが從來の方針で良いと思ふ、且此澤は澤口に量水堰堤を設けて大正四年以來雨量と林相との關係を研究して居る場所で禁伐地になつて居るのである。然るに此澤の流域内に在る樹木を伐採するとは實に非常識である。

午前十時半出發、建設部の山路君から落合部落より柳澤峠に至る縣道改修工事設計の説明を聞きつゝ進み正午柳澤峠着辨當、午後零時半出發一時半五郎田着、山梨縣山林課花井(武司)技師の出迎を受け二時鹽山を通過、二時十五分勝沼町パノラマ遊園地(志村好治)着休憩、葡萄の馳走になり三時出發四時甲府市着、縣廳に伊藤(正斌)林務課長を訪ひ、午後五時、玉木君の案内で暖露館に入る、此旅館は明治四十年の大水害の時に宿泊したのが最初で大正九年迄泊つた宿である。五時半伊藤課長の招待で八百竹に行き伊藤課長、花井技師、吉田(健)技師、關倫三郎技師、玉木君と晚餐を共にし九時半歸宿。

十一月二日(火)晴

午前十時トラックで花井技師、玉木君の案内で甲府市出發十一時山梨縣中巨摩郡清川村着、村長の案内で清川の砂防工事を視察す、此工事は明治四十年の大水害地の復舊工事として四十五年頃田中八百八君が山梨縣技師時代に設計實施したもので空積堰堤は大石を使用してある。併し堰堤の法は土木式の緩勾配である。又堰堤の間は張石水路になつて居るが其後の水害で多量の土砂流出し水路は埋設してしまつて用をなさぬ其後下流に立派な石堰堤が出来て居るが、尙上流に堰堤を築設する必要がある。又山腹に植栽したハンノキヤシャブシは立派に成長して居るが餘り高くなつて居るから伐採してやるがよい、最早樹令が高いから萌芽は六ヶ敷い、或は下枝を残して伐採しては如何かと思ふ。之れが萌芽しなくても雜木が自然に生じて立派な雜木林となる

ことは確かである。視察を終へて岡田太郎君方で休憩。赤飯、蕎麥の馳走になり正午出發。零時半甲府市に戻り荷物を持つて石和町に向ひ午後一時半甲運樓に着、伊藤課長、吉田技師、關技師、鈴木實、定森季夫、關戸等の諸君が一行を待たる、晝食の御馳走になる。高岡技師其他一行は石和驛で乗車歸京の途に就き、余は花井、玉木兩君の案内でトラックで三時半出發黒駒村で黒駒勝藏の生家を見て御坂峠を越へて午後五時河口湖畔のフジ・ビュー・ホテルに入る。

余は明治四十年の水害の時に水害調査に出張して河口湖を視察したことがあるが、災害後であつた爲めかよい所と思つて居なかつたが、今見る河口湖の風景は實に絶景で山中湖の及ぶ處でない。

十一月三日（水）晴

午前九時出立、約一時間散歩した、本日は明治節で非常に好天氣であるから徒歩旅行者は多いが自動車なく、バスにも容易に乗れぬから紳士風の旅行者は無い、ホテルの客も僅か九人内獨逸人三人、泰人三人、余一行三人である。十時トラックに乗り正午甲府市皆平寮に着支那料理の馳走になり、午後一時出發一時半龍王驛に至り一時五十二分發の列車で花井技師に別れ玉木君同伴歸京の途に就き五時半新宿着、六時半無事歸宅した。

本旅行は昭和十九年度に東京都に於て要する薪二千萬束の内壹千萬束を東京都内で（内二百萬束を水源林内で）生産する必要があるを以て之れが出来るや否やを實査する爲めの旅行であつた。

薪材にする立木は水源林内に澤山あるが之れを伐採するに勞力を要す又運搬は鐵索に依るか木馬に依るかトラックに依るか軌道に依るか車輛に依るか或は水運に依るか何れに依るにしても勞力が必要である。今や山村の勞力は木炭及用材の生産で手一杯であるから、薪を生産搬出に要する勞力は之れを他に求めねばならぬ之れが難問題である。

寒さより都の民を救はんと

薪を尋ねて甲斐路歩めり

この冊子は、一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構の「木村基金」の助成により作成されたものです。